

報

告

書

本委員等曩ニ大命ヲ拜シ英國倫敦ニ於ケル海軍軍縮會議ニ參列シ帝國政府ノ訓令ヲ體シ折衝ヲ重ネタルカ同會議ノ經過及之ニ關スル本委員等ノ措置ニ關シテハ既ニ隨時報告ヲ爲シタル處今任ヲ了ルニ當リ復命ノ爲茲ニ既報ノ諸點ヲ綜合輯錄シテ當路ノ清鑒ニ供セントス

昭和十一年三月十二日

全權委員 海軍大將 永野修身(印)

同 特命全權大使 永井松三(印)

内閣總理大臣 廣田弘毅殿
外務大臣 廣田弘毅殿
海軍大臣 永野修身殿

帝國全權部

昭和十年倫敦海軍軍縮會議報告書

昭和十一年三月十二日

目 次

第一章 總 說	一
第二章 會議ノ構成	七
第一節 英國政府ノ會議招請ト各國ノ受諾	七
第二節 帝國政府ノ訓令	九
第三節 各國全權團ノ構成	一三
第四節 會議議事順序	一五
第三章 會議開催前ノ交渉	一七
第一節 日英第一回會談(昭和十年十二月七日)	一七
第二節 日佛第一回會談(十二月七日)	一〇
第四章 第一回總會(開會式)(十二月九日)	一三
第五章 帝國提案ノ審議	二一
第一節 委員會ニ於ケル討議ノ經過	二一
第一款 第一委員會第一回會議(十二月十日)	二一
第二款 日本案ニ對スル質問集	三六
第三款 第一委員會第二回會議(十二月十一日)	三七
第四款 第二委員會第三回會議(十二月十二日)	四一

第五款	第一委員會第四回會議(十二月十三日).....	四三
第六款	首席全權會議(十二月十六日).....	四九
第七款	第一委員會第十回會議(昭和十一年一月十五日).....	五二
第二節	私の會議ニ於ケル折衝.....	五二
第一款	日英第二回會議(十二月十三日).....	五二
第二款	日英第三回會議(十二月十六日).....	五六
第三款	日佛第二回會議(十二月十六日).....	六〇
第四款	日米會議(十二月十七日).....	六一
第五款	日佛第三回會議(昭和十一年一月七日).....	六六
第六章	英國建艦計畫宣言案ノ審議.....	六七
第一節	第一委員會第五回會議(昭和十一年十二月十七日).....	六七
第二節	第一委員會第六回會議(十二月十九日).....	七一
第三節	第一委員會第七回會議(十二月二十日).....	七五
第四節	第一委員會第八回會議(昭和十一年一月六日).....	八一
第七章	建艦通報ニ關スル英佛伊提案ト帝國全權ノ量的問題先議要求.....	八五
第一節	英佛伊ノ提案及佛伊案ノ審議.....	八五
第一款	英佛伊ノ提案.....	八五
第二款	日佛第三回會議(一月七日).....	九〇
第三款	第一委員會第九回會議ニ於ケル佛伊案討議(一月八日).....	九三
第四款	日伊會議(一月十三日).....	九五
第二節	帝國全權ノ量的制限問題先議要求.....	九八
第一款	第一委員會第九回會議(一月八日)ニ於ケル我方ノ量的制限問題先議要求.....	九八
第二款	日英第四回會議(一月九日).....	一〇〇
第八章	帝國ノ會議脱退ノ經緯.....	一〇三
第一節	帝國政府ノ最後の態度決定.....	一〇三
第二節	日英第五回會議(一月十三日).....	一〇三
第三節	第一委員會第十回會議(一月十五日)ニ於ケル日本案最終審議.....	一〇七
第四節	帝國ノ會議脱退.....	一六六
附、會議脱退後ノ交渉.....		一九九
第一節	我方「オブザーバー」ノ參加.....	一九九
第二節	潛水艦使用制限問題.....	一九九
第三節	日米建艦不競争共同宣言問題.....	二〇〇
第四節	太平洋防備制限條項問題.....	二一

附屬書：

第一號	英國政府ノ會議招請狀
第二號	帝國政府ノ回答
第三號	各國全權及隨員氏名
第四號	日本案ニ對スル質問集
第五號	英國ノ建艦計畫宣言案
第六號	英國ノ豫告竝ニ相互通報案
第七號	佛國ノ豫告竝ニ相互通報案
第八號	伊國ノ自主的量的制限案
第九號	第一委員會第九回會議議題
第一〇號	第一委員會第十回會議ノ議事手續案
第一一號	帝國ノ脫退通告文(昭和十一年一月十五日附)
第一二號	右ニ對スル委員會議長ノ答翰(一月十六日附)
第一三號	帝國ノ「オブザーヴァー」參加方ニ關スル第一委員會議長宛書翰(一月三十日附)
第一四號	第一委員會「コミュニケ」

第一章 總說

昭和十年倫敦海軍軍縮會議報告書

、英國政府ハ昭和十年十月二十四日附在英藤井代理大使宛公文ヲ以テ華府及倫敦兩海軍條約ニ基ク會議ヲ同年十二月二日(註)ヨリ倫敦ニ開催シタキ趣ヲ以テ帝國政府ノ參加方ヲ招請越セルニ依リ帝國政府ハ十月二十九日藤井代理大使ヲシメタルカ米佛伊ノ諸國亦同様ノ招請ニ接シ之ヲ受諾セリ

(註) 會議ハ其ノ後十二月九日開催ノコトニ開會直前ニ變更セラレタリ

議帝國ノ會
參加

一、帝國政府ハ十一月四日海軍大將永野修身特命全權大使永井松三郎兩名ヲ全權委員ニ任命シ之ニ訓令ヲ授クル所アリ
ニ於テハ開會後委員會ニ依リ議事ヲ進メントスル意嚮ナルコト判明セルカ我方トシテハ我主張貫徹ヲ圖ランカ爲ニハ尠
タモ之ト併行シテ私的會談ヲ行フヲ機宜ノ處置ト認メタルニ依リ會議開會前英佛側ト會談ヲ行ヒタルヲ始メトシテ爾來
會議中屢々各國ト虛心坦懐ナル意見交換ヲ行ヒ以テ我主張ヲ闡明スルト共ニ先方ノ眞意ヲ探ルニ努メタリ
而シテ開會前ノ英及佛トノ會談ニ於テハ我方力量的制限問題ヲ重視シ質的制限ノミノ協定ハ受諾スル能ハサル態度ヲ示
セルニ對シ英佛側ハ量的制限問題ノ惹起スル各種ノ困難ヲ指摘シテ直接量的制限ヲ行フコトニハ氣乘薄ニシテ寧ロ質的
制限ニ満足セントスル意嚮ヲ示シタルカ會議ニ臨ム根本的態度ニ關シ既ニ彼我ノ間ニ斯カル懸隔アル以上會議ノ前途容

易ナラサルヲ想ハシメタリ

開會式各
國ノ演說

三、本會議ハ十二月九日ヨリ倫敦ニ開催セラレ日英米佛伊ノ五國及英國自治領ヨリ代表參列シタル外國國際聯盟ヨリ「オブザーヴァー」出席セリ九日ノ開會式（第一回總會）ニ於テハ各國夫々其ノ一般的態度ヲ表明シタルカ先ツ英國側ハ華府倫敦兩條約ニ必要ナル修正ヲ加ヘテ其ノ原則ヲ繼續スヘキコトヲ主張シ又質量兩方面ノ縮減、殊ニ潜水艦ノ全廢ヲ要望シ潛水艦全廢不可能ノ場合ニハ其ノ濫用禁止ヲ一般的ニ協定スルコト必要ナリト述ヘ、米國側ハ現行條約ヲ基礎トスル一率縮減ヲ唱ヘ、佛國側ハ質的制限ニ賛シ短期建艦計畫公表ヲ可トス云ヒ、伊國側ハ技術ノ急激ナル發達ニ鑑ミ海軍問題ノ長期ニ亘ル嚴格ナル解決ヲ圖ルハ容易ナラサルヘシト指摘シ、我方ハ帝國ノ傳統的平和政策ニ言及シタル上海軍國間ニ於テ其ノ保有海軍兵力量ノ超ユヘカラサル共通限度ヲ定メ且之ヲ出來得ル限り低下スルコトヲ根本トシ且攻擊的兵力ハ極力之ヲ縮減シ防禦的兵力ハ之ヲ整備シ以テ軍縮ノ實ヲ舉クルト共ニ各國間ニ不脅威不侵略ノ事態ヲ確立スルコトヲ基礎トセル我根本方針ヲ闡明セリ

四、右總會以後ハ各國ノ全權全部ヲ以テ組織セラルル第一委員會ニ於テ討議ヲ行フコトナリ十二月十日第一回會議ヲ開催、英米ヨリ夫々總會ニ於テ述ヘタル自國ノ態度ヲ更ニ敷衍說明スル所アリ次テ我全權ハ國家安全ノ爲ニ必要トスル軍備ヲ有スルノ權利ハ各國ノ齊シク享有スル所ニシテ軍縮協定ハ此ノ義ヲ尊重シ國防安全感ヲ害セスシテ不脅威不侵略ノ事態確立ヲ原則トセサルヘカラスト前提シタル上總會ニ於テ述ヘタル我根本方針ヲ更ニ説明シ航空母艦及爲シ得レハ主力艦ノ全廢ヲ提議シ又國防上及國民負擔ノ輕減上量的問題ノ重要ナルヲ指摘シテ之カ先議ヲ要望シタリ其ノ結果最初ニ日本案ヲ議題トスルコトトナリ佛伊ノ態度説明アリタル後直ニ日本案ノ審議ヲ開始シ爾來同委員會及首席全權會議ノ席上五回ニ及リテ日本案ノミ繼續討議セラレタリ

右討議ニ於テハ最初日本案ニ對シ各國ノ質問集（共通最大限ノ適用範圍如何、同案ハ大海軍國ノミ拘束セラレ不公正ナラスヤ、各國ノ必要及責任ノ相違ニ拘ラス同一兵力トスルコトカ安全感ヲ增大スヘキヤ等）提示セラレタルニ付我方ヨリ

リニ對スル説明トシテ

(一) 共通最大限ハ日英米三國ニ適用セラレ右限度ハ日本ノ兵力以下ニ定メタキ意図ニシテ大海軍國カ大ナル犠牲ヲ拂フハ當然ナリ (二) 各國國防ノ脆弱性ノ差異ノ最大原因ハ兵力ニ不當ナル差等アルカ爲ナルヲ以テ右差等ヲ撤廢シテ共通最大限ヲ設クルト共ニ攻撃的兵力ノ縮減ニ依リ不脅威不侵略ノ事態即チ安全ヲ確立セントスルモノナルカ各國國防ノ脆弱性ノ相違ニ對シテハ互ニ研究ノ上量ノ内容ニ適當ノ調節ヲ加フルニ客ナラストノ趣旨ヲ述ヘタル處

右ニ對シ他國側ヨリ (一) 三國ノミニ適用スルコトハ手續トシテ反對ナリ（英佛伊）又三國ノミニ適用スルトスレハ他國トノ間ニ比率ヲ生スヘシ（英）(二) 華府條約ハ防禦ノ均衡ヲ確保セリ右ハ兵力ノ平等ニハ非ス若シ兵力ヲ均等トスレハ平等ハ覆ナル（英米）(三) 共通最大限ヲ日本兵力以下トスルカ如キハ不可能ナルカ之ヲ高ク定ムレハ各國ノ建艦ヲ誘致シ軍擴トナルヘシ（英米）(四) 調節云々ト云ハレタルカ兵力ニ差等ヲ設ケヌシテ如何ニシテ各國異ナル脆弱性ニ應シ得ルヤ（英）等主張シタリ仍テ我方ヨリ

(一) 共通最大限ハ各國希望スルニ於テハ五國間ニテ審議スルニ異議ナク (二) 華府條約ハ大戰後ノ偶然的事實ヲ基礎トセルモノニシテ各國ニ安全ノ平等ヲ與ヘタリトハ認メス (三) 帝國提案ハ共通最大限ヲ設クルト共ニ攻撃的兵力ヲ縮減スルヲ以テ他ヲ脅威セス從テ建艦競争トハナラスト重ネテ説明シタル處

米國側等ハ華府海軍條約、四國條約及九國條約ハ各國ニ平等ナル防禦ノ基礎ヲ與ヘ現ニ不脅威不侵略ヲ實現シ居レルニ付吾人ハ華府條約ノ原則ニ依ルヘキナリ又共通最大限ハ各國ニ付異ナル責任及必要ト兩立セス、更ニ兵力ノ攻撃的防禦的ノ區別ハ不可能ナリト主張シ我方ト他國側トノ見解ハ根本的ニ相對立シテ論議毫モ進歩セサルニ至レリ

我方ハ右委員會ニ於ケル説明ノ外英國側ト私的會談ヲ重ネテ其ノ了解ヲ得ルニ努メタルカ英國側ハ世界ニ亘リ重大ナル責任ヲ有スルヲ理由シテ日本案ニ同意シ得スト爲シタルニ對シ我方ヨリ右ニ對シテハ適當ノ調節ヲ加ヘントスルモノニシテ其ノ結果英國ノミハ共通最大限以上若干ノ兵力ノ保有ヲ認メラルコトトナリ得ヘキ旨ヲ述ヘタル處英國側ハ我

方ノ理解アル態度ヲ謝シ尙他國トノ關係ヲ調整スル爲脆弱性委員會設置ヲ可トスルニ一應合意ヲ見タルカ我方ハ其ノ後右委員會設置力必スミ我主張貫徹上有利ナラサルヲ認メタルニ依リ引續キ第一委員會ニ依リ討議ヲ續行シタル旨ヲ英側ニ申入レタル處英側ハ然ラハ同委員會ニ於テ「日本ハ共通最大限ノ下ニ於テ如何ニシテ各國國防ノ脆弱性ニ應シ調節ヲ行フヤ」トノ質問ヲ發シ之ニ對シ日本側ヨリ説明スルコトトシ以テ討議行詰リヲ避ケタシ但シ場合ニ依テハ一應日本案討議ヲ打切り英國提案ニ移リタシト述ヘタルニ依リ我方之ヲ諾シタリ

斯クテ十二月十六日首席全權會議ノ席上先ツ前回發言セサリシ伊國側ヨリ軍備ノ自主權ニハ贊成ナルモ量的制限ハ困難ナリトテ同國ノ主張ヲ繰返シタル後議長ハ「本會議各位ノ等シク聞カント欲シタル所ナルヘシ」ト前提シタル上「日本側ハ如何ニシテ各國ノ各種ノ所要ニ應スル様共通最大限内ニ於テ調節ヲ行ハントスルヤ」トノ質問ヲ發シ右ニ對シ我方ヨリ脆弱性ノ差異ノ主タル原因ハ兵力ノ差等ニアルカ故ニ兵力ヲ均等トスレハ右差異ハ除去セラルヘキモ尙差異アルトキハ兵力ノ内容等ニ多少ノ調節ヲ加フレハ足ルト從來ノ説明ヲ繰返シタル處英米側ハ事實上比率ヲ設クルニ非スンハ如何ニシテ調節シ得ルヤフ解シ得スト述ヘ佛伊側モ調節ハ結局比率ナリト指摘セリ茲ニ於テ議長ハ日本案ハ之上討議スルヲ止メ會議外ノ會議ニ委スコト可然ト述ヘ結局採決ヲ行ハス單ニ一應審議ヲ結了シタル形ニテ英國側提案ノ建艦計畫宣言案審議ニ移レリ其ノ後我方ハ米國側ノ希望ニ應シ之ト私の會議ヲ行ヒタルカ米國側ハ日米均等ハ米國ヨリ比島及「アラスカ」ノ防護力ヲ奪フモノニシテ安全ノ平等トハナラス米國トシテハ到底日米均等ヲ受諾スル能ハスト力説スルト共ニ日米間ニ暫定的ニ一ノ便法ヲ講セんコトヲ示唆シタルカ之ニ對シ我方ヨリ米國海軍ノ優勢カ日本ニトリ脅威タルコトヲ反覆説明シ且右便法カ現存條約ヲ基礎トスルモノナルニ依リ之ヲ受諾シ得サルコトヲ答ヘタリ

五、斯クテ第一委員會第五回會議ヨリ英國側提示ノ各國カ一定期間ノ建艦計畫ヲ協議ノ上一方的形式ニテ宣言スヘントノ所謂建艦宣言案審議セラレタルカ我方ハ同案ハ國防自主權ノ均等ヲ掲クルモ事實上ハ現行比率ノ繼續ニ資スルモノナルノミナラス何等軍縮ノ實ヲ舉クルニ足ラサルモノナリトテ之ニ反対シ、米國側ハ英案ノ如キ妥協案ニ依ルノ已ムヲ得サ

英案ノ討
議狀況我方ノ量
問題先議
要求

ルヲ認ムルモ軍縮トナラサル點ニ於テハ日本ト同意見ナリト云ヒ、佛伊側ハ英案ハ事實上比率ノ存續トナリ又現今ノ國際政局ノ變轉及技術ノ進歩ニ照シ期間長キニ過クトテ之ニ反対シ審議未了ノ儘「クリスマス」休暇ニ入レリ

六、斯クテ英案ニ對シテモ各國ノ反対相當強キモノアリタルカ本年（昭和十一年）一月六日ヨリ會議再開セラルヤ佛伊側ハ夫々自國ノ立場ヨリ短期建艦計畫宣言ニ事前通報ヲ加味セル案ヲ提出シ之ト同時ニ英國側ハ單ナル建艦通報案ヲ提示シタル爲會議ハ右三案ノ討議ニ入り漸ク量的問題ヲ離レントスル形勢トナリタリ而シテ一月八日第九回會議ノ議題ハ「建艦ニ關スル情報交換問題ニ對スル英佛伊三國案ノ討議」トアリタルニ依リ我方ハ事態ヲ此ノ儘ニ放置センカ量的問題ハ有耶無耶ノ中ニ葬リ去ラレ質的制限其ノ他我方ヨリスレハ第二次的重要性ヲ有スルニ過キサル問題ニ入り且右ニ關シ協定成立スルカ如キコトトナラハ我根本主張ノ貫徹ハ益々困難ヲ加フルニ至ル虞大ナリト思考シタルニ依リ早キニ及シテ會議カ量的問題ヲ離ルルヲ阻止スルヲ必要ト認メ仍同日ノ委員會ニ於テ先ツ量的問題ノ審議ヲ盡シタル後其ノ他ノ問題ニ及フコトシタル旨ヲ要求シ且佛伊案中情報交換ニ關スル部分ニ付テハ同日ノ委員會ニテハ一切意見ヲ留保スルノ態度ニ出テタリ

右ニ對シ英國側ハ翌一月九日我方ニ會議ヲ申出テ若シ日本カ量的問題先議ヲ要求スルニ於テハ結局日本案ニ付採決ヲ行フノ外ナキコトトナルモ右否決ノ場合日本ハ會議ニ殘留スルヤト問ヒ且日本ノ脱退スル場合ニモ英トシテハ四國ニテ會議ヲ續行スルコトトナルヘク其ノ際ニハ日本ヨリ傍聽者參加ヲ希望ストノ趣旨ヲ述ヘタリ

七、右英國側ノ態度竝ニ委員會ノ情勢ニ鑑ミ我全權部ニ於テハ帝國ノ會議脱退ハ最早避クヘカラスト認メタルニ付事情ヲ具シテ請訓シ一月十二日回訓ニ接シタルニ依リ翌十三日英側ニ會見ヲ求メ回訓ノ趣旨ニ從ヒ此ノ際潛水艦使用制限問題等五國間ニ協定可能ナルモノヲ先ツ取纏メタル上日本案ニ付テ採否ヲ決スルコトナク共同宣言ヲナシテ一應會議ヲ終止セシムヘキコトヲ主張シタルモ英國側ハ之ヲ應諾セス飽ク迄會議續行ノ建前ヲ採リタリ但シ我提案ノ採決ハ之ヲ行ハナルコトニ同意セリ

斯クテ一月十五日第十回委員會ハ日本案ヲ議題トシテ開會セラレ我方ヨリ更ニ詳細懇切ニ我案ノ内容及目的ヲ説明シ各國ノ再考ヲ促シタルモ各國夫々反対意見ヲ繰返シ最後ニ議長ハ日本案カ支持ヲ得サリシコトヲ指摘シテ散會セルヲ以テ我方ハ同日議長宛脱退通告文ヲ送付シ茲ニ帝國ハ會議半ニシテ脱退スルニ至レリ其ノ後會議ハ日本ヲ除ケル四國ニテ續行セラレタルカ我方ヨリハ會議側ノ招請ニ應シ傍聴者ヲ出席セシムルコトトナレリ

八、以上之ヲ要スルニ帝國ノ軍縮提案ハ最初五回ニ亘リ委員會及首席全權會議ノ席上討議セラレタルノミナラス其ノ後英案上議セラレタル後モ我方ハ機會アル毎ニ英案ニ關聯シテ我方主張ノ阐明ニ努メ他方英米佛トノ數次ノ私的會議ニ於テモ我方ノ軍縮ニ對スル誠意ヲ披瀝シテ説明ヲ盡シタルモ他國側ハ途ニ我提案ノ根本義ヲ容ルニ至ラス又最後ニ我方カ五國間ニ協定可能ナルモノヲ取締メタル上共同宣言ヲナシテ一應散會センコトヲ英國側ニ申出テタルモ應諾セラレシリシ次第ナリ

以下右經過ヲ詳述スヘシ

第二章 會議ノ構成

第一節 英國政府ノ會議招請ト各國ノ受諾

一、昭和九年五月英國政府ノ發議ニ依リ同年六月ヨリ倫敦ニ於テ日英米佛伊五國代表間ニ倫敦海軍條約ニ基キ昭和十年（一九三五年）中ニ開催セラルヘキ海軍軍縮會議ノ準備トシテ豫備的二國間會議行ハレタルカ右會議ハ同年（昭和九年）末ヲ以テ一應終了シ帝國政府ハ華府條約ノ廢止ヲ通告セリ

翌昭和十年六月英獨間ニ海軍問題ニ關シ會議行ハレタル結果協定成立シ爾後英國政府ハ前頭海軍會議開催準備ノ目的ヲ以テ引續キ日米佛伊各國政府ト交渉スル所アリ結局同年（昭和十年）十月右四國ニ對シ華府及倫敦兩條約ノ規定ニ從ヒ開カルヘキ軍縮會議ヲ同年十二月二日ヨリ倫敦ニ開催シタキ旨ヲ通告シタリ

帝國政府ニ對スル英國政府ノ會議招請狀（十月二十四日附）（邦譯）左ノ如シ（附屬書第一號參照）
以書翰啓上致候陳者聯合王國ニ於ケル皇帝陛下ノ政府ハ海軍會議ノ準備ノ爲「ワシントン」條約及「ロンドン」條約ノ署名國ノ代表者間ニ行ハレ來レル豫備的二國間會議ノ結果ニ對シ慎重ナル考慮ヲ加ヘリ候「ワシントン」海軍條約第二十三條及「ロンドン」海軍條約中ノ之ニ該當スル條文ノ明白ナル規定ノ結果トシテ今日迄ノ事情ニ於テ署名國ハ本年中ニ會議ヲ開催セサルヘカラサルニ鑑ミ且當國カ今日迄右二國間會議ノ手配ニ付發案シ來レルノ事實ニ鑑ミ皇帝陛下ノ政府ハ來ル十二月二日「ロンドン」ニ於テ開催セラルヘキ會議ヲ招集スルノ用意有之候右會議ノ目的ハ千九百三十六年末ヲ以テ満了スル二海軍條約ニ代ルヘキ國際條約ヲ締結スルノ目的ヲ以テ海軍制限ニ關シ能フ限り多方面ニ瓦レル協定ヲ成立セシムルコトニ在ルヘク候署名國ノ代表者間ニ一度協定ノ見込立チタル場合ニ於テ他ノ海軍國ノ代表者ヲモ包含スル様會議ノ範圍ヲ擴大スルコト可能ト爲ランコトヲ希望致候

本官ハ日本國政府カ提案セラレタル會議ニ代表者ヲ出スノ用意アリヤ否ヤ否貴官ニ於テ成ルヘク速ニ本官ニ通報セラルヲ得ハ感謝ノ至ニ堪ヘ斯候

同時ニ本官ハ貴國政府並ニ合衆國、佛蘭西國及伊太利國ノ政府カ其ノ在「ロンドン」大使ヲ以テ代表者トセラルニ於テハ各關係者ニトリ好都合ナルコトアルヘク且各代表部ヲ能フ限リ小ナラシムルニ役立ツコトアルヘキコトヲ提言スルノ光榮ヲ有シ候

尙又各自ノ本國政府ノ爲ニ權限ヲ以テ發言スルニ充分ナル階級ノ海軍ノ代表者又ハ顧問カ當初ヨリ會議ニ列スルコトハ極メテ望マシキコトナルヘク候

本官ハ茲ニ貴官ニ向テ敬意ヲ表シ候

千九百三十五年十月二十四日 外務省ニ於テ

國務大臣ニ代リ 「アール、エル、クレーザー」

藤井 啓之 助殿

帝國政府
ノ参加同府
答

二、右英國政府ノ招請ニ對シ帝國政府ハ十月二十九日開議決定ヲ經タル上同日在英藤井代理大使ニ對シ「帝國政府ハ英國政府カ本件會議ヲ發議シタルヲ頗ル欣快トシ代表ヲ參列セシムルノ用意アル旨、尙帝國代表カ十二月二日迄ニ着倫シ得ルヤ否ヤニ付テハ追テ回答スヘキ旨」英側ヘ回答方訓電セルニ依リ同代理大使ハ即日左ノ如ク英國政府ヘ申入レタリ

(附屬書第一號)

以書翰啓上致候陳者本官ハ本月二十四日ノ貴翰 第A 8884/22/45號ヲ受領シ且帝國政府ニ於テハ「ワシントン」條約及「ロンドン」條約ノ規定ニ從ヒ十二月「ロンドン」ニ於テ右條約ノ署名國ノ會議ヲ招集セントスルノ英國皇帝陛下ノ政府ノ發議ヲ丁承スルコトヲ欣快トシ居ルコト並ニ右提案セラレタル會議ニ參加スル爲其ノ代表委員ヲ派遣スルノ用意アルコトヲ帝國政府ノ訓令ニ基キ茲ニ陳述スルノ光榮ヲ有シ候

本官ハ帝國政府ニ於テハ帝國代表委員カ十二月二日前ニ「ロンドン」ニ到着シ得ルヤ否ヤニ付追テ英國皇帝陛下ノ政府ニ通知致スヘキコトヲ附言スルノ光榮ヲ有シ候

本官ハ茲ニ貴大臣ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

千九百三十五年十月二十九日「ロンドン」大日本帝國大使館ニ於テ

藤井 啓之 助

英國外務大臣

「サー、サミュエル、ボーア」閣下

開會期日

ノ決定

三、其ノ後帝國政府ハ英國側ニ對シ我全權團一行ハ成ルヘク速ニ着英スル様出發ノ豫定ナルモ我全權ノ會議參加ハ十二月五日以後トシタキ旨ヲ申入レタルニ對シ英國側ハ米國全權團着英日取等ノ關係上四日開會式舉行ノコトトシタキ旨ヲ申出テタルモ次テ六日ニ續下ケ更ニ米國全權團遲着ノ爲十一月二十八日ニ至リ十二月九日開會ノコトニ決定セリ
來佛伊ノ 参加受諾
四、一方英國政府ノ會議招請狀ハ米佛伊諸國政府ヘモ送付セラレタルカ米國政府ハ右招請ヲ受諾スル旨十月二十四日回答シ佛伊兩國政府モ夫々十一月五日(佛)及同月十八日(伊)會議參加ヲ受諾セリ

五、尙英國政府ハ關係國政府ノ内諾ヲ得タル後十一月三十日附ヲ以テ國際聯盟ノ傍聽者ヲ會議ニ招請シ聯盟事務總長ハ十二月二日附ヲ以テ右招請ヲ受諾シ聯盟軍縮部長「アグニデス」ヲ傍聽者トシテ會議ニ派遣スル旨ヲ回答セリ

第二節 帝國政府ノ訓令

帝國政府ハ十一月四日海軍大將永野修身特命全權大使永井松三ノ兩名ヲ全權委員ニ任命シ同月九日左記訓令ヲ與ヘタリ
帝國全權任命
命令

倫敦ニ於ケル海軍軍縮會議帝國全權委員ニ與フル訓令

一、今次海軍軍縮會議ニ於テ帝國政府ノ目的トスル所ハ帝國國防ノ安固ヲ確保スル範圍ニ於テ關係國間ニ公正妥當ナル海聯盟傍聽者ノ參加

軍縮協定ヲ遂ケ成ルヘク國民負擔ノ緩和ヲ圖リ且各國間ノ平和親交ヲ増進セントスルニ在リ

二、帝國海軍軍備ノ要旨ハ西太平洋ヲ制御シ且國家生存發展ニ必要ナル海上交通線ヲ防護シ東亞ノ安定勢力タル帝國ノ地位ヲ確保スルニ足ルノ兵力ヲ整備スルニ在リ而シテ之カ爲海軍軍縮協定ニ於テハ帝國カ米國ト均等ナル海軍兵力ヲ保有整備シ得ルノ權利ヲ確立スルコト絕對ニ必要ナリ

三、今次會議ニ於ケル帝國政府ノ根本方針左ノ如シ

帝國ハ國家安全ノ爲必要トスル限度ノ軍備ヲ有スルノ權利ハ各國齊シク之ヲ享有シ各國國防ノ安全感ヲ害スルコトナク不脅威不侵略ノ原則ヲ確立セントスルモノニシテ大海軍國間ニ於ケル軍縮ノ方法トシテ各國ノ保有シ得ヘキ兵力量ノ共通最大限度ヲ規定スルヲ根本義トス

而シテ之カ協定ニ當リテハ軍縮ノ精神ヲ發揮スル爲右限度ヲ小ナラシメ且攻擊的兵力ハ之ヲ極力縮減シ防禦的兵力ハ之ヲ整備シ以テ各國ヲシテ攻ムルニ難ク守ルニ不安ナカラシムルヲ基礎トセサルヘカラス之カ爲高度軍備國ハ他ニ比シ一層大ナル犠牲ヲ提供スヘキハ勿論ナリ

四、今次軍縮會議ニ於テ東亞ニ關スル政治問題ヲ議題トスルコトハ徒ニ軍縮問題ノ解決ヲ複雜困難ナラシムルモノナルヲ以テ帝國政府ノ同意シ得サル所ナリ

五、防備制限ニ關スル協定ハ之ヲ考慮スルモ之カ爲兵力ニ關スル我要求ヲ調節シ得サルモノトス

六、佛伊海軍兵力問題ニ關シテハ前顯帝國政府ノ根本方針ニ基キ協定セラルヘキ保有兵力量ノ共通最大限度ノ範圍内ニ於テ直接關係國間ニ適當ナル妥結點ヲ見出サルコトニ就キ帝國政府ニ於テハ異議ヲ有セス

七、今次會議ハ華府及倫敦兩條約ノ規定ニ依リ條約署名國間ニ開催セラルモノナルヲ以テ參加國ヲ右以外ニ擴大スルコトハ之ヲ拒否スルヲ要ス

參加國ヲ擴大シ一般海軍國間ノ協定達成ヲ目的トスル會議開催ハ前項會議ニ於ケル五國間又ハ情況ニ依リ日英米三國間

二、協定成立ノ見込立チタル後ニ於テハ之ヲ考慮シ得

八、帝國海軍軍備上今次會議ハ成ル可ク速ニ其ノ結果ヲ見ルヲ有利トスル所ニシテ會議ノ促進ヲ希望スルモノナルモ我方カ進ンテ會議ノ決裂ヲ企圖シ居ルヤノ印象ヲ與フルコトナキ様留意スルヲ要ス今次會議ノ推移及終止ノ體様如何ハ爾後ノ國際情勢ニ影響スル所大ナルモノアルヘキヲ以テ徒ニ他國ノ感情ヲ刺戟シ假令協定不成立ノ場合ニ於テモ帝國將來ノ立場ヲ不利ナラシメナル様努ムルヲ要ス

尙會議ノ終止ニ際シ國際的雰圍氣ヲ惡化セサル爲ノ措置ニ就テハ前記軍縮會議ニ對スル根本方針ニ反戻セス且帝國ノ立場ヲ害セサルモノナルニ於テハ之ヲ考慮スルコトシ差支ナシ

九、敍上各號ノ趣旨ニ則リ且豫備交渉以來執り來レル帝國政府ノ態度ヲ考慮シ前顯帝國政府ノ根本方針ヲ基礎トシテ討議ヲ進ムルコトニ努メラレ交渉ノ進捗ニ應シ左記ニ遵ヒ又海軍專門事項ニ關シテハ海軍首席隨員、陸軍專門事項ニ關シテハ陸軍首席隨員ノ意見ヲ徵シ交渉ニ善處セラレ帝國主張ノ貫徹ニ最善ノ努力ヲ致サルヘシ

尙本訓令ノ趣旨ニ依リ難キ事項ニ關シテハ豫メ請訓セラルヘシ

記

一、前顯第二號帝國政府ノ根本方針ニ基ク共通最大限兵力協定ノ内容ハ左ノ諸項ニ據リ制限スルモノトス

(イ) 主力艦ハ會議對策トシテ之ヲ全廢ヲ主張スルコトヲ得

(ロ) 航空母艦ハ之カ全廢ヲ主張ス

(ハ) 主力艦、航空母艦及甲級巡洋艦ニ就キテハ極力之ヲ縮減シ艦種毎ニ各國ニ對シ割當量ヲ定メ帝國及米國ニ對シ右割當ハ同量トス

此ノ場合主力艦、航空母艦及甲級巡洋艦ニ就キテハ極力之ヲ縮減シ艦種毎ニ各國ニ對シ割當量ヲ定メ帝國及米國ニ對シ右割當ハ同量トス

主力艦、航空母艦ヲ全廢スル場合亦之ニ準ス

(二) 艦型、備砲口径及艦齡標準

主 力 艦 種 單艦噸數 備砲口径

艦齡

記 事

二六年

備砲口径ヲ三五・五噸未満トスルコトニハ同意シ難シ

主 力 艦 種 單艦噸數 備砲口径

二〇年

トニハ同意シ難シ

航 空 母 艦 二〇、〇〇〇噸 若ハ一五・五噸

二〇年

備砲口径ヲ三五・五噸未満トスルコトニハ同意シ難シ

甲 級 巡洋艦 八、〇〇〇噸 二〇・三噸

二〇年

トニハ同意シ難シ

乙 級 巡洋艦 五、〇〇〇噸 一五・五噸

二〇年

トニハ同意シ難シ

驅 逐 艦 一、五〇〇噸 一三噸

一六年

トニハ同意シ難シ

潛 水 艦 二、〇〇〇噸 一三噸

一三年

トニハ同意シ難シ

(ホ) 艦齡超過艦

艦齡超過艦ノ保有ニ關シテハ協定セラルヘキ艦齡内保有量ニ多寡ニ應シ其ノ量ヲ考慮ス

(ヘ) 制限外艦船及特殊艦船

制限外艦船及特殊艦船ニ關スル規定ハ現存條約ノ規定ニ准ス

二、帝國政府ハ成ル可ク早キ時機ニ於テ新協定兵力ニ到達スルコトヲ要求スルモノナルモ要スレハ右協定兵力ノ内容ニ應シ一定期間内ニ逐次該兵力ニ到達スルヲ目途トシ協定スルコトヲ考慮シ得

三、質的制限ハ兵力保有量ニ關スル我主張ノ容認セラレサル限り帝國ノ國防上ニ甚大ナル不利ヲ招來スルモノナルヲ以テ同意シ得サル所ナリ

- 四、建艦計畫宣言等ノ形式ニ依リ或ハ其ノ他如何ナル形式ニ依ルモ一定期間ニ於ケル建艦協定ヲ行ハントスルコトハ帝國ノ根本方針ヲ基調トシ實質的ニ我要求ヲ充足スルモノニアラサル限リ帝國國防上極メテ不利ナルヲ以テ之ヲ應諾スルコト能ハス
- 五、造艦休止ハ其ノ内容期間ノ如何ヲ問ハス我根本方針ヲ基調トスル協定ノ成ラサル限リ之ヲ考慮スルノ餘地ナシ
- 六、新艦ノ建造ニ關シ相互ニ通報ヲ交換セントスルコトハ我根本方針ヲ基調トスル協定成ラサル限リ帝國ノ國防上ニ不利ヲ招來スヘキヲ以テ之ヲ受諾スルコト能ハス

第三節 各國全權團ノ構成

會議參列ノ各國全權及主タル隨員左ノ如シ（附屬書第三號參照）

日 本

全 權 永 野 修 身 海 軍 大 將

軍事參議官

特命全權大使

大使館參事官

海軍少將

英 國

全 權 「サミュエル・ホール」

（後外務大臣更迭ニ依リ「アントニー・イードゥン」全權トナル）

外務大臣
「エアース・モンセル」

海軍大臣

米國全權隨員	「スタナブ」 「チャトフールド」	外務政務次官 軍令部長
佛國全權隨員	「ウォレン、フィッシャー」 「アール、エル、クレーギー」 「ウイリアム、エム、ジームス」	外務次官補佐官 海軍中將
英國全權隨員	「ノーマン、エイチ、デーヴィス」 「ウイリアム、フィリップス」 「ウイリアム、スタンドリー」	大藏次官 海軍大將
伊國全權隨員	「レイ、アサトン」 「ユージン、エイチ、ドゥマン」 「ウォーター、アンダーソン」	在英大使館參事官 國務次官
荷蘭、加奈陀、愛蘭、印度、新西蘭、南阿ノ各代表モ參列ス	「アンドレ、コルバン」 「デュラン、ヴィエル」	海軍大將
	「ロベール」	作戰部長
	「カルド」	駐英佛國大使
	「ロジエ、カンボン」	海軍中將
	「ジー、ドク」	海軍中將
		海軍大佐
		在英海軍武官
		在英大使館參事官
		軍令部長
		海軍中將
		軍事參議官
		殖民地名譽總督
		在英大使館參事官
		海軍中將
		海軍少將
		軍令部員
		駐英伊國大使
		海軍少將
		在英大使館參事官

尚濠淵、加奈陀、愛蘭、印度、新西蘭、南阿ノ各代表モ參列ス

第四節 會議々事順序

帝國全權ハ隨員一行ト共ニ十一月十六日東京發西伯利亞經由十二月二日倫敦着翌三日「グロヴナー、ハウス」ニ事務所ヲ開設セルカ十二月四日英國外務省係官ハ我方係官ニ對シ總會（開會式）及委員會會議ノ議事順序ニ關スル左記案ヲ送付越

セリ

(一) 總會議事順序案

一、英國首相ノ歓迎演説

二、米國首席全權ノ發議、佛國首席全權ノ贊成ニ依ル會議議長及副議長ノ選任

三、伊國首席全權ノ發議、日本首席全權ノ贊成ニ依ル會議事務總長ノ選任

四、英國首相退席シ海相議長席ニ着ク

五、「アルファベット」順ニ依ル各國首席全權演說

六、今後ノ議事方法ニ關スル議長ノ提案

(二) 委員會議題案

一、手續問題例ヘハ委員會ノ任命及議事順序、公表ノ問題

二、總會ニ於テ始メラレタル一般討議ノ續行

三、左記項目ニ關スル詳細ノ討議

- (イ) 質的制限
- (ロ) 量的制限

四、倫敦海軍條約第四編

五、華府及倫敦條約ノ細目的條項

十二月五日帝國全權カ挨拶ノ爲英國全權ヲ往訪シタル際英國側ハ開會式當日ハ右議事順序案ニ依リ議事ヲ進メ最後ニ各國全權ノ全部ヲ以テ構成セラルヘキ第一委員會設置ヲ提議シ爾後ハ專ラ同委員會ニ於テ討議ヲ行ヒタキ意嚮ナルコトヲ明ニシタリ

第三章 會議開催前ノ交渉

第一節 日英第一回會談(十二月七日)

十二月二日帝國全權ノ着英後十二月九日會議開催迄ノ間ニ日英及日佛間ニ次ノ如キ交渉行ハレタリ

〔會談開催
至ル經緯〕

一、十二月五日永野永井兩全權ハ海軍省ニ英國側全權「モンセル」海相ヲ往訪(「チャトフード」軍令部長、「クレーギー」外務次官補佐官同席)挨拶ノ上開會式當日ノ議事ニ付打合セタルカ英國側ハ前顯ノ如ク(第二章第四節參照)開會式後ハ委員會ヲ設ケテ議事ヲ進メントスル意嚮ナルコトヲ明ニシタリ

然ルニ我方ニ於テハ我方主張貫徹ノ爲ニハ關係各國殊ニ英米トノ間ニ隔意ナキ意見交換ヲ遂クルヲ緊要ト認メ居リタルニ依リ右委員會ニ於ケル討議ト妙クモ併行シテ各國ト個別的會議ヲ行フヲ機宜ノ處置ト思料シ偶々英國側ニ於テハ豫テ我代表着英ノ上ハ會議開會前意見ヲ交換シタキ意嚮アリタルニモ鑑ミ先ツ日英間ニ私的會議ヲ行フコトシ仍テ十二月六日藤井代理大使ヨリ其ノ思付トシテ「クレーギー」ニ對シ「帝國全權ハ會議ノ圓滑ナル進捗ヲ圖ル爲第一回總會後委員會等ノ設置セラル前ニ先ツ日英、日米間ニ個別のニ隔意ナキ意見交換ヲ行フヲ可ナリト認ムルニ付是非此ノ方法ニ依ラレタシ」トノ趣旨ヲ申入レタル處「クレーギー」ハ之ニ同意シ同日我兩全權カ挨拶ノ爲英國全權「ホーリー」外相ヲ往訪シタル際「クレーギー」ヨリ英國側ノ發案トシテ翌十二月七日日英私的會議開催方ヲ申出テ尙本件ハ極秘ニ附シタキ旨附言セリ仍テ我方ハ直ニ之ヲ應諾シ茲ニ第一回日英會議開催ノ運トナレリ

二、右日英會議ハ十二月七日午前十時半ヨリ海軍省軍令部長室ニ於テ行ハレ日本側兩全權(岩下寺崎隨行)、英國側「チャトフード」「チャーチャー」「クレーギー」出席セリ

(一) 先ツ「チャトフィールド」ヨリ共通最大限ハ一切ノ國ニ付之ヲ定メントスルヤト問ヘルニ對シ永野全權ハ日英米三國ニ關スト答へ「チャトフィールド」ハ然ラハ今次五國會議ニ際シ右三國間ノミニ該限度ニ關シ交渉セントスルモノナリヤト重ネテ問ヘルニ付永野全權ハ佛伊ノ介入ニハ反対ナキモ日本ノ欲スル所ハ右三國ノ共通最大限設定ナリト述ヘ「チャトフィールド」ヨリ今次會議當初ニ貴方ハ三國最大限案ヲ提出セラルルヤト問ヘルニ對シ永野全權ハ一般的形式ノモノタラシムヘシト答フ

(二) 「ブリシャー」ヨリ英國ハ日米ニ比シ不利ナル地理的位置ニ在ルカ故ニ 共通最大限ナル 比較的簡單ナル「フォーミュラ」ヲ以テ律シ得スト述ヘタルニ對シ永井全權ハ日本ノ立場トテモ決シテ貴言ノ如ク簡単ニハ非スト應シ永野全權ハ共通最大限案ハ一見簡單ニ見ユルモ實ハ然ラス各國ノ國防脆弱性(「ヴァルネラビリティ」)ヲ充分研究ノ上之ニ適當ノ修正ヲ加フヘキモノタル處右「ヴァルネラビリティ」ハ各國ノ地理的地位、人口、生產能力等ノ諸要素ニヨリ定マルヘキモ兵力ハ其ノ最重要要素タルカ故ニ先ツ均等兵力ノ方針ヲ確定シタル後他ノ要素ヲ考慮スレハ可ナリト答フ

次テ「チャトフィールド」ハ三國ノ兵力均等ハ右三國ノ安全感ノ平等ヲ來スモノト思考スルヤト問ヘルニ對シ永野全權ハ必シシモ斯ク考ヘ居ラス要ハ先ツ均等ノ原則ヲ定メ然ル後ニ「ヴァルネラビリティ」ノ問題ヲ考フヘキナリト答ヘ「チャトフィールド」ヨリ主義ノ問題トスレハ三國以外ノ國モ等シク之ニ均霑方ヲ主張スヘキニ非スヤト問ヒタルニ依リ永野全權ハ佛伊ニ關シテハ歐洲國タル英國ノ考フヘキ所ニシテ英國ニ満足ナル協定成立ヲ希望スルノミ日本ノ關心ハ日英米三國間ノ關係ナリト答フ

(三) 「チャトフィールド」ハ更ニ日英間ニ「ヴァルネラビリティ」ニ差異アリト認メラルルヤト問ヒ永野全權ハ差異アルヤニモ思ハルルモ研究ノ上定ムヘキナリト答ヘ「クレーギー」ヨリ三國間均等兵力ノ原則認メラルルニ於テハ各國ノ異ナル「ヴァルネラビリティ」ヲ考慮シ之ニ異ナル大サノ海軍兵力ヲ割當ツルコトニ同意セラルルノ意ナリヤト尋ネ永野全權ハ常識上「ヴァルネラビリティ」ニ差異アルコトハ認メラルルモ其ノ差ノ何タルカハ充分ナル研究ニ俟タサ

量的制限
ト質的制限
關係
下ノ關
量的制限
「ヴァルネラビリティ」
ノ差異
均等原則
適用範圍

ルヘカラス何レニセヨ日本ハ自國ノ安全ト共ニ他國ノ安全ヲモ尊重スト答ヘ「チャトフィールド」ヨリ此際直ニ御回答ヲ乞フ心算ニハ非サルモ英國側ニテハ貴方均等要求ハ日英米間ニ五、五、五ノ比率ヲ impose スルモノト解釋シ居ルコトヲ御承知置キ願ヒ度シト述フ

(四) 轉シテ質ノ問題ニ移リ「チャトフィールド」ヨリ質的制限ハ量的制限協定成立ノ見込渺キ此ノ際特ニ重要ナルカ是ニ對シ日本側ノ反対セラルルハ理解シ難シ英國側ハ經濟的考慮ヨリ艦型縮小ヲ唱フルモノニテ日本側ニ不利ナル艦型ヲ持チ出スカ如キ意絶對ニナク日英双方ニ適當ナルモノヲ定メタシト述ヘ永野全權ハ再三述ヘタル如ク日本ノ求ムル所ハ安全ニシテ安全ノ基礎ハ量ナリトス從テ量ニ關スル協定ナクシテ質ニ關スル協定ヲ結フモソハ安全ヲ害スルノミナラス結果ニ於テ不經濟ナルヘシ量ヲ定ムレハ自然質ノ制限モ生シ來ルモノト信スト説ケリ

次テ永井全權ヨリ質的制限ナクハ無制限建艦競争トナルト云フモ量的制限ナク爲ニ量的競争ヲ見ハ不經濟ナル點ハ同一ニ非スヤ又英國側所說ノ如クノハ量的限界ハ如何ト質セルニ「チャトフィールド」ハ各國ノ財力、造船能力、人員數ニヨリ自然限界ヲ生スヘシト答ヘ更ニ「チャトフィールド」ヨリ量的協定不成立トナル場合ニ於テモ質的制限ハ必要ナリト言ヘルニ對シ永野全權ハ日本ハ量第一質第二トナスコト又量ハ國防ノ第一要素ナルコトヲ示シ量ニ於テ満足ヲ得ハ質ニ關シ充分協調的態度ニ出ツルノ用意アリト述ヘ「チャトフィールド」カ量的ニ「デッドロック」ニ達セル場合トナキヲ知ル之英國側カ今次會議ニ於テ量的制限成立ニ大ナル期待ヲ有セサル所以ナリト述ヘ「チャトフィールド」ハ日本側ハ如何ナル態度ニ出テラルルヤト問ヘルニ對シ永井全權ハ右ノ如キコトナキ様御互ニ努ムヘキナリト應酬ス

(五) 「クレーギー」ハ余ノ軍縮討議ノ經驗ヲ以テセハ「ヴァルネラビリティ」ニ言及セラルル時ハ常ニ論議ノ盡クルコトナキ以上質ノ問題ヲ論セサルハ再三述ヘタル通リナルカ貴間ニ對シテハ否定的ニ答フト述フ

(六) 「チャトフィールド」ハ均等兵力ト云ハルルモ英側ハ矢張リ之ヲ比率主義ノ一樣式ト見 common upper ratio トモ稱

シ度ク存シ居レリ本日ノ會談ハ御互ノ立場ヲ明瞭ナラシムルニ極メテ有益ニテ感謝スル次第ナリ日本側御趣旨ノ存スル所ハ（一）日英米三國間ニ common upper ratio ヲ設ケ（二）然ル後初メテ質的制限ニ及フト云ハルニ在リテ英國側ハ（一）客年（昭和九年）豫備交渉ノ模様ニ徵スルモ量的制限ハ見込み薄ト認メサルヲ得サルモ引續キ之カ實現ニ努ムヘシ（二）但シ右ニモ不拘量的制限不可能トナラハ一切ノ海軍國間ニ質的協定ヲ又右不能ノ場合ニハ倫敦條約「エスカレーター」條項類似ノ規定ヲ設ケ參加ヲ拒ム國ニ對スル措置トシ出來得ル限り多數國間ニ右協定ヲ行ハントスルヲ其ノ見解ノ主眼點トナスト述ヘ會談ヲ終レリ

第二節 日佛第一回會談（十二月七日）

日英第一回會談ノ行ハレタルト同日（十二月七日）午後四時佛國全權「デュラン・ヴィエル」軍令部長、「ロベール」中將及「カルド」殖民地名譽總督ハ在英海軍武官「デュ・トル」中佐ヲ帶同「グロヴナー、ハウス」ニ挨拶旁永野全權ヲ來訪シ（我方岩下井上列席）一時間ニ亘り意見ヲ交換シタルカ其ノ要旨左ノ如シ

（一）先ツ永野全權ヨリ數日前新聞紙ニ傳ヘラレタル日本ノ潛水艦全廢説ハ全ク誤報ナルコトヲ指摘セルニ「デュラン・ヴィエル」ハ佛國トシテハ全廢ノ如キハ不可能ナルカ英國側トテモ斯カルコトハ期待シ居ラスト思考スト答ヘ次テ

（二）日本側ハ量的制限問題ノ先議ヲ主張シ居ラルルヤニ聞キ及ヘル處然リヤト訊ネタルニ付永野全權ヨリ我方ハ同問題ヲ最重要視スルモノニシテ右カ満足ニ解決セラルレハ質的問題ヲ議スルノ用意アルモ質的問題ヲ先ツ討議セラルルカ如キ場合ニハ之ヲ妨クルノ意思ナキハ勿論ナルモ單ニ聽キ役トナルノ外ナカルヘシト答ヘタルニ「デュラン・ヴィエル」ハ佛國ハ量ノ問題ヲ好マス寧ロ質的協定ノミヲ希望スト云ヘルニ付永野全權ヨリ右ハ華府條約比率ヲ不可トスル意味ナリヤト反問セルニ「デュラン・ヴィエル」ハ佛國ハ從來量ノ問題ニ付満足ヲ得タルコトナク今回モ例ヘハ佛伊間ノミニテモ同問題ノ解決ハ至難ト思考スルニ付寧ロ量的無制限ヲ可トスルモノナリ英國側ハ長期例ヘハ八年位ノ建艦宣言案ニ依リタクナルヲ以テ有利ナラスヤト問ヘルニ付

キ意嚮ノ如キモスクテハ事實上比率主義ノ條約ト異ルナキニ付面白カラスト思考ス佛國ハ短期例ヘハ一年前後位ノ建艦通報ヲ行ヒテ不意討ヲ避クルニ止ムルコトトシ他方質ノ協定ヲ行ハントスル意嚮ナリ日本ハ量的無制限即チ比率全廢ノ場合ニモ質的制限ニ反対ナリヤ私見ニ依レハ主力艦航空母艦等ヲ質的ニ制限スル場合ニハ日本トシテ之ヲ多數建造シ易クナルヲ以テ有利ナラスヤト問ヘルニ付

永野全權ヨリ例ヘハ主力艦ヲ二萬五千噸ニ制限セル場合日本ノ如キ相當劣勢ニ在ル國ハ新艦ヲ多數建造スルトモ改装濟ノ三萬五千噸艦多數ヲ有スル優勢國ニ容易ニ追付キ難グ要スルニ質的ノミノ制限ハ優勢國ノ優勢維持ニ有利ニ作用スル傾アリト述ヘタルニ「デュラン・ヴィエル」ハ然ラハ三萬又ハ三萬二千噸ニ制限スレハ可ナラスヤト反問セルニ付日本トシテハヨリ經濟的ニ同一目的ヲ達スル他ノ方法ナキヤト研究ノ要アル次第ナリト答ヘタリ

（三）「デュラン・ヴィエル」ヨリ華府條約第十九條ノ問題ヲ持出スノ意嚮ナキヤト問ヘルニ付永野全權ハ各國同意ナラハ同條ノ存續ヲ希望スルモ反対アラハ廢止モ已ムヲ得スト答ヘタリ

（四）永野全權ヨリ主力艦ノ質的制限ニ關スル佛國側ノ意嚮ヲ訊ネタル處「デュラン・ヴィエル」ハ佛國ハ三十三種砲ノ搭載ヲ必要ト認メ居ル處現在ノ二萬六千五百噸ニテハ殊ニ空中爆撃ニ對スル防禦充分ナラサル嫌アルニ付確定意見ニハ非ナルモ三十三種砲二萬八千乃至三萬噸前後ヲ適當トスヘキカト考ヘ居レリト答ヘタリ

（五）會談ヲ終ルニ際シ「デュラン・ヴィエル」ヨリ質的制限ナキ場合四、五萬噸ノ巨艦建造ヲ懸念セラレサルヤト問ヘルニ付永野全權ハ斯カルコトハ未タ考ヘ居ラスト答ヘタリ

主力艦ノ質的制限
佛ノ意嚮
大平洋防備制限問題

日本ノ潛水艦全廢
設打消
量的制限
重限トノ輕

第四章 第一回總會（開會式）

講事經過

一、第一回總會（開會式）ハ十二月九日午前十時半ヨリ外務省「ロカルノ」室ニ於テ各國全權及隨員並ニ聯盟「オブザヴァー」麥列公開ニテ舉行セラレ劈頭英國首相「ボーリドウイン」ヨリ次項記載ノ如キ開會演說ヲ行ヒ次ニ米國全權「デーヴィス」ノ發議、佛國全權「コルバン」ノ贊成ニ依リ英國外相「ホーア」ヲ議長、海相「モンセル」ヲ副議長ニ、又伊國全權「グランディ」ノ發議、永野全權ノ贊成ニ依リ「アドリアン、ホルマン」（「クレーギー」ノ補佐官）ヲ事務總長ニ夫々異議ナク決定、「ボーリドウイン」首相退席シ「モンセル」海相議長席ニ就キ其ノ司會ノ下ニ「アルファベット」順ニ從ヒ先ツ米國全權「デーヴィス」ヨリ順次各國全權次項所載ノ如キ演說ヲ行ヒ夫々自國ノ立場ヲ明ニスル所アリ右終ルヤ「モンセル」議長ハ第一委員會ト呼ハルヘキ全員委員會ヲ設ケ「モンセル」司會ノ下ニ翌十日ヨリ會合方並ニ議事進捗ノ便宜上同委員會ヘノ出席者ハ最少限度ニ止メタキ旨ヲ諮リ右ニ異議ナク決定正午散會セリ

二、各全權ノ演說要旨左ノ如シ尙英米佛伊各國全權ノ演說草案ハ何レモ我全權演說案ト交換的ニ總會開會前入手シ置キタ

説要旨

各全權演

(イ) 英國首相「ボーリドウイン」ノ開會演說

茲ニ最緊要ナル事業ヲ遂行スル爲ニ來會セラレタル各位ニ對シ衷心ヨリ歓迎ノ意ヲ表スルハ余ノ頗ル欣幸トスル所ナ

倫敦會議以來約六年ヲ經過セルカ倫敦及華府兩會議ノ事業ヲ繼續シテ無制限建艦競争復歸ノ禍害ヲ防遏スル爲ニ茲ニ再ヒ會議ヲ開催スルニ至レルハ倫敦華府兩條約ノ規定ニ依ルモノナリ

今回ノ會議ノ準備トシテ過去一年間豫備交渉ヲ行ヒタルカ我國ハ同豫備交渉ニ於ケル「イニシアティヴ」ヲ取リタル關係上今回會議開催ニ關シ他國ヨリモ大ナル義務アルヲ感シタルヲ以テ招請ヲ發シタル次第ナリ

英國ノ立

本日ハ細目ノ討議ニ入ルヘキ時ニアラサルモ各全權ニ於テ各國ノ立場ヲ簡單ニ述ヘラルハ有益ナルコト思考ス我國ノ立場ハ一九三二年壽府軍縮會議ニ通告セラレタル聲明中ニ詳細説明セラレタルカ右ハ今日ニ於テモ變ル所ナシ簡單ニ述フレハ英國政府ハ右會議ノ時ト同シク今日モ華府及倫敦兩條約ニ國際事情ノ變化及各國ノ必要ニ應シ便宜且必要ナル修正ヲ加ヘテ右兩條約ノ主義ヲ繼續スルノ用意アリ我國政府ハ量的及質的兩方面ニ於ケル制限ノ繼續ヲ最重要視ス我政府ハ一切ノ大型艦船及其ノ搭載スル砲ヲ縮減セントヲ欲ス又潛水艦ノ全廢ヲ依然主張ス右「ライン」ニ依ル國際協定ノ締結ヲ見ハ全世界ニ亘リ今後ノ造艦費ノ大節約ヲ誘致スルコト疑フ容レス

右諸提議ノ採用方ハ前記豫備交渉ニ於テ恒ニ主張セラレタル所ナルカ豫備交渉ノ全目的ハ「準備」ニアリタルモノニシテ本會議ニ臨ミテ同交渉ノ結論ヲ輕視スルニ於テハ豫備交渉ハ其ノ必要ナカリシモノナリ豫備交渉ノ大ナル價值ハ今日各國力他國ノ特殊ノ問題及困難ヲ了解シ得ルニ至レルコトニ在リ而シテ此等獨自ノ問題ニ付適當ニ考慮ヲ拂フヘキハ當然ナルヘシ勿論一國ト雖モ其ノ要求ヲ全部充タスコトハ不可能ナルモ肝要ナルハ今回ノ會議ニ於テ或ル制限ニ付合意ニ達シ之ニ依リテ各國ヲシテ其ノ特殊ノ必要ヲ充タスニ妥當ナル餘裕ヲ與フルト同時ニ海軍軍備ノ一般的競争ノ脅威ヲ除去スルコトナリ現行條約消滅後互ニ新型又ハ大型艦ヲ競フカ如キコトナカラシムルコトハ吾人ノ最モ顧念スル所ニシテ右ハ最モ危險且高價ナル種類ノ海軍競争ナリ

潛水艦ニ付テハ若シ其ノ全廢ニ付合意成ラサルトキハ其ノ濫用ヲ防ク協定ヲ結ブコト極メテ緊要ナリ倫敦條約第四編ハ戰時ニ於ケル潛水艦ニ依ル商船ノ取扱ヲ規定セルカ右規定ハ既ニ合衆國日本及全英聯盟各邦ノ間ニ實施セラレ居レリ然レトモ他ニ諸國ノ代表者トノ豫備交渉ノ結果右規定カ倫敦條約トハ別個ノ協定トセラルトキハ倫敦條約ヲ全體トシテ批准スル能ハサリシ佛伊兩國モ右協定ニ加入シ得ルコトカ明トナレルコトヲ聲明シ得ルハ余ノ欣幸トスル所ナリ吾人ハ之ヲ動機トシテ右規定カ世界ノ一切ノ海軍國ノ受諸スル所トナリ依テ以テ無制限ナル潛水艦戰爭ノ防止セラ

ルルコトヲ希望ス海軍軍備制限カ華府ニ於テ初メテ既成事實ト爲リシヨリ約十四年ヲ經過セリ本日茲ニ代表セラルル諸國中或國ハ華府倫敦兩條約ノ或條項ニ對シ反対スルモノアランモ右十四年間ニ於テハ右兩條約締結前ニ見タルカ如キ建艦競争ノ精神カ締約國間ニ存セサリシハ否定シ能ハサル事實ナリ余ハ若シ茲ニ代表セラレタル各國カ其ノ最大要求ノ一小部分ヲ一般的の福祉ノ爲ニ讓ル用意アルナラハ啻ニ全世界ニ亘リテ海軍軍備總噸數ノ縮減ヲ可能ナラシムルノミナラス又世界ノ一般的安全感ニ貢獻シ得ルカ如キ協定ヲ締結シ得ヘシト確信ス尙今回ノ會議ニ參加セナル諸國ト協定ニ達シ得ルヤ否ヤハ一二吾人ノ事業ノ結果如何ニ懸ルヲ思ヘハ吾人ノ責任ハ一層大ナリ余ハ此ノ機會ニ於テ余自身及英國政府ノ爲ニ會議ノ成功ニ對スル衷心ノ希望ヲ表明セントス

(ロ) 米國全權「デーヴィス」演説

〔米全權
〔デーヴィス
演説
〔倫敦條約
〔四國
〔加國
〔立

海軍軍縮ニ對スル米國ノ態度ヲ明示スルモノハ豫備交渉ニ當リ一九三四年十月五日附ヲ以テ大統領カ余ニ與ヘタル訓令ナリ曰ク「明年（一九三五年）會議ノ目標ハ現行條約ニ代ソ其ノ目的ヲ遂行スヘキ新條約ヲ作ルニ在リ而シテ右目的トハ軍備競争ヲ防止シ華府條約ニ依テ始メラレタル事業ヲ進メ軍備ノ漸進的縮少ヲ容易ナラシムルコトニ在リ華府條約ハ倫敦條約ニ依リ補ハレタルカ右兩條約ハ單ナル數學的方式ニ非ス其ノ定メタル相對的海軍兵力ハ關係國ノ相對的防禦上ノ必要（comparative defence needs）ヲ基礎トセルモノニシテ之等大海軍國ノ相對的安全ヲ害スル事無カリキ右兩條約ヲ放棄スルハ相對的安全ノ原理ヲ覆スモノニシテ建艦競争ヲ誘致スルニ至ルヘシ就テハ貴官ハ最初ノ機會ニ日英ニ對シ比例的ニ條約量ノ二割、若シ不可能ナラハ一割五分、一割若ハ五分ノ縮減方ヲ提議スヘク萬策盡キタル時ノミ成ルヘク長期ニ亘ル現行條約ノ維持及延長方ヲ取極メラレタル尙軍擴ノ條約ハ米國ノ到底承諾シ得サル所ナリ」米國ノ態度ハ今日依然右ト異ル所ナキモ其後事態ニ大ナル變化アリタルハ之ヲ認メサルヲ得ス華府條約ハ廢棄セラレ現行條約ノ依存セルオル種根本原則ハ疑問視セラレタリ世界ノ諸地方ニ於ケル政治的不安定ニ伴ヒ海軍軍備増加ノ傾向起リ各自立場ノ相違ハ全般的軍縮條約締結ノ困難ヲ增大セシメタリ之ヲ打開スル方法ノ一ハ吾人ヲシテ本會議ニ參

加セシムルニ至レル相互ノ利益ト和協ニ在リ

華府會議ハ大戰後間モナカリン爲人々ハ平和ト安定トヲ希望セルモノニシテ華府及倫敦條約ハ右要望ニ合致セリ世界カ漸ク經濟不況ヨリ回復ノ緒ニ就カントスル今日何故ニ吾人ハ現行條約ノ與ヘタル利益ヲ捨ツヘキヤ何國民モ製艦競争ヲ欲セス吾人ノ任務ハ之ヲ無用ナラシムルニ在リ

右任務達成ノ一方法ハ現行條約ニ事態ノ要求スル如キ修正ヲ加ヘテ之ヲ存續スルニ在リ右ニ失敗セル場合ニモ吾人ハ尠クモ建艦競争ヲ阻止シ均衡ノ破壊ヲ避クルカ如キ方途ヲ發見シ以テ將來一層永久的且全般的條約締結ヘノ途ヲ準備スルニ努メサルヘカラス何レニスルモ吾人ノ目的ハ從來平和ト安定ト保障シタル艦隊間ノ根本的均衡ヲ今後高價且危險ナル競争ニ依ラス相互ノ協定ニ依リテ確保スルコトニ在ラサルヘカラス

余ハ米國カ建艦競争ノ「イニシアティーヴ」ヲ採ラサルヘキコトヲ政府ノ名ニ於テ聲明ス吾人ハ海軍擴張ヲ欲セス吾人ハ十年間建艦ヲ行ハサリキ現在ノ計畫ニ依レハ米國海軍ハ一九四二年ニ至ラサレハ倫敦條約量ニ達セス吾人ハ右條約量ヲ超ユルコトヲ欲セス

米國全權團ハ相互ノ利益トナルヘキ解決ヲ見出サン爲十分協力スヘキコトヲ誓フ

(ハ) 濱洲全權「ブルース」演說

華府及倫敦會議ニ於ケル協力ハ大戰ニ疲弊シタル世界カ軍備競争ノ悲慘ナル結果ヲ自覺セルニ依リテ可能ナリシカ今日ハ右大戰ノ教訓ヲ忘レントスル傾向アリ然モ協力ノ必要ハ當時ニ於ケルト同様今日ニ於テモ大ナリ

會議ニ臨ム濱洲ノ態度ハ簡單ナリ即チ吾人ニ安全感ヲ與フルニ必要ナル丈ケノ海軍力ヲ要求ス英國政府ト同様吾人ハ華府及倫敦條約ノ原則カ事態ノ變化ニ基ク修正ヲ加ヘラレテ存續セラレントヲ希望ス吾人ハ量的制限條項ノ繼續及特ニ質的制限ニ贊成シ艦型及備砲ノ縮小、潛水艦ノ全廢ヲ希望ス

(ニ) 加奈陀全權「マッキー」演說

濱洲全權
演說
加奈陀全權
演說

本會議ハ華府倫敦兩會議ニ續クモノニシテ右諸會議ノ目的タリシ軍備制限縮少ノ一般的協定ノ達成ハ即チ今次會議ノ目的ニシテ一時的協定ノ如キハ永ク右ニ代り得ヘキモノニ非ス

(ホ) 佛國全權「コルバン」演說

佛國全權ハ過去ニ於ケルト同様海軍問題ノ討議ニ誠實ニ協力セントスルモノナルモ世界ニ瓦リ責ニ任スヘキ權益アルニ依テ生スル義務ヲ考慮ニ入レサルヘカラス

佛國ノ見解ノ要點ハ壽府一般軍縮會議ニ於テ將又最近一年間ニ關係國トノ間ニ交渉サレタル公文中ニ明カニセラレタリ

先ツ質ノ問題ニ關シ佛國ハ現行條約上ノ制限ハ軍備競争ノ阻止ト軍事費ノ節減ニ資セリト認メ艦型及砲口徑ノ大縮少ニ賛成スルモノニシテ右ノ見解ハ一九三三年十一月十四日壽府軍縮會議ニ提示セラレタル佛國覺書ニ明ニシタル所ナリ佛國ハ最近多少ノ不都合ヲ忍ヒ進ンテ主力艦々型ヲ縮少シタルカ經費節減ト密接ナル關係アル本問題ニ關シ夙ニ一般的協定成立シ居ラサルハ佛國ノ遺憾トスル所ナリ

量的制限問題ハ遙ニ複雜ニシテ之カ檢討ハ三軍相關ノ原理ニ依リ三軍ニ關スル一般的問題ヲ惹起シ且其ノ解決ニハ共同的安全ノ第一要件タル相互の信賴ノ保持ヲ必要トス激シキ論爭アリタル問題ノ取扱ハ慎重タルヘシ何レニスルモ現下ノ事態ハ前諸回ノ海軍會議當時トハ大ニ異リ吾人ハ短期間ニ非サル限り拘束ヲ受ケ得サルモノナルカ右ニ關シ余ハ壽府ニ於テ佛國全權部カ建艦年次計畫ノ廣汎ナル公表、起工ニ關スル一切ノ情報ノ交換、一定期間前ノ通告等ニ付提案セルコトヲ茲ニ想起セントス

潛水艦問題ニ關シ「ボールドウイン」首相ハ重要聲明ヲ爲シ潛水艦全廢ヲ希望スルト共ニ倫敦條約第四編ヲ一ノ議定書トスルコトヲ指摘セルカ佛國政府ハ倫敦條約當該條項ノ起草ニ佛國委員カ大ニ關係シタルニモ鑑ミ一層本件提議ニ贊同スルモノニシテ前記條項ニ關スル議定書ヲ今ヨリ直ニ一切ノ海軍國ノ署名批准ニ附スルノ必要ニ關シ本會議ニ於テ

(ヘ) 印度全權「バトラー」演說

印度ハ從來會議ニ於テ論議ノ中心トナリ又今回モ中心トナルヘキ大型艦船ヲ保有セサルモノ右ハ會議ノ目的達成ニ對スル印度ノ利害及興味ヲ減殺スルモノニ非ス

印度海軍ハ十七世紀前半ニ遡ル長ク且光輝アル歴史ヲ有ス而シテ之アルニ依リ印度ハ海軍軍縮事業ニハ特ニ同情的ニシテ又英本國ノ政策ヲ支持ス

(ト) 愛蘭自由國全權「デュランテー」演說

本會議ノ成功ハ其ノ齋スヘキ重大ナル利益ノ爲ニノミ希求セラルニ非シテ又同時ニ現在ノ不安ナル事態ニ於テハ軍縮事業ノ進捗カ他ノ方面ニ於ケル協定達成ヘノ刺戟トナリ世界平和ニ至大ノ貢獻ヲ齋スヘキカ故ナリ愛蘭政府ニトリ本會議カ重要性ヲ有スルハ此ノ點ニ在リ

愛蘭ハ海軍ヲ有セス又有セントスル計畫モナキモ倫敦條約ノ規定ニ從ヒ今次會議ニ參加セルモノニシテ會議ノ成功ノ爲其ノ討議ヲ容易ナラシムルニ努力セントス

(チ) 伊國全權「グランデ」演說

伊國政府カ英國政府ノ招請ヲ欣然受諾シタルハ條約上ノ義務ノミニ依ルニ非シテ國際關係ヲ悪化シ不信猜疑ヲ齋スヘキ無制限軍備競争ニ還ルコトヲ避クル爲凡有努力ヲナスノ必要ヲ確信シタル爲ナリ伊國政府ハ多數ノ聯盟國ノ伊太利ニ對スル態度ニ依テ釀成セラレタル目下ノ事態ヲ慎重考慮ニ入ルルヲ餘儀ナクセラレ居ルコトハ各位ノ了解セラルヘキ所ナリ然ルニ拘ラス伊國ハ從來熱心ニ主張シ來リタル軍縮ノ同シ精神ヲ以テ茲ニ會議ニ參加セリ

屢次ノ軍縮會議ニ於テ伊國ハ問題ノ實際的解決ノ爲ニ努力シ來レルカ伊國ハ華府條約割當量ノ全部ヲ行使スルコトナク以テ軍備ヲ最低限ニ維持セントノ吾人ノ希望ヲ明證セリ

演說
帝國全權

(リ) 永野全權演說

吾人ハ茲ニ參列ノ各位カ豫備交渉ヲ發議セル英政府ヲ多トスヘシト信スルモノニシテ豫備交渉ノ結果各國ノ難點明ニセラレタリ伊國ハ常ニ海軍軍縮問題ハ能フ限リ完全ナル解決ヲ圖ルヘシトノ見解ヲ持シ來レルカ或ル場合ニ於ケル技術ノ急激ナル發達ニ鑑ミ長期ニ亘リ同問題ノ嚴格ナル解決ヲ遂クルコトハ容易ナラサルヘシ依テ問題ノ起ルニ從ヒ之ニ適合シ且一般ノ受諾シ得ル如キ軍縮ヲ可能ナラシムル解決策ヲ漸次ニ講スルコト必要ナルヘシ吾人ノ主目的ハ軍備競争ヲ避クルニ在リ

演說
帝國全權

吾人ハ茲ニ參列ノ各位カ豫備交渉ヲ發議セラルニ當リ帝國全權ハ本會議開催ニ關シ昨年以來種々斡旋ノ勞ヲ執ラレタル英國政府ノ努力ニ對シ深甚ナル謝意ヲ表ス

抑モ國際ノ平和ヲ維持増進セントスルハ帝國政府ノ終始一貫シテ渝ラサル政策ナリ從テ帝國政府ハ誠意ヲ以テ累次ノ軍縮會議ニ參加シ關係國ト協力シ來リタルカ今次會議ニ於テモ公正妥當ナル軍縮協定ヲ達成シ各國國防ノ安固ヲ確保シツツ國民負擔ノ緩和輕減ヲ圖ルト共ニ世界ノ平和及親善ノ增進ニ寄與セントスルモノナリ惟フニ今次會議ノ目的トスル所ハ一九三七年以降關係國ノ海軍兵力ヲ律スヘキ全般的新海軍條約ヲ締結スルニ在ルヘキ帝國政府ハ右新條約ノ締結ニ當リテハ我等世界大海軍國間ニ於テ其ノ保有量ノ超ユヘカラサル共通限度ヲ定メ且之ヲ出來得ル限り低下スルコトヲ根本トシ且攻撃的兵力ハ極力ハ之ヲ縮減シ防禦的兵力ハ之ヲ整備セシメ以テ軍縮ノ實ヲ舉クルト共ニ各國間ニ不脅威不侵略ノ事態ヲ確立スルコトヲ基礎ト爲ササルヘカラスト認ムルモノナリ帝國政府ハ實ニ之ヲ以テ公正妥當ナル軍縮協定ヲ達成シ大ニ各國國民ノ負擔ヲ緩和輕減シ眞ニ世界ノ恒久平和ニ貢獻スヘキ最良ノ方途ナリト堅ク信スルモノナリ依テ吾人ハ右方針ニ遵ヒ平和愛好ノ精神ヲ以テ各國全權ト虛心坦懷ニ折衝ヲ遂ケ最モ公正合理的ナル全般的

新軍縮協定達成ノ爲終始眞摯ナル協力ヲ爲サントスルモノナルコトヲ茲ニ開明ス

演說
帝國全權

(ヌ) 新西蘭全權「バー」演說

演說
新西蘭全權

第四章 第一回總會（開會式）

予ハ「ボーリドウイン」首相ノ所言ニ賛同スルモノニシテ同首相ノ表示セル希望ハ即チ新西蘭ノ希望ナリ新西蘭國人ハ一人トシテ軍備競争ノ巨費ヲ畏怖セサルモノナシ最富強國ト雖モ右競争ニハ堪ヘ得サルモ

新西蘭ハ倫敦條約第四編ニ關スル首相ノ聲明ヲ歓迎ス

本會議カ餘リ好マシカラサル事態ニ際シ開催セラレタルコトヲ感セサルヲ得サルモ時局ノ困難ニ拘ラス吾人ハ茲ニ會合シ重大ナル問題ヲ討議シ得ル事實ハ喜フヘキ前兆ト信ス

(ル) 南阿全權「テ・ウォーター」演説

世界平和ノ爲ノ一切ノ國際的活動ヲ支持スルハ南阿政府ノ政策ナリ南阿ノ安全ハ海軍ニ依存セス南阿ハ海軍ヲ有セス其ノ安全ハ(一)陸軍及空軍(二)地理的地位(三)全英聯盟ニ屬スルコト(四)南阿政府及人民ノ平和の意思ニ依レリ

今ヤ國際關係惡化シ各國民ハ陸海空軍擴張ヲ叫ヒ當局カ軍備ニ依テ國防ノ安全ヲ圖ルヲ餘儀ナクセラレツツアルハ南阿政府ノ憂慮スル所ナリ南阿政府ハ安全及平和ハ各國協同ノ軍縮政策ニ依テノミ實現セラルヘキヲ確信スルモノニシテ大國カ歩ヲ止メテ其ノ進ミツツアル方向ヲ吟味セシコトヲ懇願ス

演説 南阿全權

第五章 帝國提案ノ審議

第一節 委員會ニ於ケル討議ノ經過

第一款 第一委員會第一回會議(十二月十日)

一、第一委員會第一回會議ハ十二月十日午前十時半ヨリ「クラレンス、ハウス」ニ於テ「モンセル」海相議長ノ下ニ非公手續問題ニ關スル決定

一、第一委員會第一回會議ハ十二月十日午前十時半ヨリ「クラレンス、ハウス」ニ於テ「モンセル」海相議長ノ下ニ非公手續問題ニ關スル決定

一、先ツ議長「モンセル」ハ英國ノ態度ヲ闡明シテ大要左ノ通述フ
過討議ノ經

英國政府ノ海軍軍縮ニ對スル見解ハ一九三二年七月七日壽府軍縮會議ニ通告セラレタル聲明ニ明ニセラレタルカ英國政

府ハ全海軍國間ニ協定成ルニ於テハ今猶右程度迄軍縮ヲ行フノ用意アリ其ノ際同政府ハ量的方面ニ於テハ華府倫敦兩條約ノ原則ヲ、之ニ國際關係ノ變化ト各國ノ必要トニ依リ必要且有利トナレル修正ヲ加ヘテ存續セシムルコトヲ希望シ質的方面ニ於テハ英國政府カ縮減ノ用意アル限度ヲ示シタルカ同政府ハ一般的協定成ルニ於テハ今猶右限度迄縮減ノ用意アリ本件質的制限ニ關スル諸提議中ニハ先ツ潛水艦廢止ノ提案アリ英國政府ハ一九二二年以來之ヲ主張シ來レルカ主要海軍國ハ之ニ同意セサルニ付一般的同意ナキ限り實際的提案タラサルコトヲ認ム

客年來豫備交渉ノ結果華府倫敦兩條約ノ量的制限方式ノ繼續ハ一般的ニ受諾セラレサルコト明トナリタルカ華府條約ノ

基礎的原則ヲ繼續スル何等カノ方途ヲ發見スルコト喫緊事ナリ同條約ハ各海軍國ノ安全ノ平等、防禦ノ均衡確立ヲ目的トセリ前記原則カ永久ニ失ハルヘ極メテ不幸ナルヘシ依テ英國政府ハ量的數字ヲ排除シタル一方的自發的建艦宣言案ヲ提議セリ他國ハ大體ニ於テ本案ニ賛成セサリシカ本案ニ依ルカ又ハ他ニ良法アリヤフ發見スルハ本會議ノ一任務タルヘシ

英國政府ハ量的制限ノ重要性ヲ輕視スルモノニ非サルモ質的方面ニ於ケル競争ノ排除ハ量的制限ヨリモ更ニ緊要ナリト認ム一九三二年壽府ニ於テ英國ノ提議シタル質的限度ニ關シテハ最近ノ豫備交渉ニ於テ論議セラレタリ主力艦ニ關シテハ今日ハ一九三二年七月當時ト稍々事態ヲ異ニシ歐洲諸國ハ之カ建艦ニ着手シタルモ此等諸國ハ今後建造ノ分ニ付テハ艦型備砲ノ大縮減ヲ行フニ賛成ナルコト明ニセラレタリ尤モ豫備交渉ノ結果主要海軍國カ一九三二年英國提案ノ如キ大縮減ヲ行フ能ハナルコト明瞭トナレリ大型主力艦ヲ必要トスル國ヲ満足セシメ然モ能フ限リ英國ノ質的制限案ニ接近スル如キ妥協點ヲ見出スハ本會議ノ任務ナリ巡洋艦ニ關シテモ英國案程度ノ縮減ハ困難ナルコト豫備交渉ニ於テ明ニセラレタルカ一般ニ受諾シ得ル最低限度迄ノ縮少ニ努メサルヘカラス潛水艦廢止案ニ付テハ既ニ述ヘタルカ最大限ヲ二百五十噸トスルノ案ハ一般的受諾ヲ得ス

量的制限ノ形式、質的制限ノ程度如何ニ拘ラス充分且率直ナル情報ノ交換ハ猶疑及不意討除去ノ爲必要ナルニ依リ英國政府ハ華府及倫敦兩條約中情報ノ交換ニ關スル規定ヲ存續擴張スルコト及殊ニ龍骨据附ニ先立チ建造ノ事前通報ヲ行フノ可能性ヲ研究センコトヲ希望ス

尙艦種噸數等ノ定義、制限外艦船、特殊艦船、代換規則、軍艦處分規則等ニ付研究調査ノ要アリ右ニ付テハ追テ提議スヘシ

華府條約第十四條（商船ノ武裝ニ關スル制限）第十七條（戰爭中他國ノ爲ニ建造中ノ軍艦使用ノ禁止）第十八條（軍艦ノ處分方法ニ關スル約定）ノ存續ハ一般ノ希望スル所ナルコト豫備交渉ニ於テ明ニセラレタリ同第十九條ニ付テハ關係

國間ニ商議ノ要アルヘシ

英首相カ開會演説中ニ指摘セル通倫敦條約第四編ハ無期限ニ效力ヲ有スル處右ハ海軍制限ト直接關係ナキカ故ニ英國政府ハ之ヲ全世界海軍國ノ加入ノ爲ニ開タルヘキ特殊ノ議定書其ノ他ノ適當ノ文書ニ包含セシムルコトヲ提議スヘシ吾人ノ當面スル問題ハ各國カ其ノ必要ヲ充スニ足ル餘裕ヲ與ヘラレ乍ラ軍備競争ヲ避ケシムル協定ヲ達成スルニ在リ華府條約ハ過去十四年間軍備競争ヲ防止シ安全ノ平等、防禦ノ均衡ヲ確立シ平和ニ至大ノ貢獻ヲナシ倫敦條約ハ更ニ之ヲ強化セリ吾人ハ右條約ニ二代ル協定達成ニ努力スヘキナリ

三、續イテ米國全權「デーヴィス」ハ米國側ハ海軍軍備ノ一率縮減又ハ現存條約其ノ儘ノ更新若ハ之ニ事態ノ變化ニ應スル變更ヲ加ヘタルモノノ成立ヲ希望スルモノニシテ何等積極的ニ求ムル所ナシ華府條約ハ各國ノ讓歩ニ依テ成立セルモノニシテニ附隨スル協定ト相俟テ安全ノ平等ヲ實際的ニ可能ナル範圍ニ於テ實現シタルモノニシテ當時各國ハ此等諸條約ニ依リ平等ノ安全ト公平ナル待遇ヲ受ケタルニ滿足シタルコトハ公正ナル均衡ニシテ此等諸條約カ何等他國ニ害ヲ與ヘ其ノ安全ヲ危殆ナラシムルニ至リタリトハ思考セサルモ關係國間ニ意見ノ根本的懸隔ヲ生シタルコトハ之ヲ認ム尤モ吾人ハ海軍競争ヲ避ケ何等カノ協定ニ達シ海軍費ヲ節約セントスルニ於テ一致シ居ルカ故ニ此處ニ協定ノ基礎ヲ見出シ得ヘキナリ尙米國ハ前頭英國側ノ諸提議ノ全部ニハ非サルモ其ノ多クノ點即チ潛水艦ノ廢止及技術的事項ニ關スル諸點並ニ問題ノ一般的取扱方ニ賛成ナリ再言セんニ吾人ハ何等要求スル所ナシ而シテ問題ノ解決ニ能フ限リノ助カ力ヲ爲サントスルモノナリト述フ

四、次ニ永野全權ハ英米カ安全感ノ問題ニ重キヲ置キタルハ欣快トスル所ナリト前置シタル上左ノ通今次會議ニ對スル我根本方針ヲ闡明セリ

ハ先ツ以テ戰爭ノ脅威ヲ除カサルヘカラス此ノ趣旨ニ立脚シ帝國ハ左記ヲ以テ海軍軍縮ノ根本方針ト爲スモノナリ

『國家安全ノ爲必要トル限度ノ軍備ヲ有スルノ權利ハ各國齊シク之ヲ享有スル所ニシテ軍縮協定ノ締結ニ當リテハ此ノ主義ヲ尊重シテ各國國防ノ安全感ヲ害スルコトナク不脅威不侵略ノ事態ヲ確立スルヲ以テ原則ト爲ササルヘカラス其ノ具體的方策ハ先ツ世界ノ大海軍國間ニ於テ各國ノ保有シ得ヘキ兵力ノ共通最大限度ヲ設定スルヲ根本トシ之カ協定ニ當リテハ右限度ヲ出來得ル限り小ナラシメ且攻撃的兵力ハ之ヲ極力縮減シ防禦的兵力ハ之ヲ整備シ以テ各國ヲシテ攻ムルニ難ク守ルニ不安ナカラシムルヲ基礎トセナルヘカラス』

以上開陳セル所ハ海軍兵力ノ量的及質的兩方面ニ亘リ最モ公正妥當ナル軍縮協定ヲ達成スヘキ最良ノ方途ナリト確信スル所ニシテ帝國政府ハ今次會議ニ於テ右ヲ討議ノ基礎トシテ探擇セラレンコトヲ要求ス尙帝國ハ右根本方針ニ則リ各國一率ニ航空母艦ヲ全廢センコトヲ主張シ主力艦ニ付テモ各國ト共ニ之ヲ全廢スルノ用意アルコトヲ茲ニ闡明ス國防上ハ勿論軍縮ヲ實現シ國民負擔ヲ輕減スルノ見地ヨリ最モ重視スヘキハ量的制限ノ達成ニ在リ先ツ量的制限ニシテ成ランカ質的制限ノ實現ノ如キハ比較的其ノ困難度渺カルヘシ之ニ反シ量的制限ヲ行ハスシテ質的制限ノミヲ協定スルハ現ニ優勢海軍力ヲ有スル國カ其ノ優位ヲ維持スルニ好都合ニシテ極メテ不公平ナルノミナラス之ニ依リ必シモ量的建艦競争ヲ防止シ得シテ却テ之ヲ激成スルノ虞アリ

右ノ見地ヨリ帝國政府ハ先ツ量的問題ヲ討議シテ以テ各國國防ノ安固ヲ確保スルト共ニ軍縮ノ實ヲ舉ケ次ニ質的問題ニ入り以テ公正妥當ナル全般的協定ヲ達成スル如ク會議ヲ指導セラレンコトヲ要請ス』

五、茲ニ於テ議長ハ日米兩國ノ興味アル陳述ヲ聽ケリ米國側ハ量的制限ニ關シテハ華府及倫敦兩條約ノ原則ニ異議ナキモノ思料セラルルモ他方日本ノ提案ハ極メテ重大ナルニ付日本側カ量的問題ノ先議ヲ希望シ居ルニモ鑑ミ先以テ日本案討議方ヲ諮詢タシト述ヘ別段異議ナク續イテ

述
佛伊ノ陳

六、佛國全權「ロベール」中將ハ從來ノ經驗ニ鑑ミ量的制限ノ困難ヲ指摘シタル上差當リ一九三七年以降ノ代艦ノ艦型縮小ヲ圖ルヘク英國政府モ客年（昭和九年）八月二日ノ覺書中ニ於テ質的制限ヲ以テ量的制限ヨリ急務ナリトセリ佛國全

議長日本
案先議方
チ詔ル

日本案ニ
對スル質
疑モンセ
ル質問

權ハ建艦ノ事前通報案採擇方ニ關スル英首相ノ聲明ヲ欣然確認スルモノナリト述ヘ伊國全權「ビニ」中將ハ右佛國側提議ニ原則トシテ贊成スヘシト述ヘタリ

七、茲ニ於テ「モンセル」ハ先ツ日本提案ニ付テハ更ニ詳細ノ點ヲ承知シタキニ付疑問ノ點ヲ質問スヘシトテ共通最大限ハ小海軍國カ最大海軍國マテ兵力ヲ増大スルモノナリヤ又ハ逆ニ死活的必要ト重大ナル責任ヲ有スル大海軍國カ小海軍國ノ程度迄兵力ヲ縮減スル意味ナリヤ次回ニテモ回答ヲ得タシト述ヘタルニ依リ

永野全權ヨリ日本案ニ對スル疑義ハ一括明日御答ヘスヘシト云ヒタル處

〔テーヴィス〕ハ（イ）共通最大限カ如何ニシテ實現セラルルヤカ第一ノ問題ナルカ日本ハ其ノ具體的建艦計畫（艦型及建艦噸數並ニ共通最大限實現ノ期間等）ノ用意アリヤ（ロ）共通最大限ノ適用セラルヘキ海軍國ノ範圍（ハ）華府會議ニ於テ日本全權カ其ノ當時ノ基礎力平等ノ安全ヲ與ヘタリシタシ同同意シタル以來之ヲ覆スヘキ如何ナル事態發生シタリヤ又右カ平等ノ安全ヲ與ヘタルモノナルニ將來ノ安全ノ平等ノ爲ニ比率（ノ語ヲ用ヒルナラハ）ノ變更ヲ何故ニ必要トルヤト問ヒ

濱洲全權「ブルース」ハ世界ニ亘リ死活的利益ヲ有スル國ハ他國ヨリモ大ナル兵力ヲ有セサルヘカラナルニ共通最大限ヲ設クルニ於テハ大海軍國ハ不安全ニ陥ルヘシ右限度ノ設定ハ如何ニシテ安全感ヲ増大スヘキヤト問ヒ

新西蘭ノ
質問

〔モンセル〕ノ批評
〔モンセル〕ノ批評
「モンセル」ヨリ重ネテ日本案ニ依レハ最大海軍國以外ハ何時ニテモ共通最大限マテ自由ニ建艦シ得ルコトトナリ最大海軍國ニトリ不公正ナリト述ヘ質問ヲ終リタリ

八、茲ニ於テ永野全權ハ本日ノ質問ヲ一括書面トシテ提示方ヲ希望シ議長之ヲ了承シ尙佛伊等ハ本日質問ヲ爲ササリシモ必要アラハ後刻書面ヲ以テ質問ヲ申出ツルコトトシタキ旨希望セルニ付我方ハ之ヲ諾シタリ（佛國全權側ヨリハ同日午後共通最大限ハ總噸數ニ適用セラルルヤ艦種別ニ適用セラルルヤ質問シ來レリ）

スルト同時ニ歐洲海軍國間ニ於テハ相互ニ非常ニ大ナル關心アリト信セラル蓋シ歐洲ニ於テハ種々我々ノ知リ得サル相當ニ複雜セル關係モアルヘシ歐洲海軍相互ノ相談ハ共通最大限内ニ於テ適當ノ點ニ落付カシムルコトニ對シテハ我方ニ於テ異存ナシ尙又米國カ右歐洲國間ノ相談ニ參加スルコトニ我方ニ於テ異存ナシ只此ノ會議ニ於テ萬一日日本ノ利害ニ關シ重大ナル事項議セラルル場合ニハ發言ノ權利ヲ有スルモノナリ

共通最大限ノ一般的説明

限説明

次ニ他ノ質問ニ答フルニ先立チ共通最大限ニ關シ簡單ニ一般的説明ヲ加ヘタシ

「ヴァルネラビリティ」ハ國ニ依リ夫々相違アルヘキモ實際ニ如何ナル相違アリヤハ研究ヲ要ス軍縮會議ニ於テハ特ニ各國ノ安全ノ均等ニ關シ重大ナル考慮ヲ拂ハサルヘカラスト思考ス「ヴァルネラビリティ」ニ關シ考慮スヘキ點ハ種々アランモ其ノ中最モ直接的且重要ナルハ兵力ノ不當ナル差等ニシテ一方ニテハ攻擊可能ナルニ他方ニテハ守ルニモ足ラサルカ如クンハ安全ノ均等ノ實ハ之ヲ舉クル能ハス故ニ不安ノ最直接且重大ナル原因ヲ除クト共ニ軍備ヲ出來得ル丈低下ゼンカ爲共通最大限ヲ設ケ之ヲ基礎トシ各國特殊ノ事情ヲ加味考量シテ調節(「アジャストメント」)ヲ行ヒ以テ兵力量ヲ協定スヘキモノニシテ基準ヲ定メシテ各種ノ事情ヲ集積スルノミニテハ各國ノ満足スル兵力量ノ協定ハ困難ナリ帝國ノ目的ハ總テノ國ノ満足スヘキ協定ニ到達スルニ在リ而シテ共通最大限ニ關スル問題ハ廣汎ナル含蓄ヲ有スルモノナルヲ以テ余ハ此ノ點ヲ第一ニ説明セント努力シタル次第ナリ

第一問

限ノ高サ

日本ノ提案ハ協定保有量ノ共通最大限ノ量ハ出來得ル限リ少ナクセントスルモノナリ扱實際ニ當リ其ノ量ヲ如何ニ定ムヘキヤハ關係國間ノ相談ニ依リ定マル次第ナルカ出來得レハ日本モ亦相當ノ縮少ヲ爲シ得ルカ如キ低キ量ニ協定ヲ得度キ次ニシテ之ニ依リテノミ軍縮ノ精神ニ合致スル解決ヲ得ラルヘシ但シ不幸ニシテ共通最大限高ク爲リタル場合ニハ日本モ其ノ結果トシテ生スル不足ヲ補充スルノ權利即チ共通最大限カ高ク設定セラレタル爲生スル差額ヲ補足スルノ權ヲ有スルモノナルヲ以テ余ハ此ノ點ヲ第一ニ説明セント努力シタル次第ナリ

利ヲ主張スルモノナリ共通最大限ヲ定ムル目的ハ之ニ依リ出來得ル限リ少ナクセントスルモノナリ扱實際ニ當リ其ノ量ヲ如何ニ定ム現セントスルニ在リ併シ乍ラ各國ニ於テ夫々自國ノ「ヴァルネラビリティ」等ニ關シテ御意見モアルヘキニ付其ノ點ハ相互ニ研究シ量ノ内容ニ (In the types to be possessed) 適當ノ調節(「アジャストメント」)ヲ加フルニ各ナラス大海軍國ニ大ナル犠牲ヲ要請スルハ誠ニ御氣ノ毒ニテ心苦シキ次第ナルカ海軍軍縮ノ大業ハ大海軍國カ世界ノ爲ニ犠牲ヲ拂フニ非サレハ到底之ヲ達成シ得ス日本全權目下ノ心境ハ一九三二年十一月英外相カ壽府ニ於テ空軍兵力縮少ニ關シ提案ヲ爲シタル場合ノ心境ト略同様ナリト信ス大海軍國ニハ辛キコトトハ信スルモ海軍軍縮ノ大業ヲ達成スルニ最モ早く且實現性アル方法ナリト確信スルヲ以テ敢テ之ヲ提案セル次第ナリ

(此ノ時「モンセル」議長ハ日本全權ハ共通最大限内ニ於テ各國ノ「ヴァルネラビリティ」ニ相違アリ從テ國防上ノ必要ニ相違アルヲ認メラルモノナルカ唯今ノ御説明ニ依レハ右國防上ノ必要ノ相違ハ量の方面ニ於テ調節セラルルニ非シテ艦型(types of ships) 即チ質的方面ニ於テノミ調節セラルルモノト解セラルル處然リヤト訊ネタルニ付永野全權ハ目下討議中ノ日本案ハ量的方面ニ關スルモノニシテ從テ御質問ノ點モ量的方面ニ關スルモノト御承知アリタシト答フ)

第二問

共通最大限
限ニ至ル
建經計畫

共通最大限カ量的ニ定マルニ非サレハ建艦計畫ハ到底之ヲ作製スルヲ得ス今後協議ノ結果此ノ量カ決定セハ御互ノ建艦計畫ニ付御相談シ得ヘシト考フ

第四問

國防規制
法ニ關セ
ル「モンセ
ル」ノ
質疑

華府條約ハ幾多複雜ナル事情ノ下ニ遂ニ締結セラルルニ至リシカ當時隨員ノ一人タリシ余ハ其ノ時我方カ此ノ條約ニ依リ安全ノ均等ヲ得タリト考ヘ居リシトハ信スル能ハス夫レハ免モ角日本ニ於テハ我等多數ノ者ハ華府條約ハ日本國防ヲ危殆ナランシムルモノナリトノ所見ヲ持セリ爾來兵器ノ進歩ニ隨ヒ研究ノ結果ハ益々其ノ然ルヲ信シテ今日ニ至リ今日ニ於テハ我々ノ意見カ日本ノ國論トナリ居ル次第ナリ今回提案ノ依テ來ル所以ナリ

前述ノ如ク「ヴァルネラビリティ」ハ國ニ依リテ差異ノ有リ得ヘシトハ考ヘ居ルモ「ヴァルネラビリティ」ハ其ノ關係スル因子甚タ多キヲ以テ此等ハ夫々慎重ニ研究セサルヘカラサルモ只其最大ナル原因ハ國家ノ保有スヘキ兵力量ニ差等ナリ不平トナラスヤ

「ヴァルネラビリティ」ヲ取除クコトハ各國ノ慎重ニ考慮セサルヘカラサル所ニシテ之カ爲ニハ何ヨリモ先ツ兵力ノ差等ヲ撤廢シ且爲シ得ル限り攻撃的兵力ヲ縮減シ不侵略ノ狀態ヲ作ルコトカ最必要ニシテ且有效ナリト信スルナリ

「ヴァルネラビリティ」ヲ附スルコトニ在ルヲ確信スルモノナリ

「ヴァルネラビリティ」ハ國ニ依リテ差異ノ有リ得ヘシトハ考ヘ居ルモ「ヴァルネラビリティ」ハ其ノ關係スル因子甚タ多キヲ以テ此等ハ夫々慎重ニ研究セサルヘカラサルモ只其最大ナル原因ハ國家ノ保有スヘキ兵力量ニ差等ナリ不平トナラスヤ

アルニ付御質問ノ如キ不公平ハナシト信ス大海軍國力最大ノ犠牲ヲ拂フヲ要スルコトナルハ一面甚タ御氣ノ毒ノ感アルモ前述ノ如ク是一ニ世界平和ヲ確立スル爲拂ハサルヘカラサル犠牲ナリ

即チ共通最大限ヲ定メテ不脅威不侵略ノ狀態ヲ實現センカ爲ニハ最大ノ兵力ヲ有スルモノカ最大ノ犠牲ヲ拂フコトハ已ムヲ得ヌ次第ト信ス

又共通最大限ヲ設ケ此限度ヲ爲シ得ル限り低下スル我方ノ主張ハ軍縮ノ實ヲ舉クルニ最モ迅速ニシテ且實現性ヲ有スルヲ信スルモノナリ

第七問ニ對スル回答ハ前述セル所ニ含マルルカ故ニ之ヲ省略スヘシ

第八問

全兵力ヲ總括的ニ制限スルノ外甲級巡洋艦以上ハ各艦種別ニ乙級巡洋艦以下ハ一括シテ總噸數ニテ制限シタキ考ナリ二、以上永野全權ノ說明ニ對シ「モンセル」ハ

共通最大限
限適用ノ
方式

「モンセ
ル」ノ反
駁

(イ) 共通最大限ヲ三國ノミニ適用スルトスレハ其ノ他ノ國トノ關係ニ於テ結局日本ノ排除セントスル比率主義カ殘ル結果ト爲ラスヤ尙英國トシテハ倫敦會議當時ト異リ三國間ノミニ恒久的ニ協定ヲ行フコトハ不可能ナリ

(ロ) 華府條約ハ關係國間ニ防禦ノ均衡(equilibrium of defence)ヲ與ヘ相互ニ攻撃ヲ不可能ナラシメタリ防禦ノ均衡ハ必スシモ海軍兵力ノ均等ニ非ナル處共通最大限ヲ設クルトキハ各國共右限度迄建艦シ得ルニ依リ結局海軍兵力ノ均等トナルヲ以テ安全ノ平等ヲ全然覆スニ至ルヘシ

(ハ) 現在ノ日本兵力以下ニ共通最大限ヲ設ケントスルカ如キハ全ク不可能ニシテ英國ノ世界ニ瓦ル重大責任ニ鑑ミルモ右限度ハ相當高ク定ムルノ要アルヘキ處其ノ場合各國内ニ「ブレスティージ」ノ關係上右限度迄建艦スヘシトノ論ヲ生シ其ノ結果ハ軍擴ヲ招致シ日本ノ所期スル所ト反対ノ結果ヲ見サルヘキヤラ虞ル

(ニ) 各國特殊ノ事情ニ應シ共通最大限内ニ於テ調節ヲ加フヘシト言フモ如何ニシテ之ヲ實現シ得ヘキヤ了解ニ困難ナリ又事實上共通最大限迄必スシモ建艦セサルヘシトノ說有ランモ世界ニ瓦リ騒亂ノ起リタルカ如キ場合他國カ右限度迄建艦スルニ至ラハ最大海軍國トシテハ極メテ不安ヲ感スヘシトテ前日ノ所言ヲ繰返セリ

三、永野全權ノ希望ニ依リ右ニテ討議ヲ打切リ十二日午前十時半ヨリ續行ノコトトシテ午後五時散會セリ

第四款 第一委員會第三回會議(十二月十二日)

第一委員會第三回會議ハ十二月十二日午前十時半開會前回ニ引續キ日本案ニ對シ各國其ノ反対意見ヲ開陳シタルカ大要左ノ如シ

一、(イ) 先ツ米國全權「デーヴィス」ヨリ昨日日本全權ハ大統領ノ書翰中日英米三國ノミヲ舉ケタル點ニ言及シタルカ右ハ

當時華府條約ノ廢止通告未タ行ハレス會談ハ專ラ倫敦條約締約國タル三國間ニ行ハルルコトトナリ居リタル爲ナリト說明シタル上

米國ハ共通最大限ニ根本的ニ反対スル英國ノ見解ト全般的ニ同感ニシテ特ニ日本案ハ却テ全般的ニ軍擴ヲ招來スル

モノト認ム華府條約ハ危險ナル製艦競争ヲ阻止シ安全ノ平等及防禦ノ均衡ヲ確立シタルカ問題ハ右均衡ヲ何等カノ方法ニ依リ繼續スヘキカ又ハ海軍兵力平等ノ案ニ依ルヘキカノ點ニ在ル處後者ハ各國ノ必要(needs)ノ相違ヲ考慮ニ入レサルカ故ニ安全ヲ確保シ難シト簡單ニ述ヘ

(ロ) 次ニ濱洲全權「ブルース」ハ安全ノ平等ヲ確保スルカ爲ニハ海軍兵力カ各國ノ「ヴァルネラビリティ」及責任ニ比例スルヲ要シ華府條約ハ之ヲ實現シタルモノナルカ共通最大限ヲ設クルトキハ各國共右限度迄ノ建艦方ヲ鼓舞セラレ財政ノ負擔ヲ増大スヘシト指摘シ

(ハ) 加奈陀全權「マッサー」ハ日本案ノ實際的效果ニ關シ他國代表ト同様ノ疑問ヲ有スト述ヘ

(ニ) 佛國全權「ロベール」中將ハ根本ノ問題ハ別トシ日本側ノ説明(前款一、第三問ニ對スル答參照)ニ依レハ日本ハ先ツ日英米三國間ニ協定ヲ行ハントスル意図ナルヤニ認メラルモ斯カル手續ニ依リタルコトハ華府會議以外ニ例ナキ所ニシテ佛國トシテハ大ナル責任ヲ有スル其ノ地位ヲ考慮ニ入レサル右ノ如キ手續ニハ贊成シ難シト述ヘ

(ホ) 伊國全權「ビニ」(ビシア少將代讀ス)ハ日本ハ第一回會議ノ際各國(all the nations)共其ノ安全ノ爲メ必要トル限度ノ軍備ヲ有スルノ權利アリ軍備協定ハ此ノ主義ヲ尊重シ各國國防ノ安全惑々害スルコトナクシテ成立セサルヘカラス之カ爲ニハ大海軍國ハ其ノ海軍兵力ノ共通最大限ヲ定ムルヲ要スト述ヘタルカ第二回會議ニ於テハ日英米ノミニ共通最大限ヲ適用スヘシト説明セルハ全ク別個ノ新提案ヲナシタルモノナル處伊國トシテハ三國間ニ協定ヲ行フノ手續ニハ反対ナリ今次會議ノ目的ハ五國ハ勿論其ノ他ノ諸海軍國ニモ適用シ得ヘキ基礎ヲ發見スルニ在ルヘシ日本案ハ其ノ何レニモ資セスト述ヘ

(ヘ) 南阿全權「テイ・ウォーター」ハ日本案ハ軍備制限ノ目的ヲ達シ得ルヤハ疑問ナリト云ヘリ

二、茲ニ於テ永野全權ハ昨日來爲ト各國ノ意見ヲ聽取セルモ之ニ依リ何等帝國ノ主張ニ變更ヲ加フヘキ點ヲ發見セス各國ノ陳述ニ對スル我方ノ意見ハ後日開陳スル所アランモ茲ニ明ナラシメ置キタキ事ハ假令如何ナル理由ヲ以テスルモ戰略

英ノ陳述

陳述
帝國全權

的ニ兵力運用ノ實際的見地ヨリ見テ一國カ他ニ對シ脅威的侵略的ナレ優勢兵力ヲ保有シ他方ハ之ニ對シ守ルニモ足ラサルカ如キ實情ヲ生スルカ如キ協定ハ帝國トシテ絶對ニ承認シ得サルコト之ナリ尙帝國提案ハ各國ノ「ヴァルネラビリティ」及必要ニ付充分ノ考慮ヲ拂フモノナルコトハ既ニ述ヘタルモ誤解ナキ様茲ニ再言スト述ヘタリ

三、最後ニ英國側「チャトフィールド」ハ日本ハ(イ)各國カ共ニ満足スヘキ協定ヲ希望シ(ロ)平等ナル安全ヲ必要ト認メ

(ハ)「ヴァルネラビリティ」ニ相違アルコトヲ認ムルモノナリ而シテ一九三七年以降各國ハ自由ノ立場ニ置カルルカ故ニ比率ニ關聯スル「ブレスティング」ノ問題ハ消滅シ殘ル所ハ安全ノ問題ナル處之日本ノ強調スル所ナリ而シテ日本ハ其ノ現保有兵力以下ノ點ニ日英米ノ共通最大限ヲ設定センコトヲ示唆セルニ付例ヘハ英米日ノ兵力ヲ二、二、二ト定メタリトセンニ其ノ場合歐洲海軍國モ共通最大限ノ原則ニ基キ同シク二、二、二ノ兵力關係ヲ要求スヘキハ當然ナリ茲ニ於テ歐洲ト太平洋トニ責任ヲ有スル國ハ兵力分割ノ必要上ニ以上例ヘハ四ノ兵力ヲ要スヘク其ノ場合日本カ右ハ自國ニ重大利害アリトシテ(前款一、第三問ニ對スル答後段參照)等シク四ノ兵力ヲ要求スルニ至ラハ二ノ防禦的兵力ハ一轉シテ四ノ攻撃的兵力トナリ不脅威不侵略ノ原則ニ背馳スヘシ

又日本ハ一方ニ於テ國ニ依リ「ヴァルネラビリティ」ニ差異アルヲ認メ乍ラ他方兵力ノ差等ヲ以テ安全ヲ脅カス原因ト爲スモ(前款一、第五問ニ對スル答參照)兵力ニ差等ヲ設ケヌシテ如何ニシテ各國相違スル「ヴァルネラビリティ」ニ「ミート」シ得ヘキヤ了解シ難ク此ノ種ノ疑問ハ尙多キニ付日本側カ各國ニ満足ノ往ク様充分説明ヲ與ヘラレンコトヲ希望スト述ヘ其ノ他ニ發言者ナカリシニ依リ翌十三日前我方ノ説明ヲ聽取スルコトシテ零時二十分散會セリ

第五款 第一委員會第四回會議(十二月十三日)

第一委員會第四回會議ハ十二月十三日午前十時半ヨリ開會前回ニ續キ日本案ニ關スル討議ヲ行フ

一、先ツ前回發言セサリシ新西蘭全權「バー」ヨリ日本案ハ海軍兵力ノ大縮減ヲ要求シ居ルモ聯合王國ヨリ遠隔ノ地ニアル新西蘭トシテハ通商路保護ノ必要ニ鑑ミ右ノ如キ大縮減ニハ不安ヲ感シ從テ日本案ニ同意シ難シト述フ

二、次テ永野全權ハ各國ノ質問ニ對シ重ネテ左ノ通説明セリ
ノ再説明

帝國全權
國防脆弱
性ニ對ス
ル調節
共通最大
限適用ノ
範圍
性ト兵力ノ
關係

諸全權各位ノ御意見ヲ拜聽シ之ニ對シ當方ノ意見ヲ陳述スルニ當リ重複ヲ避ケル爲各全權御意見中ノ同シ種類ト思ハルモノハ之ヲ一括綜合シテ御答ヘスルコトシタルニ付御了承ヲ得度シ而シラ本日ノ説明ニ依リ尙御了解ノ出來ヌ點アラハ何卒更ニ御質問アリタシ

前回ニ於テ余ノ爲シタル答辯ノ通共通最大限ヲ設タル目的ハ各國ニ満足ヲ與ヘ得ル兵力ヲ協定スル爲ノ基礎的第一手段トスルニ在リテ之ヲ基礎トシ各國ノ「ヴァルネラビリティ」「ニード」等各國ニ取リテ極メテ重要ナル影響ヲ有スル諸因子ヲ充分且慎重ニ研究シ以テ各國ニ満足ナル内容ヲ有スル兵力量ヲ協定セントスルモノナリスクノ如クシテ成立セル各國保有兵力量ハ各國ノ「ヴァルネラビリティ」ニ對シ適當ナル調節カ加ヘラレアルモノナルニ依リ各國ハ之ニ依リ如何ナル狀況ニ於テモ自國ニ特有ナル不利ノ事情ハ保護サルルコトナル次第ナリ今回ノ御質問ヲ拜聽スルニ此ノ點ニ關シ何等自國ノ「ヴァルネラビリティ」或ハ「ニード」等カ調節セラレサル様ニ考ヘラル向モアルヤニ存セラル處之ハ或ハ從前ノ余ノ説明カ充分ナラサリシ爲ニハ非スマト心配シ居ル次第ナリ

若シ余ノ説明カ不充分ナリシナラハ遺憾ナリ

(一) 共通最大限案ヲ日英米三國ノミニ適用スルハ適當ナラストノ説ニ對シ

(イ) 我々カ共通最大限設定案ヲ先ツ日英米三國間ニ討議スルコトヲ提案シタルハ過去ノ軍縮會議ノ例ニモ鑑ミ最モ實際的方法ナリト考ヘ且日英米三國ハ互ニ大洋ヲ相隔テ存在シ其ノ國防ハ相互ニ專ラ海軍ニ依ルト云フ狀況ヨリ見テ最モ話カ經リ易ク且最モ意義アル軍縮ヘノ第一ノ捷徑ナリト考ヘタルニ依ル元來共通最大限案ハ何レノ國家間ニ適用セラルルトモ帝國トシテ何等異存アルヘキモノニ非ス故ニ若シ各國ニ於テ御希望ナラハ此ノ案ヲ五國ニ適用シ五國同時ニ審議スルコトニ異存ナシ又本件ニ關聯シ佛國全權ノ御意見モアリタル處日本提案ヲ逆ニ考ヘ量ニ關シテ先ツ歐洲海軍國間ノ協議ヲ先ニシ次テ百英米ノ會議ニ移ルコトカ若シ關係各國ノ便利トスル所ニシテ且實際的良法

ナリト考ヘラルニ於テハ日本ニ關スル限り右ニ異存無ク要ハ唯本軍縮會議ヲシテ成功セシメントスル日本ノ誠意ヨリシテ日本案ヲ提言シタルノミ決シテ別ニ他意アリシニ非ス

(二) 「ヴァルネラビリティ」ト兵力トノ關係ニ對シ

(イ) 各國ノ「ヴァルネラビリティ」ノ差異ハ先日説明セル通帝國全權ノ考ニテハ其ノ由來スル原因ハ種々アルモ就中兵力ニ不當ノ差等ヲ存スルコトカ直接且最大ノモノナリト信スルカ故ニ先ツ之ヲ除去スル爲共通最大限ヲ定メ其ノ後各國ノ「ヴァルネラビリティ」ヲ調查研究シ適當ノ修正ヲ加ヘテ各國ニ満足ナル保有兵力量ヲ定メントスルモノナルコト累次申シ述ヘタル通ナリ例ヘハ精巧ナル品物ヲ作ル場合先ツ大體ニ適當ナル形ニ之ヲ作リ其ノ後各部ヲ精細ニ調整シ以テ其ノ完成ヲスルト同様ノ方法ヲ以テ此ノ困難ナル兵力量問題ヲ協定スルカ一番適當ト思ハル
(ロ) 而シテ「ヴァルネラビリティ」ノ問題ハ簡單ニ論議ヲ盡シ難シト考フル處果シテ之ニ如何ナル差異アリヤニ關シテハ日本ハ之ヲ各國ト共ニ研究スルノ用意ヲ有ス

(ハ) 昨日英國側ハ英國ハ歐洲國ニシテ同時ニ太平洋國ナルカ故ニ二倍ノ兵力ヲ要スト言ハレタルカ帝國ノ考トシテハ海軍兵力ノ移動性大ニシテ其ノ集散離合ノ比較の不容易ナルノ特性ニ鑑ミ英國側ノ言ハルルカ如ク各地ニ分散セル兵力ヲ別個ノモノトシテ考慮スル能ハス兵力運用ノ實際ノ見地ヨリ見テ又各國ニ存スル特殊ナル事情ヲ考量スレハ一國ノ海軍兵力ハ其ノ全部ヲ總括シ相對照シテ考慮スルヲ至當ト認ムルモノナリ例ヘハ家ノ大小ニ應シ之ヲ守ル爲大ナル家ニハ小ナル家ニ比シ多數ノ番犬ヲ要スルハ當然ナルカ此等大家ニ屬スル多數ノ犬カ聯合シ小家ニ屬スル小數ノ犬ヲ噛ミ倒スカ如キコト無カラソコトヲ希望セサルヲ得ス(此ノ時議長「モンセール」ハ英國ハ二倍ノ兵力ヲ要スト云ヒタルコトナシト訂正シ尙番犬ノ例ニ付テハ右ハ番犬ノ鎖ノ長サ如何ニ依ルヘシト云フ)

(三)

(イ) 共通最大限ヲ設定スルモ建艦競争ヲ防止シ得サルヘシトスル說ニ對シ

競争共通最大
艦

第五章 帝國提案ノ審議

要ニ從テ整備シ得ル如ク爲シ以テ各國ノ兵力ノ内容ヲシテ互ニ攻ムルニ難ク守ルニ不安ナカラシメントスルモノナレハ之カ實現スレハ孰レノ國カ共通最大限ノ限度内ニ於テ其ノ國防上必要ナル兵力ヲ如何様整備スルトモ他國ヲ脅威スルコトナカルヘク從テ建艦競争ヲ生スル虞ナシト考フ先ツ共通最大限ヲ定ムレハ自然議論ハ其ノ範圍内ニ於テ行ハルヘキモ共通最大限ナシニ議論スレハ各國主張ノ兵力量ハ何處迄上騰スルヤモ知レス

(ロ) 尚又共通最大限ヲ低下スルトモ兵力ノ内容カ不脅威不侵略ノ原則ニ適フモノナル以上互ニ他國ノ脅威ヲ受クルニ至ルコトナカルヘシ

但シ共通最大限ヲ如何ニ定ムヘキヤハ無論各國ノ御都合ヲ聞キテ定ムル用意アリ
華府條約ハ各國ニ安全ノ平等ヲ與ヘタリトスル說ニ對シ所見ヲ開陳スヘシ

(イ) 華府條約ハ最モ激烈ヲ極メタル當時ノ建艦競争ヲ抑止シタルコトハ吾人モ之ヲ認ムルモ五、五、三ノ比率ハ當時ノ大艦ノ現有勢力ヲ特殊ノ方法ニ依リ計算シタル數字(此處ニ一言断り置キタキハ其ノ數字ノ計算法ニ付テハ當時日本側ニ於テ大ナル異議アリシコト之ナリ)ヲ基礎トシタルモノナレハ一時ノ偶然ノ事實ヲ基礎トシ而モ其ノ時ハ世界大戰ト言フ異常ナル出來事ノ有リタル直後ニ於ケル變態的ナル狀態ニ於テ締結セラレタルモノニシテ世界大戰ノ爲或國ハ海軍ニ適當ナル考慮ヲ拂フ能ハス専ラ力ヲ陸軍ニ注キタル國モアルヘク又ハ此ノ反對ノ國モアリタルヘク永年ニ亘リ之ヲ存續セシムヘキ性質ノモノニ非ズ

華府條約夫レ自身ノ規定ニ依ルモ同條約ヲ十五年間タケ存續セシメ而モ其ノ期間中ニ於テサヘ之ニ改變ヲ加フルコトアルヘキヲ豫見シ居ルニ非スヤ

(ロ) 華府條約五、五、三比率協定ノ次第ハ前述ノ通ニシテ「ヴァルネラビリティ」ノ研究ニ多大ノ力ヲ拂ハレタルモノニ非ス又世界ノ最大海軍國タラサル我々ヨリ見レハ決シテ同條約ニ依リ全部ニ安全感ノ均一ヲ與フルモノトハ考ヘ得ラレス

以上出來得ル限り詳細ニ質問ニ御答ヘシタルカ尙疑問ノ點アラハ御申出アリタシ
三、之ニ對シ議長「モンセル」ハ本日日本全權ノ説明ニ依リ日本案ハ新ニ別個ノ見地ヨリ見サルヘカラサルニ至レリ即チ最初ノ日本案ハ共通最大限ヲ三國ニ適用スルモノナリシカ本日日本全權ハ之ヲ五國ニ「エクステンド」セラレタリ右ハ共通最大限カ結局全世界ノ海軍國或ハ自治領ニモ同様ニ及ホサルル意味ナリヤト問ヒ又日本全權ハ歐洲國間ニ量的問題ニ付先ツ以テ協定方ヲ示唆セルカ佛伊ノ之ニ對スル意図ヲ承知シタシト云ヘルニ依リ

永野全權ハ本日ノ余ノ陳述カ充分了解セラレサリシヲ虞ル要スルニ日本ハ先ツ三國間ニ協定スルヲ最モ實際的且理想的のナル方法ト考フルモ各國カヨリ實際的ト考フルニ於テハ五國ニテ審議スルコトニ異議ナシト云ヒタルナリ又歐洲國間ニテ先ツ量的問題討議方ヲ示唆セル次第ニ非ス各國カ先ツ歐洲國間ノ量的制限問題ヲ取上クルヲヨリ實際的ト考フルナラハ日本ハ之ニ別段異議ヲ唱ヘスト云ヒタル次第ナリ尙自治領ヲ獨立國トシテ取扱フモノトスレハ英國全權ハ果シテ各自治領ノ兵力量ヲ提案セラルヘキヤ又米國モ同様ノ手續ニ依ラルヘキヤ將亦此ノ會議ノ參加國ハ自治領ヲモ數フレハ幾何トナルヤ豫メ承知シタシト反問セルニ

「モンセル」ハ要スルニ日本案ノ實際的運用如何ヲ承知致シ度キナリ共通最大限ハ一切ノ國ニ適用セラルモノナリトノコトナル故自治領ニモ適用セラルル義ナリヤト質シタル次第ナリ凡ソ提案ヲ爲シタル國ハ其ノ案カ如何ニ作用スルモノナリヤフ説明スル任務アリ余ハ尙日本案ヲ了解シ得サルヲ遺憾トスト述ヘタリ
四、次テ「デーヴィス」ハ英帝國ノ構成ヲ論議スルコトハ吾人ノ事業ニ資スル所ナカルヘシト一言セル上之迄ノ討議ニ依リ各國共(イ)平等ノ安全ヲ與ヘ防禦ノ均衡及不脅威ノ事態ヲ確保スヘキ海軍協定ノ成立ヲ希望シ又(ロ)各國ノ必要及責任從テ「ザ・アルネラビリティ」ニ夫々相違アルコトヲ認ムル點ニ於テ一致セリ

而シテ華府條約ノ比率決定ハ實際的方法ニ依リ現有勢力ヲ測定シタルモノニシテ「ヴァルネラビリティ」及脅威ノ問題ヲ考慮ニ入レサリシコト永野全權ノ云ハルル通ナルカ協定確定前ニハ日本側ノ主張ヲ容レテ右比率ノ下ニ於テ日本側ニ

モ平等ナル安全ヲ與フル爲別ニ太平洋防備制限、四國條約及九國條約ヲ設ケ以テ海軍條約ノ基礎ヲ強固ナラシメタルモノニシテ右ニ依リ日本始メ各國共不脅威不侵略及平等ナル防禦ヲ確立スヘキ基礎ニ到達セリト認メタリ

余ヲシテ云ハシムレハ日本ノ共通最大限案ハ各國ノ必要及責任ニ相違アルノ明ナル事實ト獨立セス

昨日「モンセル」海相ノ指摘セラレタル如ク太平洋ニ共通最大限設定セラルレハ太平大西兩洋ニ責任ヲ有スル國ハ明ニ不利ニ陥ルヘシ米國ハ太平大西兩洋ニ瓦リ島嶼及海岸ヲ防禦セサルヘカラス又條約上「バナマ」運河ノ自由通行ヲ擁護スヘキ責任アリ大西洋方面ニ於ケル吾人ノ利害ハ主トシテ海岸線ト島嶼ニ限ラルモ歐州海軍國ノ兵力ニ無關心ナル能ハサルハ明ナリ從テ我國防及安全ノ爲ニハ兩洋ノ何レモ無視スル能ハス

日本側ハ「ニード」及「ヴァルネラビリティー」ニ差異アルヲ認メタルモ共通最大限ノ基礎ニ於テ右差異ヲ測定シ必要ナル調節ヲ行ヒ得ヘキ標準ヲ確立スルコトノ如何ニ困難ナルカヲ認メサルカ如シ永野全權ハ共通最大限ノ目的ハ不脅威不侵略ノ事態確立ニ在リト云ハレタルモ現在日英米三國相互ニ攻撃不可能ナルニ非スヤ吾人ハ安全ノ平等、防禦ノ均衡ヲ確保センカ爲ニハ華府條約ノ原則ニ則ル外ナシト思考ス

尙攻撃的海軍兵力廢止ノ主張ニ關シテハ余ノ軍縮ニ關スル經驗ヨリシ又各國専門家ノ意見ニ徵スルモ一度領海外ニ出ツレハ攻撃的防禦的ノ區別ハ不可能ナリトノ結論ニ到達セリ海軍兵力ハ領海外ニ出ツレハ凡テ攻撃的トナルヘク要スルニ右區別ヲ試ムルモ歸スル所ヲ知ラサルヘシト述ヘ

五、濠洲全權「ブルース」ハ日本ハ華府條約ニハ兵力ノ不當ナル差等アリト云ハレタルカ共通最大限案ニ依リ如何ニ之ヲ調節セントスルモノナリヤヲ知リ度シ

次ニ共通最大限案ニ依レハ各國兵力ハ平等トナルモ右ハ各國特ニ歐洲ト太平洋トニ大ナル責任ヲ有スル國ノ責任及安全感ニ合致セス本日日本全權ノ御説明ニ拘ラス余ハ昨日陳ヘタル所見ヲ變へ難シ尙自治領ノ地位ノ問題ハ茲ニ議スルノ要ナカルヘシト述ヘ

濠洲ノ陳

陳述

佛、新西蘭及南阿

ノ陳述

六、佛國全權「ロベール」中將ハ日本カ先ツ三國間ニ協定スルノ手續ニ依ラサルコトトセラレタルヲ多トス佛國トシテハ如何ナル量的制限案ニ付テモ地理的又ハ政治的基礎ニ於テ五國中ノ何レカヲ一時のニテモ除外スルモノニハ賛成シ難シト述ヘ

伊國側ハ發言ヲ次回ニ留保シ新西蘭全權ハ日本ノ説明ヲ多トスルモ前回述ヘタル反對意見ヲ變へ難シト述ヘ最後ニ南阿全權ハ國際聯盟ニ於テ南阿ハ自主獨立國ノ地位ヲ有スルモノニシテ南阿ノ關スル限り本會議ハ六國會議ナリト答ヘタキ處自治領ヲ獨立國トシテ取扱フヤ否ヤノ問題ハ提起セサルヲ可トスヘシト述ヘタリ

七、茲ニ於テ議長ヨリ更ニ討議ヲ盡ス爲首席全權及一、二名ノ隨員ヨリ成ル會議開催方ヲ諮リ（右ニ付テハ豫メ「クレギー」ヨリ議場ニ於テ我方ニ内相談アリタリ）異議ナク決定次回ハ十二月十六日（月）午後三時右首席全權會議開催ノコトトシテ零時半散會セリ

第六款 首席全權會議（十二月十六日）

前款所述ノ經緯ニ依リ十二月十六日午後三時ヨリ「クラレンス、ハウス」ニ於テ首席全權會議ヲ「モンセル」司會ノ下ニ開催我方ハ兩全權出席（岩下山形帶同）セリ（尙同日午前日英間會議ニ於テ本首席全權會議ノ議事進行方法ニ付打合セタル次第ハ本章第二節第二款參照）

一、先ツ前回發言ヲ留保セル伊國全權「ビニ」（「ビシア」少將代讀ス）ハ共通最大限ヲ若干國ノミニ適用スルニ於テハ二個ノ「リミット」ヲ設クルコトトナリ比率ヲ認ムルコトニ賛成シ得ス三國ノ地位モ伊國ノ地位モ海軍國トシテ同様ナルヲ以テ伊國ハ五國間ニ於テ本件會議ヲ進ムヘキモノト考フ軍備ノ平等權ハ伊國ノ贊スル所ナルモ量的制限ニハ大ナル困難アルコト歴史ノ證スル所ナルヲ以テ本會議ニ於テハ比率主義ヲ捨テ量ノ間接的制限ヲ伴フ質的制限ノ方法ヲ探求スルヲ可トスヘシト述ヘ

陳述

伊全權ノ

ノ帝國全權說明書
永野全權ハ之ニ對シ吾人ハ先ツ日英米三國間ニ協議ヲ進ムルヲ最モ便宜ナルヘシト考へタル爲之ヲ提議シタル迄ニシテ
二「グループ」ニ分タントスル如キ意思ナカリシナリ五國同時討議ニ固ヨリ異議ナク共通最大限ハ勿論五國ニ適用スヘ
キモノナリト答ヘタリ

ノ帝國全權代表團長ノ説明書
ノ調節規則ニ關する質問ヲ答へ
第一、次テ議長ヨリ本會議ノ各位ノ等シク聞カント欲シタル所ナルヘシト前提シ日本全權ハ如何ニシテ各國ノ各種ノ「ニード」ニ應スル様共通最大限内ニ於テ調節ヲ行ハントスルヤト問ヒ（此ノ問ニ對シ「デーヴィス」ハ夫レカ重大ナル點ナリト獨語ス尙議長カ此ノ質問ヲ爲シタル經緯ニ付テハ後出第二節第二款日英第二回會談參照）

永野全權ハ「ヴァルネラビリティー」ノ差異ノ主タル原因ハ兵力ノ差等ニ在ルカ故ニ之ヲ等シクスレハ「ヴァルネラビリティー」ノ差異ハ除去セラレ守ルニ易ク攻ムルニ難キニ至ルヘシ斯クテ尙「ヴァルネラビリティー」ノ差異殘存スル場合

ニハ適當ナル調節ヲ加ヘテ各國ノ安全ヲ確保スヘシト前顯（第五款）一、（二）前段ノ趣旨ヲ繰返シテ説明シタル處
議長ハ兵力ノ均等ハ各國ノ「ヴァルネラビリティ」ヲ均等ニセス日本全權ノ説明ニ依レハ兵力ヲ均等ト爲シタル上尙

「ヴァルネラピリティー」ノ差異カ存在スル場合之ヲ調節スルトノコトナルカ右ハ或形ノ比率ヲ設ケシテ如何ニシテ遂行セントスルヤ余ノ丁解スル能ハサル所ナリト述ヘ

トカ或ハ又特殊ノ事情ニ應スル艦船ノ若干ヲ特ニ許スコトヲ依テ協定スルコトヲ得ヘシト述ヘタル處
議長ハ重テ事實上何等カノ比率ヲ設ケヌシテ如何ニシテ調節ヲ行ヒ得ルヤ「解スル能ハスト云ヒ之ニ對シ

永野全權ハ吾人ハ條約ノ基礎カ比率ノ主義ナリヤ或ハ共通最大限ノ主義ナリヤヲ根本ノ問題ト考ヘ居ル處若シ比率主義ナルニ於テハ之ニ反対ナリ而シテ先ツ均等ノ兵力ヲ定メタル後或國ハ「パリティ、プラス、アルファ」ヲ保有スルモノヲ生

シ得ヘシ要スルニ條約ヲ作ル根本カ比率ナリヤ又共通最大限ナリヤカ意見ノ別ル所ナリト答ヘタリ
、次テ「デーヴィス」ハ兵力ヲ均等ト爲シ之ニ差異ヲ設ケシシテ如何ニシテ各國ノ「ヴァルネラビリティー」等ヲ調節シ

國全權人
說明

又兵力ノ平等ハ之ヲ空軍陸軍ニモ適用スルヤ均勢トナラハ侵攻ナシト云フモ侵攻ハ大國ヨリノミ來ルモノニ非ス均等トシタル後誰カ如何ニシテ調節ノ方法ヲ決定スルヤト述ヘタルニ付

於ケル空軍ニ關スル英國提案カ先ツ各大空軍國ノ空軍ヲ當時世界第五位ニ在リシ莫空軍ノ程度迄引下タル上更ニ三分一減ヲ主張シタル點ニ言及シタル後我提案ハ成ルヘク低ク共通最大限ヲ定メントスルモノナリ今吾人ハ海軍ノミヲ論シ居ルモノニシテ海軍ニ關スル限り之カ平等等ハ不脅威不侵略ノ狀態ヲ招來スル最良ノ方法ト考フト答フ

佛伊陳述等

佛國全權「ロヘル」ハ日本案ノ基礎ノ例案ノ夫レト朴去ニシテ連シ共通萬力附ニ認符テ加ルハニ於テヨ名國ノ安全
カ充分ニ確保セラルヘシトハ認メ難シ又軍備ノ平等權ハ軍備ノ平等ヲモスシモ意味セス又軍備平等ハ安全ノ平等ト同一
ナラス加之均等ノ如何ナル方式モ何等カノ比率ニ外ナラス佛國ハ共通最大限案カ歐洲ニ及ボスヘキ直接ノ影響ヲ無視ス
ル能ハス日英米カ海洋國ニテ太平洋ニ重大利害ヲ有スルカ故ニ共通最大限ヲ有スルナラハ佛國モ海洋國ニテ重大責任ヲ
有スルカ故ニ同シ原則カ適用セラレサルヘカラス日本全權ハ共通最大限ハ五國ニ適用セラルヘキコトヲ認メタルカ會議
カ擴大セラルニ於テハ他國モ同様ノ限度ヲ要求シ得ヘク右ハ一般的不安全感ヲ生スヘシト述ヘ

伊「ヒシア」少將ハ調節ノ結果比率ニ外ナラス比率ニ對スル吾人ノ態度ニ既ニ述ヘタリト指摘シ
新西蘭全權「バー」ハ均等ニ加フルニ調節ヲ以テシテ如何ニシテ各國ノ特殊ノ「ニード」ニ應シ得ルヤ了解スル能ハス
ト述ヘタル後再ヒ

「デーヴィス」ハ永野全權ハ共通最大限ヲ基礎トシ次テ其ノ他ノ所要ノ爲「アルファ」ヲ加フヘシト言ハレタルカ此ノ「アルファ」ハ誰カ如何ニシテ決定スルヤ本會議ノ後ニ之ヲ決定スルヤト問ヒタルニ付

帝國全權
ノ説明

「ア」ハ本會議ニ於テ研究シタル後適當ニ定ムルモノナリト答フ
日本審議一案ノ終了に應リ

五、更ニ質問者ナキヲ見テ議長ハ躁急ニ事ヲ決スルノ不可ナルヲ述ヘタル後日本案ハ之以上委員會ニ於テ討議スルコトヲ努力シ度シ英國ノ提案ニ對シテハ充分ノ説明ヲ聽キ又之ニ對スル所見ヲ申述フヘク過早ニ日英米其ノ他ノ案ヲ決定スルハ宜シカラストノ議長ノ言ニハ同感ナリ余ハ成ル可ク速々更ニ日本案ニ付テモ審議ヲ再開セシコトヲ希望スルモノナリト述ヘタル處

永野全權ハ今日迄ノ余ノ説明カ各位ノ了解ヲ得サルハ遺憾ナリ余ハ尙本案ニ關シ一層ノ説明ヲ爲シ各位ノ了解ヲ得ル爲努力シ度シ英國ノ提案ニ對シテハ充分ノ説明ヲ聽キ又之ニ對スル所見ヲ申述フヘク過早ニ日英米其ノ他ノ案ヲ決定スルハ宜シカラストノ議長ノ言ニハ同感ナリ余ハ成ル可ク速々更ニ日本案ニ付テモ審議ヲ再開セシコトヲ希望スルモノナリト述ヘタル處

議長ハ日本案ヲ更ニ委員會ニ附議スルハ勿論ナリト述ヘ各全權ニ於テ英案討議ニ異議ナカリシヲ以テ翌十二月十七日午後英國案ヲ審議スルコトトナリ午後五時十五分散會セリ

六、斯クテ第一委員會第一回會議以來日本案ハ五回ニ亘リテ討議セラレタルモ各國ノ容認スル所ト爲ラスシテ審議一應終了スルニ至レリ

第七款 第一委員會第十回會議（昭和十一年一月十五日）

委員會ニ於ケル帝國提案ノ審議ハ前款首席全權會議ヲ以テ一應終了シ其ノ後ハ英國案ノ審議ニ入り次テ佛伊ノ建艦通報案ニ及ヒタルカ其ノ際我方ヨリ量的問題先議ヲ要求シタル爲昭和十一年一月十五日第十回會議ニ於テ再び帝國提案ニ立還リ其ノ最終審議ヲ行ヘリ（第十回會議ノ經過ニ付テハ後出第八章第三節參照）

第二節 私的會議ニ於ケル折衝

第一款 日英第二回會議（昭和十一年十二月十三日）

曩之十二月十二日午後英國側全權「スタンプ」外務政務次官（當時「ボーア」外相休養外遊中外相代理タリ）ノ希望ニ應シ永井全權同人ヲ外務省ニ往訪シタル處會議進行振ニ付懇談アリ其ノ際曩ニ會議開催ニ先立チテ行ヘル日英會談ニ此ノ際更ニ續行スルヲ可トスヘシト申出タルニ依リ我方之ヲ諾シ十二月十三日午後海相室ニ於テ會談ノコトトシ我方兩全權（岩下寺崎帶同）英國側「モンセル」「チャトフーリード」「ジームス」「ブッシュ」「クレーリー」出席シタルカ會議要領左ノ如シ

會議內容
〔ヴァルネラビリティ〕
〔チャトフーリード〕
〔ジームス〕
〔ブッシュ〕
〔クレーリー〕
〔ヴァルネラビリティ〕
〔岩下寺崎〕
〔第一委員會設置問題〕
〔研議委員會設置問題〕

一、海相「モンセル」ヨリ本日ハ日英代表部間ニ未タ明瞭ヲ缺キ居ル點アラハ之ヲ明ニセンカ爲自由ナル意見ノ交換ヲ願ハントス就テハ「チャトフーリード」ヨリ質問スルコト致シ度シト述ヘ「チャトフーリード」ヨリ貴方ハ第一委員會ニ於テ各國間「ヴァルネラビリティ」ノ差ハ一定ノ方法ニ依リ調節スルヲ得ト云ハレタルカ右ニ關スル御見解ヲ承リタント問ヘルニ對シ永野全權ハ如何ナル「ヴァルネラビリティ」ノ差異アリヤハ充分ナル協議研究ノ上双方ニ満足ナル調節方法ヲ發見シタク考ヘ居レリト答ハ「チャトフーリード」ハ充分ナル研究ヲ爲スコトニハ賛成ナルカ今日ハ其ノ好機會ナラスヤト述ヘ永野全權ハ専門委員會ヲ設置シ「ヴァルネラビリティ」ノ内容、一ノ「ヴァルネラビリティ」ノ他ノ「ヴァルネラビリティ」ニ對スル關係如何等ヲ研究セシムルノ要アリト信ス尙其構成ハ日英米三國ヲ以テスルヲ可トスルモ是非共五國ヲ可トスルモノアルニ於テハ必シモニ三國說ヲ固執セサルヘシト答フ

「チャトフーリード」ハ三國說ニハ佛伊トモ反対スヘケレハ實現困難ナルヘシ但シ五國委員會ト云フモ事實上ハ日英米三國關係事項カ主トシテ論議セラルヘシト述ヘ永野全權ハ佛國側ノ態度ヲ見ルモ「ヴァルネラビリティ」ノ問題ヲ三國間ノミニテ討議スルノ困難豫想セラルルノミナラス他方條約成立ノ困難モ豫想セラレサルニ非ス佛伊ノ除外困難ナレハ五國ニテ委員會ヲ作ルヨリ外ナカルヘシトシ海相亦右ヨリ致方ナカルヘシト述フ

一、右専門委員會ニ於テ「ヴァルネラビリティ」ノ問題ニ付意見ノ一致ヲ見タリトセハ之ヲ如何ニ調節セラルル御意図ナリヤ右ハ兵力ニ依ルモノナリヤ將亦艦型ニ依ルヤトノ「チャトフーリード」ノ問ニ對シ永野全權ハ幸ニシテ右ノ如キ意見一

致アル場合ニハ艦型、兵力及他ノ要素ヲ「コンバイン」シ種々ナル方面ヨリ調節ヲ計ルコト必要ナルヘク先ツ最大ノ「ヴァルネラビリティー」ヲ有スル國ヲシテ該國ニ最モ「ミート」スル所ノモノヲ提示セシメ之ニ合致スル方法ヲ考量スルヲ可ナリト信スト答へ更ニ「チャトフールド」カ五國カ異ナレル「ヴァルネラビリティー」ヲ有ストセハ五箇ノ異レル艦型(Type)ヲ有スヘキヤ將亦艦型ハ同様ナルモ互ニ異ナル「ヴァルネラビリティー」ニ適合スル様數ヲ變フヘキモノナリヤト尋ネ永野全權ハ質問ノ趣旨必シモ明ナラサルモ艦型及數ノ如何ハ個々ノ具體的場合ニ付考量スルノ外ナシ但右兩者ハ何レモ考量セラルヘキモノトスト答フ

三、「チャトフールド」ヨリ度々申上ケタル通世界ニ亘リテ領域ノ分散セル英帝國ノ「ヴァルネラビリティー」ハ大ニシテ英國ハ特定艦種ニ付テハ絕對的所要量ヲ有ス但シ之ト同時ニ他ニ相對的所要量ヲ有スルコト勿論ナリ然ルニ共通最大限ノ下ニ於テハ英國ノ地位ハ極メテ困難トナルカ永野全權ハ右英國ノ特殊絕對所要量ヲ認メラルルヤ或ハ不當ナリトシテ反對セラルルヤト問ヒ永野全權ハ詳細ノ研究ハ別トシ常識的ニ考へ英國ノ「ヴァルネラビリティー」ノ大ナルヲ知ル從テ調節ヲ行フ際ニハ英國ニ付調節スヘキ量ハ大ナルヲ要スルモノト思フ但シ其ノ程度ハ研究ニ俟ツク要スト答へ「チャトフイールド」ハ貴方ニテハ眞實莫海軍力ヲ一點ニ集中シ得ルト考へラルルヤト問ヒ永野全權ハ御互ニ海軍軍人トシテ凡ソ必要ナル戰略地點ニ集中シ得ル勢力ノ如何ナルモノカハ見當カ著ク次第ナルカ要ハ一國ニ對シ地球上ニ如何ナル場所ニ如何ナル場合ニモ絶對的ニ他ヲ壓倒シ得ルカ如キ兵力ヲ認ムルヲ得ストスルニ在リト酬ヒ「チャトフールド」ハ英國ノ立場ヲ充分御了解願ヒ度シ英國ハ英國防備ノ必要上其ノ全兵力ヲ一海面例ヘハ太平洋ニ集中スルヲ得サルヲ以テ日英均等ノ場合ニハ如何相成ルヘキヤト訴ヘ永野全權ハ吾人ハ英國ノ立場ヲヨク諒解シ居ルカ故ニ之ト同一兵力ヲ欲セス吾人ノ「フォーミュラ」ニ依ルモ日英均等ト爲ラスト述フ

「チャトフイールド」ハ英國ノ欲スル所ハ太平洋ニ於ケル優位ヲ望マサルモ均等ヲ欲ス然ラスンハ現ニ懸念アリトノ趣旨ニハ非サルモ英帝國內各邦ノ安全感ヲ確保シ得ス共通最大限ノ下ニ於テハ日英均等ナレハ英國ハ其ノ全兵力ヲ太平洋上

調節トノ關係 率トノ關係

ニ集中セサレハ右均等ヲ得ルヲ得ス而シテ右集中ノ不可能ナルハ閣下ノ認メラルル所ナリ果シテ然ラハ日本ハ太平洋ニ於ケル英國ノ劣勢ヲ恒久的タラシメントセラルルヤト問ヒ永野全權ハ英國ノ「ヴァルネラビリティー」ノ大ヲ認メ從テ英國ハ日本ニ比シ大ナル兵力ヲ有スルコトトナルヲ以テ「アクチュアル」ノ問題トシテハ大シタコトニ非スト答へ「チャトフイールド」ハ然ラハ共通最大限ノ下ニ於テ如何ニシテ英國ハ日本ニ比シ大ナル海軍兵力ヲ有シ得ルヤト問ヒ永野全權ハ再三繰返シタル如ク調節ニ依ルト答フ

四、此ノ時「チャトフイールド」ハ共通最大限及調節ノ双方共合意成ルトセハ前者ハ單ナル理論的價値ヲ有スルニ過キサルコトトナル處右調節ハ拘束力ヲ有スル次第ナリヤトロヲ挿ミ又「チャトフイールド」ハ右限度ハ條約ニ依リ定メラルルヤト問ヒ永野全權ハ右兩者ニ對シ然リト答ヘタル處「チャトフイールド」ハ然ラハ比率ト同一ニ非スヤト述ヘタルモ永野全權ハ各國ノ威信ヲ傷ケス其ノ國民ノ感情ヲ激發セサル様比率ノ名ヲ廢シ適當ナル「フォーミュラ」ヲ見出セハ可ナルヘシト酬ヒ「チャトフイールド」ハ山本提督ハ先般ノ豫備交渉ニ於テ共通最大限以下ニ止マルモ何時ニテモ右限度迄自國兵力ヲ增加スルヲ得ト述ヘラレ此ノ點難點トナリ居リタルカ右ハ如何ニ承知スヘキヤト確メタルニ對シ永野全權ハ理論上ハ右ノ通ナルモ余ハ今申述ヘタル通一定年間不動ノモノト爲スヘキモノナリト思ヒ居レリ夫レ以上ハ「フォーミュラ」ノ問題ナリト答フ

レタルカ如キ兵力ノ差異設置ニ同意スルヤ否ヤ疑ナキ能ハサル處反対ノ場合如何ニセラル御意嚮ナリヤト尋ネ永野全權ハ「ヴァルネラビリティ」ノ研究ハ困難華府比率ノ繼續ハ不可能何レノ途非常ナル困難ヲ豫期セサルヲ得サルモ御互ニ出來得ル限り努力シ度シ但シ「ヴァルネラビリティ」研究ハ方法トシテ最モ公平ナリト確信スト述ヘ「チャトフィールド」ハ比率主義ノ廢止ハ今ヤ確定事實ナリ日本ハ前述委員會設置ノ「イニシアティヴ」ヲ採ラルルヤト重ネテ促セルニ因リ永井全權ハ共通最大限ニ關スル日本提案採擇セラルレハ右ヲ「サジエスト」スル用意アリト應シタルニ「チャトフィールド」ハ先ツ「ヴァルネラビリティ」ノ研究ヲ求ムト主張スルモノ有リシ場合ニハ如何ト問ヒ永野全權ハ吾人ハ「ヴァルネラビリティ」ハ共通最大限ヲ定メタル後其ノ修正材料ト爲シ度ク思ヒ居ルモ他ノ關係國カ是非共「ヴァルネラビリティ」研究ノ要アリト爲スニ於テハ兩者ヲ同時研究スルモ可ナルヘシト答フ

六、「チャトフィールド」ハ吾人ハ英國ノ現有兵力縮減ノ理由ヲ何處ニモ見出シ得サルカ他方共通最大限採用ノ場合英國カ日本以上ニ必要トル兵力ハ日本ノ兵力水準ヨリモ小ナルヘキ歐洲國兵力ト日本ノ兵力トノ差ニ依リ左右サルルモノト御承知置願ヒ度シト述ヘ

七、次テ「クレーギー」ハ十六日委員會ニ於テ日本側カ引續キ共通最大限ニ關スル主張ヲ縷說セラレ他ノ國カ之ニ反對セル場合貴方ハ「ヴァルネラビリティ」専門委員會設置ヲ提議セラルルヤ佛伊側カ之ニ難色ヲ示スコト想像ニ難カラサレハ右提議ニ先立チ他代表部ト豫メ折衝セラルルヲ可トセスマト述ヘタルニ對シ永野全權ハ貴方ニモ研究ヲ要スヘキ點アルヘク我方ニ付テモ同様ナレハ研究ノ上回答スヘシト答ヘ會談二時間餘ニシテ終レリ

第二款 日英第三回會談（十二月十六日）

會談開催
會議編
案撤回
性別研究委員會設置
國防脆弱

前回日英會談ノ際帝國全權ハ英國カ國防上ノ脆弱性大ナリトスル點ヲ認メ共通最大限設定ノ場合英國ノミニハ若干大ナル兵力ヲ容認スルニ客ナラサル旨ヲ洩シタル爲「チャトフィールド」ハ我方ノ理解アル態度ヲ感謝シ尙他國トノ關係調節ノ爲「ヴァルネラビリティ」委員會設置ヲ提議方示唆シタルコト前記ノ通ナルカ我方ニ於テハ其ノ後右委員會設置ノ件ニ關シ

要領左ノ如シ

一、先ツ永野全權ヨリ前回（十二月十三日）日英會談ノ結果日本側ニ於テ「ヴァルネラビリティ」問題ノ研究方ヲ第一委員會ニ於テ提議スルヤ否ヤニ付考量スルコトトナリ居リシ處惟フニ右研究ニ付テハ各代表部カ等シク其ノ必要ヲ認メ從テ熱意ヲ有スルニ至ルニ非サレハ解決極メテ困難ナルヘキカ故ニ先ツ共通最大限ノ原則ヲ認メ各代表部カ「ヴァルネラビリティ」問題解決ノ必要ヲ痛感スル迄本件提議方差控フルヲ可ナリト信スト述ヘ「チャトフィールド」ハ至極結構ナリ閣下ハ一般的ニ「ヴァルネラビリティ」ノ研究ヲ「サジエスト」シ其ノ反響ヲ見ラル御趣旨ナリヤト念ヲ押シ永野全權ハ何レニセヨ第一委員會ニ依ル「ヴァルネラビリティ」ノ研究ハ機熟スル迄待チ度シト答ヘ「チャトフィールド」ハ他代表部ニ於テ本問題ノ討議ヲ拒否スルヤ否ヤハ明確ナラサルモ理論上之ヲ欲セスト云ヘマシ唯問題ハ open conference ニ依ルヤ首席代表部間ノ話合ヒニスルヤ専門委員會ニ依ルヤニ在ルヘシト述ヘタルニ對シ永野全權ハ永野全權ノ欲スル所ハ「ヴァルネラビリティ」委員會ノ設置ニ非ス又「ヴァルネラビリティ」ニ關スル討議ヲ委員會ニ於テ爲スニモ非ス先ツ共通最大限ニ關スル討議ヲ引續キ行ハントスルニ在リト補足ス

「チャトフィールド」ハ前回日英會合ニ於テハ他ノ一切ノ代表部カ共通最大限受諾ヲ肯ンセサルニ對シ永野全權ハ「ヴァルネラビリティ」ト共通最大限ノ並行討議ヲシタシトノ御意嚮ト了解シ居リシカ唯今ノ御話ニテハ右兩者ノ同時討議ヲ行ハスト解セラルル處如何ニセハ宜シキヤト尋ネ永野全權ハ共通最大限ノ了解ノ爲尙努力カト願ヒ度シト答ヘ「チャトフィールド」ハ本日午後會合ノ當初ニ於テ閣下ハ何等カ陳述ヲ爲ナルヤト問ヒ永野全權ハ共通最大限ニ對スル質問ヲ更ニ受ケ討議ヲ續ケ度シト答フ

日本案ニ
審議スル事
方針(調節ノ行
事)

二一、「チャトフード」ハ前回日英會談ニ於ケル英國側質問ニ對シ閣下ハ英國側内密ノ含ミトシテ very modified proposalヲ提示セラレタルモ他ノ代表部ハ皆共通最大限ノ「アイデア」ヲ好マストシ之以上質問アリトモ思ハレサルニ付此ノ際貴方ニ於テ何等カ「イニシアティヴ」ヲ採ラルコト必要ナリト認ムト述ヘ永野全權ハ唯今「モディファイ」ナル語アリシモ我方主張ノ根本ハ均等ヲ實現シ之ニ依リ不脅威不侵略ノ狀態ヲ實現シ且出來得ル限り共通最大限ヲ低下セントスルニ在リ唯各國ノ「ヴァルネラビリティ」ニ付テハ充分ナル考慮ヲ拂ハントスルモノニシテ先般ハ右主義ノ内容ヲ略々詳細ニ瓦リ説明セルノミニテ主義其ノ物ニ付テハ變更ナキコトヲ茲ニ一言シタシ又愈々會議カ「デッドロック」ニ達セリトセハ主催國タル英國ハ如何ナル方案ヲ有セラルヤト尋ネ「チャトフード」ハ余ハ前回閣下ノ説明ヲ以テ貴方提案ニ對スル very considerable modification ト信スルモノナリ即チ閣下ノ御説明ニ依レバ upper limit ハアルモ共通最大限ハ無ク從テ實際上ハ比率主義ヘノ復歸ト爲ルヘキモ此ノ點ハ今取上クル程ノ問題ニモ非サルヘシ閣下ハ唯今「デッドロック」云々ト述ヘラレタルモ前回十二月十三日會談ノ際英國側ニ述ヘラレタル所ハ未タ貴方ヨリ他ノ代表部ニ申入レラレ居ラス從テ共通最大限主義ノ下ニ於ケル日本側御意嚮ヲ未タ充分ニ承知シ居ラサルヲ以テ夫レ迄ハ「デッドロック」トハ思ハストメント」ノ何タルヤト質問ストセハ貴方ニ於テハ之ニ答フル準備アリヤト尋ネタルカ永井全權ハ英國側カ日本側ハ全ク比率主義ヲ廢棄セルモノニハ非ストノ印象ヲ有セラルトセハ大ナル誤解ナルニ付右ノ如キコトナキ様茲ニ一言ス前回吾人ノ述ヘタル所ハ英國側ノ必要ヲ認メ法律家又ハ日英海軍専門家ヲシテ右ニ適スル「フォーミュラ」ヲ案出セサルヘカラスト述ヘタル迄ナリト注意シ「チャトフード」ハ御言葉一應尤ナルモ「パブリック」ハ比率ノ一表現ト看做スヘシ米國トノ關係ハ如何セラル御所存ナリヤト問ヒ永野全權ハ共通最大限ヲ設定セハ各國ハ右限度迄建造スル權利ヲ有ス唯吾人ハ英國ノ場合ニ付非常ナル同情ヲ有スルカ故ニ共通最大限ヲ超ユルコトヲ認ヌタル次第ニテ如何ニ之ヲ表スカハ先日モ申述ヘタル通關係國民ノ感情ヲ激發セサル様注意スヘキナリト述ヘ「チャトフード」ハ閣下ノ御趣旨ノアル所

ハ充分感謝スルモ右ノミニテハ會談續行ノ助ケトハナラス此際日本側カ米佛伊ノ三國ニ對シ其ノ主義ノ内容ヲ敷衍説明セラルコト肝要ナリ閣下ハ共通最大限實現セハ世界ニ不侵略ノ狀態ヲ實現スト云ハルモ他ノ代表部ハ之ニ同意セス從テ單ニ貴方ノ確信ヲ繰返サルノミニテハ效果ナク他ノ代表部ニ於テハ日本側カ其主張ノ内容ニ付立證セラルコトヲ期待シツツアリ仍テ貴方ニ於テ他ニ御意見ナクシテ本日午後前記質問ヲ致スコトシタシト述フ

永野全權ハ今日迄ノ所日本案ノ根據ニ付説明スル機會無カリシニ依リ右ニ付議論ヲ續クレハ相互ノ了解ヲ増シ日本ノ眞意ノアル所ヲ通シ得ヘシト思フト述ヘ永井全權ハ先ツ共通最大限ノ主義ヲ定メ次ニ如何ニ之ヲ實現スヘキヤヲ檢討セハ可ナルヘシト附言セル處「チャトフード」ハ然ク簡単ニハ非サルヘシ右原則ノ内容判明セサレハ適用ノ段階ニハ至ラス而シテ日本側ハ未タ其ノ説明ヲ爲シ居ラレス之余ノ「デドロク」未タシト云ヘル所以ナリ依テ再三述ヘタル通り本日午後英國側ヨリ日本全權ハ今次會議參加國ハ其海軍兵力ニ付均等權ヲ有ストノ共通最大限案ヲ提出シ他方各國間ニ「ヴァルネラビリティ」ノ差異ヲ認メ之ヲ共通最大限内ニ於テ調節スヘキモノトセラレタルカ右調節ハ如何ニシテ行ハルルヤ右調節ノ結果或ル國ハ共通最大限ヲ超過スルコトヲ許容セラレ他ノ國ハ右限度以下ニ其ノ海軍兵力ヲ縮減スヘキヤト質問スルコト致シ度シ先刻モ述ヘタル通足タ會議ハ「デドロク」ニ達シ居ラス余ハ此ノ際他ノ者ノ日本案不受諾明言方ヲ防キタシト思フモノニシテ前記質問ハ此ノ目的ノ爲ニスル leading question ニシテ他ニ方法ナシト信スト述ヘ永野全權ハ右ニテ結構ナリ共通最大限設定セラルレハ各國均シク之ニ對スル權利ヲ有スルモ現實ニ之ニ達スルヤ否ヤハ各國ノ自由ナリ右限度ノ設定ニ依リ不脅威不侵略ノ事態實現セラルモノト確信スルモ尙念ノ爲各國ノ「ヴァルネラビリティ」ヲ考慮シ夫レカ必要且適當ナラハ各國満足スヘキ調節ヲ行フコトハ毫モ差支ナシト思考シ居レリ之ヲ要スルニ最善ノ方法ハ先ツ共通最大限ヲ定メ次ニ「ヴァルネラビリティ」ノ研究ヲ行フニ在リト信スト述

右ニ對シ「グレーギー」ハ日本側ハ共通最大限研究ノミヲ主張セラル處既ニ四日ニ亘ル討議ヲ行ヘルモ何人モ之ヲ受諾セス從テ次回會合ヲ右問題ノミニ限定スルニ於テハ論議ノ種モ盡キ貴方ノ爲ノミナラス會議將來ノ爲ニモ一考ヲ要スヘ

シ吾人ハ討議ノ material ノアル限り之ヲ續行スルニ客ナラサルモ唯共通最大限ヲ受諾セヨト云ハルノミニテハ困惑セサルヲ得ス本原則ハ五國以外ノモノモ之カ均霑方ヲ主張スヘキニ付各國ハ日本提案其ノモノノ趣旨ノ外右提案カ自國ニ及ホシ得ル影響ヲ豫メ測ラスシテ其ノ態度ヲ決定スルヲ得スト述ヘ「チャーフィールド」モ各國カ共通最大限ノ主義ニ付合意スルモ右ハ恐ラク多數ノ留保附トナルヘタ例ヘハ伊國ハ最大限迄建造ヲ又米國ハ對英均等ヲ留保スヘキカ故ニ實際ニ於テハ何等意味ナキニ至ルヘク結局「ヴァルネラビリティー」ノ分析研究及調節ノ問題ニ來ラサルヲ得スト述ヘ永野全權ハ余ハ日本提案ノ趣旨ニ付更ニ説明ヲ繼續シ度ク存スル處貴方ニ於テハ今後ノ討議ノ圓滑ナル進行ニ付何等案ヲ有セラルヤト尋ねタル處「チャーフィールド」ハ右コソ余ノ本日繰返セル調節ニ關スル質問ニシテ右ニ對シ更ニ一般的御説明ヲ乞ヒ調節ノ方法ニ付貴方ノ御意見ヲ承ハレハ結構ナリト信ス答

三、此ノ時英國側ヨリ之ヨリ自治領側トノ會談時刻迫レルニ付本日會談ヲ打切り度キ處本日委員會（首席全權會議）ノ模様ニ依テハ建艦宣言案討議方英國側ヨリ提議シ差支ナキヤト申出テタルニ對シ永野全權ハ同意ヲ與ヘ永井全權ヨリ共通最大限問題ヲ未タ議丁セストノ明確ナル丁解ノ下ニト念ヲ押シ會談ヲ終レリ

第三款 日佛第二回會談（十二月十六日）

會談内容
英ノ建艦
宣言案上
問題

十二月十六日午後六時兩全權（岩下井上帶同）ハ豫テ佛國側ヨリ希望アリタルニ依リ佛國首席全權「コルバン」駐英大使（「ロベール」中將同席）ヲ佛國大使館ニ往訪約四十分ニ亘リ會談セルカ其ノ要點次ノ如シ

一、永野全權ヨリ日佛ノ主張ニ相近接スル所アリト認ムルカ如何、佛伊ハ共ニ比率主義ニ不贊成ナラスヤト問ヒ「コルバン」ハ御說ノ通ニシテ客年（昭和九年）十二月三十一日佛國政府カ米國政府ヘ送リタル公文中華府條約廢止ヲ支持シタルモ之カ爲ナリト答ヘ永井全權ヨリ右公文ヲ送リタル理由如何ト問ヒタルニ對シ「コルバン」ハ華府條約ハ（イ）佛國海軍ニ害ヲ與ヘ（ロ）其ノ制限ハ不合理ニシテ（ハ）佛國ノ地位、必要ヲ充分ニ考慮シ居ラサルニ付適當ノ機會ニ反對ヲ表明スルコトハ一般國民ノ要求ニ合致セルカ爲ナリ斯くて佛トシテハ比率ノ再設定ニハ反對スト云ヘリ

二、次ニ永野全權ヨリ佛國案ニハ建艦量ニ付制限無キニ依リ建艦競争ヲ防止シ得サルヘシト指摘セル處「コルバン」ハ國際間ニ信賴ノ回復セラレサル以上結局製艦競争ヲ防止シ得サルヘシト云ヘルニ依リ永野全權ハ條約中ニ量ノ制限ヲ設クルニ非サレハ信賴ヲ回復スルニ山ナカルヘシト述ヘタル處「コルバン」ハ信賴回復ハ難問題ナルカ短期ノ豫告ヲ爲ス時ハ（イ）之ヲ爲ササル時ニ比シ信賴ヲ増大スヘク（ロ）比率問題ヲ避ケ得ルノ利益アリト述ヘタリ

三、永井全權ヨリ日本案ニ對スル佛國ノ意見如何ト問ヒタルニ對シ「コルバン」ハ反對ノ點ハ從來ノ演說中ニ述ヘタルカ要スルニ共通最大限ヲ設クルトキハ（イ）各國共右限度迄建艦スルコトトナルヘク又（ロ）吾人ノ見地ヨリスレハ地理的ニ有利ナル地位ニ在ル國ハ然ラサル國例ヘハ佛國ノ如ク兩海面ニ面スル國ヨリモ有利ナル地歩ニ立ツニ至ルヘシト答ヘ

佛案ニ對
スル我方
意見

日本案ニ
對スル佛
意見

四、最後ニ「コルバン」ヨリ明日（十七日）ノ英國提案ニ付知ラル所アラハ之ニ對スル御見解ヲ承知シ度シト云ヘルニ對シ永野全權ヨリ建艦宣言案ナル事ヲ知ルモ其ノ具體的內容ニ付テハ知ル所ナシト答ヘ會談ヲ終レリ

第四款 日米會談（十二月十七日）

委員會ニ於ケル日本案ノ審議カ十二月十六日首席全權會議ニ於テ我方ト各國トノ見解對立ノ儘ニテ一應結丁シタル次第ハ

第五章 帝國提案ノ審議

既述ノ通ナルカ（第一節第六款）米國全權「デーヴィス」ハ右事態ニ鑑ミ此ノ際日米間ニ私的會談開催方ニ關シ我方ニ「アプローチ」シ來リタルニ依リ我方之ヲ應諾シ十二月十七日午前兩全權（岩下寺崎帶同）米國全權宿舎ヲ往訪「デーヴィス」「スタンドリー」及「フーリップス」ト會談セリ其ノ要領左ノ如シ

一、先ツ永野全權ヨリ米國案ノ説明ヲ承リ度ク尙同案ハ佛伊ニモ適用セラルルヤト訊ネ「デーヴィス」ハ然リ而シテ一律縮減案

ニ二割縮減ヲ行ハントスト答ヘ傍ヨリ「スタンドリー」ハ國ニ付テハ一律ナルモ一切ノ艦種ニ等シク二割ノ縮減ヲ爲スニハ非シテ實際的見地ヨリ艦種間ニ調節ヲ行フモノナリト附言シ且現行條約ノ規定ニ基キ米國ハ十數年間ニ亘リ主力艦ノ建造ヲ行ハサリシニ付新建造ニ際シテハ水線下舷側防禦等ニ付慎重ナル考慮ヲ要スル次第ナリ一九三七年米國ノ主力艦艦齡超過艦ハ七隻ニ達スル處米トシテハ最初ノ一隻ヲ三萬五千噸トシ（此ノ時「デーヴィス」ハ右ハ日英米ニ同様適用セラルト口ヲ添フ）其ノ完成ニ三年ヲ要ストシ其ノ完成ヲ待テ該艦ノ性能ヲ検討シ其ノ經驗ニ基キ右艦種艦型縮小ノ可能ナリヤ否ヤヲ検討スルコトセハ可ナラン右ハ始メタ巡洋艦最大限ヲ一萬噸トセル時モ大體同様ナリキト說明ス

永井全權ハ艦型縮小ニ米國側ハ賛成ナリヤト訊シ「スタンドリー」ハ今後建造セラルヘキ主力艦ノ性能之ヲ許スニ於テハ之ニ賛成ナリトシ「デーヴィス」ハ口徑ニ關シテハ今後ノ經驗ヲ待タストモ考慮ノ用意アリト述ヘ次テ「スタンドリー」ハ巡洋艦ニ付テハ米國ハ直ニ二割ノ縮減ヲ爲シ得ルモ英國ノ態度ニモ鑑ミ直ニハ爲シ得サルヘシ又驅逐艦ニ關シテハ約五十隻ノ艦齡超過艦ヲ有スルヲ以テ直ニ縮小ノ用意アリ潛水艦ニ付テモ希望セラルルニ於テハ之ト同様ナリト述

フ

「デーヴィス」ハ米トシテハ此ノ際三年乃至五年ノ期間ニ付協定ヲ遂ケ其ノ後一層恒久的ノモノヲ作リ度シトシ「スタンドリー」ハ英國ハ軍縮ヲ欲セアルノミナラス巡洋艦ノ如キハ之カ增加ヲ仄カシ貴方モ右ノ如キ場合ニハ右限度迄上リ來ラントスル情勢ナルカ日本側カ何等「プログラム」ヲ有セラルルニ於テハ米國案ト比較シテハ如何率直ニ申上ケンニ米國カ日米均等ヲ受諾セサルハ閣下ノ御承知ノ通ナリ假ニ米國カ日本側ニ於テ其ノ欲スル丈ケノ建造ヲ爲ス權利アリト認

日本案ニ
對スル米
ノ見解
(日米均
等反對)

日本安全
ノ平等
華府條
款全案
日本案

ムルモ米國ハ夫レ以上ニ建造スヘク又日本モ更ニ米國ヲ凌駕セント試ミラルヘケレハ停止スル所ヲ知ラサルニ至ルヘシ仍テ現實即シ均等ノ權利ハ有スルモ自制シ例ヘハ五年間ノ「プログラム」ヲ定ムルコトトシハ如何ト述ヘ「デーヴィス」モ此ノ際理論ヲ「ドロップ」スルニ非サレハ協定ノ見込ナシ貴方ノ共通最大限說ハ制限ノ爲ニスル唯一ノ基礎ヲ覆ヘサントスルモノニシテ均等兵力ハ安全感ノ平等ヲ來スモノニ非ス吾人ハ衷心ヨリ五、五、三ノ兵力ハ日本ニ妙クトモ米國ト同様ノ安全ヲ與フルモノト信シ居ルモノニシテ貴方カ均勢ヲ得ハ日本ハ現實ノ優勢（real superiority）ヲ得ルコトトナリ吾人ハ米國民ニ依リ屈服（surrender）セルモノト解セラルヘシ御承知ノ通英國ハ軍縮セストノ態度ヲ示シ居ル處吾人ノ經驗ニ徴スルモ歐洲ノ事態ニ米國ハ捲キ込マール可能性アリ從テ右英國ノ態度ハ米國ニ影響ナシト云フヲ得ス之貴方ト立場ノ異ナル所以ニシテ日米均等ハ決シテ日米ノミノ問題ニ非サルナリト述フ

二、永野全權ハ日本ノ眞ニ欲スル所ハ不脅威不侵略ノ狀態ニシテ均等ニ依リテノミ之ヲ實現シ得ルモノト確信シ居レリ日本ハ軍擴ノ意図ナク關係國軍備ノ水準ヲ低下シ次テ安全感ノ平等ヲ實現セントス先刻日本案ノ内示方ヲ求メラレタルモ何ヲ造ルカカ先決問題ナリト答ヘ

「デーヴィス」ハ吾人ハ現ニ右ヲ實現セリト爲スモノニシテ防備ノ現狀維持ヲモ含ム華府條約ニ依リ不脅威ノ狀態ヲ作り又不侵略ニ對シテハ九國條約カ其ノ政治的基礎ヲ爲スモノト認メ居レリ余ハ何故ニ日本側カ脅威ヲ感スルニ至レルヤヲ了解スルニ苦シムト述ヘ「スタンドリー」カ華府會議議事錄中加藤全權及幣原全權ノ所言ヲ讀ミ上クルヤ

永野全權ハ加藤全權ノ日本カ米國ト均等ノ海軍ヲ造ル意思ナシトノ言ハ今日ノ日本人ノ考ヘ方トハ異ナレリ「ヒーネズ」全權モ當時ハ潛水艦存置ヲ唱ヘ後ニ倫敦會議ニ於テ其ノ廢止ヲ主張シタル如ク考ヘ方カ時ニ應シ異ナルハ已ムヲ得ス吾人ハ華府條約ヲ以テ日本ニ安全ヲ與ヘタリトハ思ハス日米間ニ右ノ如キ不當ナル差異ノ有ルコトカ安全ノ均等ヲ來サル理由ナリト信ス日米均等ハ米國ニ取リ果シテ脅威ナリヤ攻ムルニ足ラス守ルニ易キ兵力ヲ定メハ遠ク大洋ヲ隔テ相互ニ攻撃不可能トナルカ故ニ兩國共ニ安全ヲ保チ得ルニ至ルヘシ此ノ際余ハ倫敦會議ノ結果ニ關シ當時ノ貴國海相「ア

「ダムス」カ上院ニ於ア米國ハ日本ニ取り殆ト不可能ノモノヲ承諾セシメタリト言ヘルコトニ御注意願ヒ度シト述ヘ(「デーヴィス」ハ左様ノコトヲ承知セスト亥キタリ)

「スタンドリー」ハ華府條約ハ日米相互ニ正常ニ「オペレート」スル「エリア」ニ於ケル安全ヲ確保スル様按配セラレタルハ疑ナキ所ニシテ若シ日本ニ均等ヲ與フトセハ比律賓方面ノミナラス「アラスカ」方面ニ於テモ日本ニ優越ヲ與フルコトトナリ日本ニ比律賓攻略ノ意アリト爲ス米國人多數アル此ノ際右ノ如キハ到底受諾シ得サル所ナリ右ハ理屈ニハ非シテ現實ノ問題タリト言ヒタルニ付

永野全權ハ劣勢ナル日本海軍カ米國ヲ進攻シ得サルコトハ明ナルモ吾人ハ米國海軍カ東洋海面ニ來リ「オペレート」シ得ル力アリト信スルモノニシテ現ニ貴國海軍中ニモ之ト同意見ノ人アリ比律賓カ東洋ニ在ルコトハ事實ナルモ他方英國カ西印度及加奈陀ヲ有シ又佛國カ西印度ニ領地ヲ有スルニ拘ラス米國ハ歐洲ニ何物ヲモ有セサルニ非スヤ海軍軍人トシテ戰鬪ノ實際ヲ考フルニ最モ必要ナル戰略地點ニ勢力ヲ集中シ得ルモノカ戰爭ヲ左右シ得ルコト明ナリ「アラスカ」カ危險ニ瀕スルト同様ニ東京方面ニハ幾多ノ防禦無キ島ヲ有スルニ非スヤ他方比島ハ米國ノ領地ナルモ日本ノ交通線上ニ在ルノミナラス對日作戰ノ基地トシテ日本ヲ脅威シ得ルモノナリ日本ハ比島攻略ノ意思無キモ吾人ノ立場ヨリスレハ比島ノ存在ニ依リ益々米國ニ優勢ヲ與フルコトナルヲ指摘セサルヲ得スト駁ス

「デーヴィス」ハ貴方提案ヲ「フェア」ナリトハ考ヘラレス華府條約以前ニハ何等ノ制限ナク海軍競爭行ハレ居リ同條約ニシテ無カリセハ近々二、三年ノ内ニ英國ヨリモ更ニ優勢ナル海軍ヲ持チ得タリシナラン然ルニ米國ハ何國ヨリモ大ナル犠牲ヲ拂ヒ關係國間ノ平和、理解及安全ヲ増加シタリト確信シ居レリ英國ハ米國ニ均等ヲ許容(Grant)セルニアラス米國カ之ヲ受諾セルハ英米相互カ「コンフタブル」ニ感スヘシト信セルニ依ル日本提案ハ米國ヨリ「アラスカ」及比島ノ防護力ヲ奪フモノニシテ安全ノ平等トハナリ得サルニ非スヤト述ヘ

永野全權ハ米國カ大ナル犠牲ヲ拂ヘリ吾人ハ決シテ華府條

約カ安全ノ平等ヲ來セリトハ思フ能ハス同條約ハ建艦競争ヲ止メ爾來引續キ平和ヲ得タルハ平和ヲ愛好スル貴國カ總ヲ世界平和ノ爲ニ盡サレタル結果ニシテ吾人ハ米國カ永ク同シ態度ヲ採ラレンコトヲ望ムト答フ

三、「スタンドリー」ハ余ハ極メテ率直ニ米國側所見ヲ申上ケ度シ安全及不脅威不侵略並ニ之ト關係スル事項ニ付日米間ニハ意見ノ一致ナシ米國側ニテハ現行二條約ヲ何等カノ形ニ於テ修正セルモノヲ數箇年續ケ日米間ニ猜疑無キニ至リテ考ヘ直スヲ可ナリト爲シ居レリ重ネテ御尋ネスル次第ナルカ暫定的解決トシテ何カ「サゼッション」ナキヤト尋ネ「デーヴィス」ハ米國ハ日本ノ友情ヲ欲ス日米ハ相互ニ良キ顧客ニシテ世界ニ日米兩國程諒解シ合フ様生レタル國無シト確信ス米國ハ何物ヲモ日本ヨリ奪ハント欲セス然レトモ伊「エ」紛争ト云ヒ支那ニ於ケル情勢ト言ヒ次ニ來ルヘキモノノ何タルカラ察知スルヲ得ス人皆不安ノ状態ニ在リテ根本的協定ヲ爲スニ適當ナル時期ニ非ナルヲ以テ御互ノ猜疑ノ解消スル迄 modus vivendi ワ作リ度シ貴國ハ今ヤ進展(evolution)ノ道程ニ在リ吾人ハ寧ロ之ヲ注視スルモ「トラブル」ヲ欲セス又貴方ノ米國ニ對スル信頼(confidence)ヲ覆ヘスカ如キコトヲ爲ササルヘシト云ヒ更ニ語ヲ續ケテ米國人ハ他ノ何國民ニ比シテモ劣ラサル程貴國民ト其ノ美點ヲ理解シ居レリ其ノ相互理解ノ關係ヲ平和ヲ害セサル様増進シ度ク祈念スルノミト述ヘ「フィリップス」ハ最近頓ニ良好ヲ加ヘツツアル日米間ノ感情ヲ共通最大限ノ設置ヨリ生シ來ル猜疑ニ依リ害スルニ忍ヒスト言ヒタルニ付

性定暫ノ日米
ノ定見解
可能協ト解
協定案
米ノ暫定

永野全權ハ日米友好關係ノ增進ニ異議無シ當吾人ハ米ノ暗黙ノ威壓(「サイレント、ブレッシュア」)ヲ感シ居ルカ故ニ日本本國ニ對スル右ノ如キ重大ナル脅威ハ是非排斥セサルヘカラスト答ヘタリ

四、次テ「スタンドリー」ハ御互ノ立場ハ充分明トナレリ此際量的問題ニ關シ唯一ノ論理的方法ハ一定ノ「テンボラリ、ビリオド」ヲ設ケ右期間中現行二條約ノ構造(「ストラクチャ」)ニ若干ノ變更ヲ加ヘタル一協定ヲ作リ其ノ前文中ニ各國ハ其ノ欲スル海軍兵力ヲ保有シ得ルノ權利アルコトハ其ノ主權ニ基キ當然ノ所ナルモ日米間ノ諒解ノ增進及兩國間ノ均衡ヲ害セサルカ爲ニ左ノ如ク兵力ヲ協定セリトノ趣旨ヲ定ムレハ如何ト存ス吾人ハ日米相互ノ輿論ヲ斟酌スル必要

アル處此ノ際右カ唯一ノ方法ナリト思フト披露シ且「デーヴィス」「スタンドリー」共々右ニ對スル御回答ハ急ヲ要スルニ非ス何レ兩三日後改メテ御面會ノ節承レハ結構ナリト述へ右ニテ會談ヲ終レリ

第五款 日佛第三回會談（一月七日）

昭和十一年一月七日佛國側ハ同國提案ニ關シ説明ノ爲我全權ヲ來訪會談シタルカ其ノ際帝國提案ニ關シテモ種々意見ノ交換行ハレタリ（右會談内容ニ付テハ後出第七章第一節第二款參照）

第六章 英國建艦計畫宣言案ノ審議

英國側ハ第一委員會第五回會議ニ其ノ建艦計畫宣言案ヲ提示シ爾來委員會ハ第八回會議迄四回ニ亘リ引續キ同案ヲ討議シタリ

第一節 第一委員會第五回會議（十二月十七日）

第一委員會第五回會議ハ十二月十七日午後三時十五分開會首席全權會議ニテ決定ノ通英國側提議ノ建艦計畫宣言案ヲ議題トシテ討議ヲ開始シタルカ經過大要左ノ如シ

一、議長（「モンセル」）ヨリ先ツ英國案ノ説明トシテ英國ハ日本ノ共通最大限主義ハ不安ヲ増大スルカ故ニ承服シ難キモノ點ハ英國ノ見解ト合致スルニ付新條約中ノ一條項ニ掲タルコトシ他方比率又ハ共通最大限ニ關スル困難ヲ避ケンカ爲兵力量ノ數字ハ新條約ヨリ之ヲ除去スルコトヲ示唆セントス而シテ此ノ場合ニハ一定期間ニ亘ル建艦計畫ニ關スル各國ノ一方的自發的宣言ヲ條約ニ附屬セシムルコト必要ナルヘシト前提シ
新條約ニ挿入スヘキ案文ナリトテ左記提案（附屬書第五號甲參照）ヲ讀上ク

條約ニ挿入スル爲聯合王國代表カ提案シタル方式

國ノ安全ノ爲ニ必要ナル程度ノ海軍軍備ヲ保有スルノ權利ハ一切ノ國ニ屬スルモノトシテ相互ニ且十分ニ承認セラル海軍兵力カ各國ノ國ノ安全ノ爲ニ要スル最低限度ヲ基礎トスヘキコトハ指導の原則ニシテ右限度ハ事情ニ應シテ必然的ニ相違スルモノナリ特定ノ一編約國カ或數年間ニ亘ル其ノ軍艦建造ノ制限ニ自發的ニ同意スルコトハ單ニ同國ノ慎重ニ考究セラレタル當該時ノ海軍ノ必要ノ表示ト認メラルヘキモノニシテ右編約國ノ國ノ地位ノ毀損ト認メラルヘキ

モノニ非ス

次テ「モンセル」ハ本案ハ安全ノ平等ニ關スル日本ノ主張ヲ充分表明シ居リ又本會議ノ各國ニモ満足ヲ與ヘ得ヘキノミナラス一切ノ海軍國ニモ擴充シ易ク尙又事態ノ變更アルモ此ノ方式ハ原則ヲ表明スルモノナルニ依リ修正ノ要ナカルヘシ

英國提案ノ他ノ部分ハ一定期間ニ亘ル建艦計畫ノ自發的制限ノ宣言ニシテ吾人ハ當初此ノ期間カ長期ニ亘ルヘキコトヲ希望シタルモ豫備交渉中右ニハ反對アリタリ何レニスルモ建艦宣言ノ一般的方式ハ次ノ如クナルヘシトテ左記提案（附屬書第五號乙参照）ヲ披露ス

新建造ニ關スル一方的宣言ノ豫想形式

、、、國政府ハ本日署名セラレタル條約第、、、條ニ掲ケラル國ノ安全ノ平等ニ關スル規定ヲ銘記シ左ノ宣言ヲ爲スノ光榮ヲ有ス

、、、國政府ハ其ノ國ノ安全上ノ必要カ、、、ノ期間中該政府ヲシテ本宣言書附屬表ニ於テ軍艦ノ各艦種ノ下ニ掲ケラル數字ヲ超ユル軍艦トン數ヲ建造セシメ又ハ取得セシムルコトナカルヘキコトヲ豫想ス

、、、國政府ハ事情ノ變化カ其ノ國ノ安全上ノ必要ニ重大ナル影響ヲ及ホシ本宣言附屬表ニ掲ケラル數字ニ違フコトヲ必要ナラシムル場合ニハ本日署名セラレタル條約ノ他ノ締約國ニ對シ直ニ通知スヘク且當該事情ノ下ニ於テ適當ナリト認メラル方法ニ依リ右當事國ト當該事態ニ付欣然協議スヘシ、、、國政府ハ本件通報カ條約ノ他ノ締約國ニ對シテ爲サレタル日ヨリ一年間ハ如何ナル場合ニ於テモ右ノ數字ニ違フコトナカルヘキコトヲ約ス

次テ「モンセル」ハ本宣言案ニ附屬セシムヘキ表ハ各國ノ艦種別建造量ヲ示スヘキ處右建造量ハ本表ノ作成及建艦ノ宣言ニ先立チ締約國間ニ公表セラレ（revealed）討議セラレ且合意セラルノ要アルヘシト述ヘ尙

英國案ハ質的制限ト相俟テ吾人ノ當面スル困難ノ或モノヲ除去スヘシ本案ハ（イ）建造量ノ決定及（ロ）其ノ後ノ變更ヲ問

附屬表

英案ノ期

全然各國ノ自由トスルモノナリ現下ノ混亂セル事態ニ鑑ミ各國カ長期ニ亘リ信賴ヲ繫キ得サルニ於テハ本案ハ短期トスルコト必要ナランモ重要ナルコトハ現下ノ困難ナル時期ヲ「カヴァー」スルニ在リ若シ數箇年ニ亘リ得レハ各國ノ安全感ハ増大セラルヘシ

英國案ハ或時期ニ於ケル總噸數ヲ示ササルコトニ依リ比率主義ニ伴フ困難ヲ除ケリ代換又ハ廢棄ニ付テハ各國ノ處置ニ委セ何等規定セサリシ處現有兵力量ニ建艦量ヲ加フルニ於テハ艦齡内艦船ノ量ヲ推シ得ヘシ本案ノ成功ノ程度ハ宣言ニ當リ各國カ建艦競争開始ノ傾向ヲ自制スル程度如何ニ係ルヘシ又英國トシテハ本建艦量ヲ更ニ拘束的ナラシムルノ用意アルニ拘ラス契約的形式ヲ避ケタルハ斯クストキハ比率主義存續ノ傾向ヲ馴致スト懸念スル向アリタルニ因ルト説明シタル上英國案ニ對スル各國ノ一應ノ意見又ハ質問ヲ求メタリ

二、右ニ對シ米「デーヴィス」ハ（イ）英國案ハ直ニ效力ヲ發生スルモノナリヤ又（ロ）現行條約ニ依ル艦船廢棄ノ問題ヲ如何

ニ取扱フモノナリヤ（ハ）英國案ハ何年位ニ亘ルモノナリヤト問ヒ

議長ハ（イ）英國案ハ現行條約失效後ニ效力ヲ生スルモノニシテ同條約ヲ何等害セス（ロ）廢棄等ノ問題ハ英國案ト必然的ニハ關聯セスト認ムルモ同問題ハ適當ノ時機ニ討議ノ要アルヘシ（ハ）吾人ハ六年ヲ豫見セルモ會議ノ決定ニ委スルノ外ナシト答ヘ

英案討議
經過
米ノ質問
ト英ノ回答

「デーヴィス」ハ期間極メテ短キ場合其ノ期間内ニ權利行使ヲ必要トスルコトトナラハ各國共建艦ニ努ムヘシト述ヘタル後米國側ハ英國案ヲ最モ好意的ニ考慮スルモノナリト附言シ議長ハ右米國ノ好意的態度ヲ多トセル後各國ニ建艦ヲ強フルカ如キハ吾人ノ最モ欲セサル所ニシテ本件ハ篤ト研究スヘシト答ヘ「デーヴィス」ハ長期ニ亘ル計畫ニ付協定ニ達スルノ困難ハ之ヲ認ムルモ他方實際的見地ヨリスレハ一年一年ニ海軍兵力ヲ整備スルコトハ至難ナルヘシト指摘シ議長ハ成ルヘク長期トスルニ賛成ナリト答ヘタリ

三、次ニ潔洲及加奈陀ヨリ簡單ニ英案ヲ支持シタル後

陳述
伊ノ意見及佛
伊ノ意見及佛
潔洲

佛國全權「ロベール」ハ英國案ノ「テクスト」ハ唯今入手シタル處其ノ方式ニハ重大ナル主義ノ問題ニ關係アル點アリ之ニ付テハ本國政府ニ請訓ノ要アリ意見ハ後日ニ留保スト述ヘタル上差當リ本年（昭和十年）八月十四日佛國政府ノ對英「ノート」ヲ引用スルニ止ムヘシトテ左ノ通同「ノート」第三項ヲ讀上ケタリ

量ノ問題ニ關シテハ英國政府カ其ノ覺書第二項ニ述ベラレタル所ヲ基礎トセル解決カ如何ニ困難ニシテ且進捗シ難キカヲ指摘セルハ尤ナリ佛國政府ノ見解ニ依レハ右障碍ハ建艦宣言ヲ極メテ短期間ノモノト爲ス程容易ニ排除セラルヘシ

右ニ對シ議長ハ佛國側ノ所謂短期間トハ何ノ位ナリヤヲ適當ノ時機ニ承知シ度シト述ヘ

次ニ伊國側「ビニ」ヨリ英國案ハ一方的宣言ト云ヒ乍ラ建艦量ノ變更ノ場合ニハ各國ト協議スル次第ナリヤト問ヒ「クレーギー」ハ一方的宣言ト云フハ契約的義務ヲ排セんカ爲ニシテ最初ノ建艦量ノ決定及其ノ後ノ之カ變更ニ付テハ何レモ關係國トノ協議ヲ要スト答フ

四、次ニ永野全權ヨリ追テ更ニ所見ヲ開陳スル所アランモ差當リ質問シタキ點アリトテ（イ）英國案ニハ現有兵力ニ付何等規定ナキモ軍備縮減ニ對スル意図如何若シ現有兵力ヲ基礎トシテ數年間ノ兵力宣言スルモノトスレハ數年後ノ兵力關係ハ現在ノ夫レト著シキ差異無カルヘシト思考セラル處如何（ロ）最初ニ各國ノ建艦計畫ニ付協議セル場合及其ノ後事態ノ變化ニ依リ兵力ニ不足ヲ感シ右計畫ヲ修正スルニ際シ協議スル場合ニハ何ヲ以テ協議ノ基礎トスルヤト問ヒタル處

英ノ應答
ノ質問
帝國全權
ノ質問
阿ノ質問
新西蘭ノ
贊成ト南ノ
米「デー
ヴィス」
ノ質問ト
英ノ應答
議長ハ（イ）英國案ヲ契約的ノモノトセサレハ增艦ヲ阻止シ得サルヘシトノ御意見ナル處英國ハ本案ヲ各國ニ受諾シ易カラシムル爲ニ非契約的ノモノトシタルモ英國トシテハ直ニ之ヲ契約的ノモノタラシムルコトヲ歓迎ス（ロ）軍擴阻止ニハgoodwillノ外無カルヘク英國案ハ固ヨリ完璧ナルモノニ非サルモ無條約ニ優ルヘシト答フ

六、此ノ時米「デーヴィス」ハ英國ハ現存條約ヲ以テ滿足スルモノニシテ好ンテ新方式ヲ提案サルルモノニ非サルモ或ル國ハ共通最大限ニ反対シ他ノ國ハ比率ノ制度ニテ拘束セラルル好マサル爲結局將來軍縮ノ確定案ノ成立ヲ見ル迄ノ一時的ノ案トシテ本案ヲ提出サレタルモノニシテ海軍國ノ相對的地位ヲ變更セシメントスルモノニハ非スト思フ處如何ト訊シ議長ハ概言スレハ全ク其ノ通ナリト答ヘ「デーヴィス」ハ重ネテ英國案ハ縮減ヲ排除スルモノニ非スト思フト問ヒ議長勿論然リ「クレーギー」ノ前ニ述ヘタル通ナリト答フ

七、以上ニテ討議ヲ中止シ翌日續行ノ形勢トナリタル處我方トシテハ英國案ヲ篤ト研究スルノ要アリト認メタルニ付永井全權ヨリ會議ヲ翌々日ニ延期方ヲ提議シタルニ異議ナク十二月十九日午前續行ノコトナリ午後五時散會セリ

第二節 第一委員會第六回會議（十二月十九日）

第一委員會第六回會議ハ十二月十九日午前十時半開會前回ニ引續キ英國案ヲ討議ス經過概要左ノ如シ
一、議長ヨリ意見又ハ質問ヲ求メタルニ對シ先ツ米國全權「デーヴィス」ハ英國案ヲ討議ノ基礎トスルコトニ贊成ナリト
述ヘ

佛ノ意見
開陳
賛成
米ノ討議

二、佛國全權「ロベール」ハ英國案ニハ二部門アリ第一ノ部門ハ國家ノ安全及軍備權ニ關スル原則ヲ表示スルモノニシテ
第六章 英國建艦計畫宣言案ノ審議

同案文ニ對シテハ政府ニ於テ慎重研究ヲ要スルカ故ニ差當リ意見ヲ留保スルモノナルカ同案ハ主トシテ政治的性質ヲ帶ヒ五國間討議ノ範囲ヲ逸脱ス軍備平等權ニ付テハ從來論議アリシコトハ各位ノ想起セラル所ナルベシ

英國案ノ第二部門ニ關シテハ建艦量ヲ表ニ作成スルコトハ佛國政府ノ望マントセル新艦建造ノ事前公表ニ適合スルモノナルニ依リ右ノ採用ニ佛國トシテハ異存ナク且右ハ量的制限問題ノ解決ニ貢獻スル所大ナリト認メラル處此ノ際無條件ニ贊同スルニ先立チ確メタキ點アリトテ

(イ) 英國案ニ於テハ其ノ附屬表ノ數字ハ協議ヲ經ルヲ要スル處前回議長ハ英國案ハ成ルヘク長期例ヘハ六年位トシ度キ意嚮ナル旨述ヘラレタルカ六年間ニハ全艦隊ノ三分ノ一ハ代換セラレ得ヘキニ依リ結局全兵力ニ付討議スルニ同シカルヘシ佛國ハ此ノ點ニ關スル他國全權ノ意嚮ヲ承知シ度キ處佛國ノ見解ハ本年(一九三五年)八月十四日ノ對英回答ノ通ナリ佛國ノ所謂「短期間」カ何年ナリヤニ付前回議長ヨリ質問ハアリタルモ討議ノ經過ヲ見スシテハ唯今言明シ難シ

(ロ) 次ニ英國案ニ付兵力量討議ノ基礎ニ關シ英國側ハ前回各國現在ノ兵力關係ヲ基礎トスル意嚮ヲ示シ「デーヴィス」氏ハ同案ニ依リ兵力關係ニ變更ヲ生スヘカラストノ趣旨ヲ述ヘ「モンセル」氏ハ之ニ同意シタルカ然ラハ各國現在ノ兵力關係(situations respectives actuelles)トハ何ソヤラ決スルノ要アリ華府及倫敦條約ニ依ル艦隊ノ理論的均衡ナリトスレハ佛國ノ關スル限り二艦種ノミノ問題ナリ若シ又現實ノ兵力ノ意味ナラハ現ニ就役中ノ艦齡内ノ艦船ニ限ルヤ艦齡外又ハ建造中ノモノ若ハ數年ニ亘ルコトアルヘキ計畫公表濟ノモノヲモ含ムヤ

佛國トシテハ以上諸點ニ付合意アルコトヲ重視スルモノナリト述ヘ次ニ

伊ノ見解
三、伊國全權「ビニ」(「ビシア」少將代讀)ハ建艦宣言ニ依リ量的制限ヲ行ハントスル英國ノ見解ニハ同意ナルモノ之カ實際的適用ニ當リ長期トスルニ於テハ比率主義ニ立還リ再ヒ困難ヲ惹起スルノミナラス開會式ニ於テ伊國首席全權ノ指摘セル如ク長期ノ約束ハ現今ノ技術的及政治的事象ノ極メテ急速ナル進展ニ鑑ミ得策ナラス更ニ又若シ數年間ニ亘ル建造

量ヲ殊ニ艦種別ニ提示スルコトトスレハ各國ハ各種ノ必要ヲ考慮シ過大ノ量ヲ要求シ且一旦要求シタル上ハ自然夫レ迄建造スルノ傾向ヲ生スヘキニ反シ短期間トスレハ不測ノ必要ニ依リ不利ニ陥ルノ虞少キカ故ニ自然必要ノ最少限度ヲ要求スルコトナルヘシト述フ

四、次テ永野全權ハ英國案ニ關シ意見開陳ニ先立チ訊ネ度キ點アリト前置シタル上英國案ニハ海軍兵力ハ各國安全ノ爲必要トスル最低限度ニ止マルヘシトアルモ一國カ例ヘハ五〇ノ力ニテ攻撃セラレタル場合ニハ被攻擊國ハ四〇ノ力ヲ以テハ之ヲ防禦シ得サルヘシ出來得レハ五〇以上ノ力ヲ以テ防禦シ得ンコトヲ希望スヘキモ互ニ多クノ防禦力ヲ主張スルニ於テハ協定ハ至難ナルニ付一般的原則トシテハ五〇ノ攻擊力ニ對シテハ同シク五〇ノ力ニテ防禦スルコトヲ以テ國ノ安全ヲ保ツニ必要ナル最小限度トスルヲ至當トスヘク換言スレハ國ノ安全ヲ保ツニ必要ナル最小限度トハ自國ノ受タル攻擊力ト同等ノ兵力ナリトスルヲ一般的原則ト思考スル處英國側ノ見解如何ト問ヒタル處「チャトフィールド」ハ日本側ノ戰略上ノ議論ハ了解シ難キ所ニシテ海軍兵力ノ問題ニ付テハ先ツ(イ)兩海軍間ノ距離ヲ考慮ニ入ルノ要アリ例ヘハ數千哩ヲ隔ツル場合ハ防禦國ノ海面ニ到達スル攻擊國海軍ハ軍需(resources)及根據地ヲ缺キ且交通線維持ノ必要等ノ爲不利ノ地位ニ立ツヘシ次ニ又(ロ)攻擊國ノ有スル責任ノ大小モ關係アリ即チ全世界ニ領土及交通線ヲ有スル國ハ世界ニ亘ルvulnerable pointsヲ防禦セサルヘカラサルニ付攻擊ニ用ヒ得ル力ハ少クナルヘシ之ヲ要スルニ地位隔絶セル場合ニハ五〇ヲ以テ四〇ノ兵力ヲ有スル國ヲ攻擊スルコトハ不可能ナルヘシト答ヘタルニ付

永野全權ハ我方質問ノ要點ハ一國ノ蒙リツヴァル actual pressure カ五〇ナル場合四〇ノ兵力ヲ以テ防禦シ得ルヤ否ヤニ在リト云ヘル處「デーヴィス」ハ日本側質問ハ攻擊地點ニ於ケル兵力ノ平等ノ意味ナルヘク右ハ華府條約ノ基礎タル原則ナリト云ヘルニ付

永野全權ヨリ問題ハ一國カ現ニ五〇ノ「ブレッシュ」ヲ受ケ居ル場合(actually feeling the pressure of 50)ニシテ攻擊國ノ有スル全兵力トハ關係ナシト重ネテ説明セル處

議長（「モンセル」）ハ余トシテ即席ニ（off hand）ニシハ遠隔ノ國ヲ其ノ近海ニ於テ（in her own territory）攻撃シ得ル爲ニハ其ノ國ヨリモ遙ニ大ナル兵力ヲ必要トスヘシト答ヘタルニ付

永野全權ヨリ距離ノ如何ハ問題外ナリト指摘シ又
「チャトフード」ハ議長ト同意見ニシテ遠隔ノ地ニ四〇ノ兵力ヲ擁スル國ヲ其ノ近海ニ於テ攻撃シ得ル爲ニハ五〇以上例ヘハ七〇ノ兵力ヲ要スヘシ此ノ問題ニ付テハ距離ハ決定的因子（vital factor）ニシテ之ヲ無視スルヲ得スト云ヘルニ付

永野全權ハ數字ハ例トシテ舉ケタルノミ要スルニ被攻擊國カ現ニ攻撃國ノ加ヘツツアルカヨリモ明白ナル劣勢力ヲ以テ防禦シ得ルヤノ問題ナリト繰返セル處

「チャトフード」ハ吾人ハ純理論ヲ基礎トシテ實際的適用ヲ論議スル能ハス大國ニハ大ナル責任アリ從テ其ノ全海軍力ヲ集中スルコトハ不可能ナリ日本側ノ質問ハ實際的ニ非ス尤モ各國責任ノ差異ニ拘ラス海軍兵力ハ凡テ一點ニ集中シ得ルカ故ニ全海軍國ハ同一兵力ヲ有セサルヘカラスト日本側カ云ハルルナラハ斯クテハ最モ「ヴァルネラブル」ナル國ニトリテハ安全ハ決シテ確保セラレサルカ故ニ之以上議論ヲ進メ難シト云フ

依テ永野全權ハ我方ノ質問ハ責任ノ大小、兵力集中ノ難易トハ全ク無關係ニシテ唯一國カXノ攻撃力ヲ加ヘラル場合Xヨリ小ナル力ニテ防禦シ得ルヤノ問題ニシテ右ハ空理ニ非ス各國ノ安全ヲ確保スル協定ヲ作ルニ必要ナル指導的概念（guiding idea）ナリト說明セル處

議長ハ戰術的見地ヨリスレハ一國ハ他國ヨリ少キ力ニテ防禦シ得ヘシ日本側ハ距離ノ問題ヲ除外セラレタルモ例ヘハ隣接國間ナラハ空軍陸軍ヲ考慮ニ入ルノ要アルヘシ日本ハ何國ヨリモ遠隔ノ地位ニアル自國國防ノ事ヲ念頭ニ置カレ居ルニ非スヤト云ヒ之ニ對シ

永野全權ハ例ヘハ防禦ニ立ツ國カ防禦上重視スル其ノ近海ニXノ力ヲ有スル艦隊カ來攻シタル場合防禦國ハXヨリ小サ

キ艦隊ヲ以テ防禦シ得ルヤト問ヒ尙又陸空軍等ノ問題ヲ論議セハ大空軍國ハ小海軍ヲ以テ満足スヘシ等ノ議論モ出ツヘキモ右ハ茲ニ論議ノ範圍外ナリト云ヘル處

議長ハ日本ノ質問ニハ「然リ自國近海ニテハ劣勢ニテ防禦シ得」ト答フルノ外ナシト云ヘルニ付

永野全權ヨリ其ノ理由ノ説明ヲ求メタル處議長ハ専門家ノ委員會ニ讓ルヲ可トスヘク日本ノ質問ハ純假定的ナルカ故ニ茲ニ討議スルモ盡クル所ナカラント答ヘ

永野全權ハ本問題ハ英國案審議ノ爲最重要ニシテ之ニ關シ充分ノ了解ニ達セサル限り英國案ニ對シ意見ヲ述ヘ難シト云ヒタル處

「チャトフード」ハ日本ノ質問ノ背後ニハ强硬ナル意見ヲ藏シ居ルコト明カナリ吾人ハ日本カ自ラ其ノ質問ニ對シ回答ヲ出サル時機ニ達セリト思フト云ヘルニ付永野全權ハ先ツ充分英國側ノ説明ヲ聞キシト酬ヒ

議長ハ世界ノ専門家ハ自國近海ニテ防禦スル國ハ攻擊國ヨリモ遙ニ有利ナルカ故ニヨリ少キ兵力ヲ以テ足ルト認ムヘク右ハ自明ノ理ニシテ説明ヲ要セス但シ其ノ間如何ナル程度ノ差異ヲ認メ得ルヤハ各國間ノ具體的問題ニシテ之ヲ論議スルモ際限ナカルヘシト述べ
最後ニ永野全權ハ議長ノ説明ニハ充分満足セサル點アルコト念ノ爲申シ述フト指摘シ議長ハ他國委員ノ陳述ヲ促シタルモ「デーヴィス」ハ今云フコトナシト答ヘ他ニ發言スル者ナク二十日午後再開ノコトシテ零時二十分散會セリ
五、尙散會ニ先立チ新年休暇後ノ再開期日ハ曩ニ一月二日ト定メタルモ其ノ後伊國側ノ希望ニ依リ一月六日ニ延期方議長ヨリ諸リ其ノ通決定セリ

第二節 第一委員會第七回會議（十二月二十日）

一、先ツ英國案ニ對スル各國ノ質問ニ對スル回答トシテ「クレーギー」ヨリ左ノ通述フ

(イ) 英國案ノ期間内ニ權利ヲ行使セサリシ場合ニ關シ義ニ第五回會議ノ席上米國側ヨリ質問アリタル處(前顯第一節、二
二對スル質疑ニ對スル質疑「クレーギー」ノ答辨) 権利云々ト云フモ英國案ハ何等新ニ權利ヲ設定シ又ハ既存ノ權利ヲ消滅セシムルモノニ非ス唯各國ノ一定時期
ニ於ケル所要海軍ヲ表示スルモノナリ而シテ宣言期間ノ終ニ當リテハ建艦宣言案又ハ他ノ形式ニ依リ爾後ノ量的制限
ニ付協定行ハルヘク其ノ際ニハ最初ノ期間中權利ヲ行使セサリシ國ハ右事實ヲ考慮ニ入レテ將來ノ建造ニ付提案シ得
ヘシ

情報交換

(ロ) 佛國側カ(一) 新艦建造ノ公表及豫告ヲ望マシトセル點ハ(前顯第二節二、參照)全ク同感ニシテ英國ハ追テ適當ノ

時期ニ情報交換ニ關スル華府倫敦兩條約ノ規定ヲ更ニ擴充セル案ヲ提出スル意図アリ

次ニ(二) 英國案ノ期間ニ關スル佛國側ノ意見ニ付テハ(同上二、佛國質問ノイ)伊國側ヨリモ同様ノ意見ヲ述ヘラレ
タルカ長期例ヘハ二十五年トモナスナラハ全艦齡内噸數ト云フニ同シカラム英國トシテハ其ノ四分ノ一即チ六年以
上ノ期間ヲ提議スル意図ナク尙英國案ニハ一年ノ豫告ヲ以テ建艦計畫ノ變更ヲ認メ居ルニモ鑑ミ佛伊側ノ指摘セラレ
タル難點ハ減少スヘシ

(三) 兵力量討議ノ基礎ニ關シテハ(同上佛國質問ノロ)英國ノ根本的思想ハ將來ノ協定ニ於テハ能フ限リ比率主義ノ
表明ヲ避ケントスルニ在リ而シテ兵力量提示ノ基礎トシテ何等カノ相對關係ヲ置クニ於テハ比率主義モ異ナラサルコ
トト爲ルヘシ仍テ此ノ基礎ハ結局各國間ノgoodwillニ在リト云フノ外ナク從テ一國カ其ノ現存兵力及公表セラレタ
ル計畫ヨリ見テ同國ノ通常ノ必要トノ釣合ヲ失シ且海軍力ノ一般的均衡ヲ覆スカ如キ建艦計畫ヲ提示スルハ「グッ
ドウイル」ニ反スヘシ各國ニ「グッドウイル」ナク又外ニ代案ナシトセハ量的制限ハ之ヲ諦ムルノ外ナカルヘシ
尙一國カ他國ヨリモ多クノ老齡艦ヲ有スル場合ニハ同國ハ比較的多ク新艦ヲ建造スルモ現在ノ一般的均衡ヲ覆スコト
無カルヘシ

老齡艦

情報交換

兵力量討議

議ノ基礎

英案ノ期

致軍擴ノ團

陳ノ意見開
帝國全權
ノ意見開
維持トナ
「ブレス
ティージ
問題ヲ解
消セズ」
差等兵力

(ハ) 次ニ數年ニ瓦ル建艦宣言ニ於テハ過大ノ數字ヲ要求シ且夫レ迄建造ヘシトノ伊國ノ意見(同上三、伊國ノ質問後

段)ニ關シテハ英國ハ伊國ノ指摘セルカ如キ傾向アルヲ認ムルモ右ハ凡ユル量的制限ノ方式ニ伴フモノナルカ右傾向
ハ英國案ノ下ニ於テハ從來ノ制限方式ノ場合ヨリモ尠カルヘシ加之英國案末段ニ各國カ其ノ宣言ヲ變更シ得ルノ自由
アリトセルコトハ伊國側ノ指摘セル傾向ヲ緩和スルモノナルヘシ云々

二、次ニ永野全權ハ左ノ通我方見解ヲ開陳セリ

昨日ノ余ノ質問ニ付テハ飛行機發達ノ現狀ニ於テスラ敵航空母艦飛行機ノ襲撃ニ對シ自國沿岸ヲ防護スル爲ニハ尠クト
モ自國海岸ヲ去ル相當遠距離ノ海上ニ於テ攻撃艦隊ト對抗スル必要アルノ事實ヲ茲ニ指摘スルニ止メ其ノ他ハ他日ニ讓
ルコトトスヘキモ吾人ノ結論ハ英國案方式第二項ノ前半即チ「海軍兵力ハ各國安全ノ爲ニ必要トスル最小限度ニ止マ
ヘク」ナル文句ニ付テハ大ニ贊成ヲ表スルモ其ノ實際ノ取扱ニ關シ「何カ各國安全ニ必要ナル最低限度ナリヤ」ノ問題
ヲ解決スルハ決シテ容易ノ業ニアラス甲國ハ乙國ニ對シ自國ノ安全ヲ得之ト同時ニ乙國モ亦甲國ニ對シ自國ノ安全ヲ得
甲乙兩國共ニ安全ナル爲ニハ兩者間ニ攻ムルニ足ラス守ルニ充分ナル關係即チ吾人ノ主張ノ基礎、主トシテ均等兵力ノ
原則ニ立還ラサルヲ得ス

以下英國案ニ對シ項ヲ分チテ意見ヲ述ヘントス

(一) 英國案ハ關係海軍國ノ現在兵力關係ヲ概ね維持セントスルモノニシテ我根本方針ト相容レサルモノナリ即チ協議ニ
ヨリ各國ノ自由ヲ束縛シタル建艦計畫ヲ樹ツルモノナルヲ以テ建艦量ハ假令比率主義ナラストモ之ニ近キモノナルヘ
ク而モ艦船廢棄ニ關シ明白ナル規定ナキヲ以テ現在ニ於ケル各國ノ勢力關係ハ少シモ調節シ得サルモノナリ
又英國案ハ「ブレスティージ」問題ヲ解消セシムト云フ處吾人ハ其ノ目的ハ認ムルモ我方ノ重視スルハ條約ニ依リ差等
兵力ヲ餘儀ナクセラレツツアル國防ノ不安ヲ除去スルニ在リ從テ形式ノ如何ニ依ラス條約ニ依ル差等兵力關係除去セ
ラルニ非サレハ「ブレスティージ」問題解消セスト思考ス

軍縮トナ
ラス

(二) 英國案ハ單ニ今後ノ建艦ノミヲ協定セントスルモノニシテ本軍縮會議ノ大眼目タル如何ニシテ軍縮ヲ斷行シ以テ人

民負擔ノ輕減ヲ爲スヘキヤニ付テハ何等ノ着想ヲモ示シ居ラス
或ハ云ハシ英國案ハ量ニ於テ軍縮ヲ意味スル提案ヲ爲ササム其ノ代リ質的ニ各艦種ノ縮少ヲ提案シ之ニ依リテ軍縮

ノ目的ヲ達セントスト然レ共軍備ハ相對的ノ量ヲ主眼トスルモノニシテ英國案ハ建艦權利ノ主張ヲ誘發スル虞アルノ
ミナラス現有兵力ヲ整理シ全體シテ軍備ノ縮少ヲ念トセサルニ於テハ假令質ヲ制限スルトモ單ニ國民負擔ノ輕減ノ
ミニ付テ云フモ其ノ目的ヲ達スルコト能ハサルヘシ

米國全權ノ意見ニハ二〇「バーセント」ノ縮減ヲ示唆シ居ル處吾人ハ勿論現有兵力比率ヲ基礎トスル比例的縮減ニハ絶
対反對スルモ軍縮ヲ念トスル點ニ於テハ米國ノ企圖ヲ多トスル次第ナリ

(三) 萬國案ニ依リ建艦案ヲ提示協議スル際保有量ノ最高限ヲ定メサル限り場合ニ依リ一國カ過大ナル紙上計畫ヲ示シ其
ノ結果實際ニ於テ却テ各國共軍擴ヲ誘起スルノ虞大ナリ

伊國代表ヨリモ昨日右趣旨ノ意見出テタリト記憶ス
(四) 英國案ハ日本ノ主張ヲ採リ入レタリトノ説明アリタルモ各國ノ權利ノ等シキコトハ單ニ宣言セラレタルノミニシテ
實質的ニハ何等之ヲ具體化シ居ラス

帝國ノ主張ハ單ナル形式のモノニ非ス不脅威不侵略ノ事態確立ノ爲實質的ニ兵力ノ差等ヲ除クコトヲ要求スルモノ
ナリ英國案ハ何等現在ノ兵力關係ヲ改變調節スルコトヲ考慮セサルヲ以テ日本ノ主張ヲ採リ入レタリトハ認メ得ス此
ノ點英國側ニ於テ誤解ナキ様特ニ希望ス

右各項ニ述ヘタル所ニ依リ英國案ノモノヲ以テハ我方ハ到底之ヲ應諾スルノ餘地渺キモノト思フ屢々反覆シタル
カ如ク最モ公正妥當ナル軍縮方法ハ依然トシテ我方ノ提案ニ依ルヲ唯一ノ良法ナリト信ス

以上開陳セルカ如ク英國案ニ對シ同意シ得サル所以ハ軍備ニ對スル意見ニ根本的ノ差異アルカ爲ナリ

我方見解
ノ説明
ノ海軍兵力
ニテ相對的シ力
ヘジセス
慮慮對的シ力
化セス

依テ我方見解ニ付以下若干ノ説明ヲ加ヘントス

抑々海軍兵力ハ移動性ノモノニシテ平戰時ヲ通シ其ノ統帥者ノ欲スル時機、欲スル海洋港灣ニ極メテ自在ニ離合集散シ
得ルモノニシテ世界海洋ノ孰レノ部分ニ在ル海軍モ互ニ各國ノ國防ニ直接ニ影響ヲ有スル次第ナリ

海上ノ戰鬪ニ於テハ國家ノ運命ハ只一回ノ決戰ニ依リ決セラレ決戰ハ各其ノ有スル凡ユル兵力ヲ戰場ニ集中シテ行ハル
ルヲ原則トス又假令決戰ニ於テ總テノ兵力カ集中セラレス優勢海軍ハ其ノ一部ヲ派遣シテ劣勢海軍ニ對抗セシメタリト
スルモ優勢海軍カ控置セル兵力ハ潛在的(「ボテンシアル」)勢力トシテ劣勢海軍國國防ニ間接直接ニ大ナル脅威ヲ與フ
右ハ史實カ之ヲ證明スル所ニシテ日露戰爭世界大戰皆然ラサルハナシ

即チ一國ノ保有スル海軍兵力ハ沿岸警察用等純然タル防禦用小艦艇ハ兎モ角苟クモ戰鬪ニ參加シ得ル兵力ハ世界孰レノ
部分ニ在ルヲ問ハス全部總括シテ相對的ニ考慮スヘキモノナリ而シテ右ノ關係ハ日英米三國ノ如ク大洋ヲ隔テテ相對シ
其ノ國防カ相互ニ主トシテ海軍ニ依存スルモノニ於テ特ニ顯著ナリ即チ兵力ニ關スル協定ハ此所ニ基礎ヲ置カサルヘカ
ラサルコトハ確乎トシテ動カスヘカラサル所ナリ

海軍兵力ハ一括シテ相對的ニ考慮スヘキモノナリトノ基礎觀念ヨリスレハ各國カ防禦ノ均衡ヲ得安全ノ平等ヲ確保スル爲ニハ各國ノ保有兵
據ノ合理性ヲ承認シ得サルモノナリ況シ現行比率ハ屢次說明セル通大戰直後ニ偶々存在セル變態的事實ニ立脚セルモ
ノニシテ之ヲ妥當ナラストスルハ帝國ノミニ非スト思考ス

前述ノ海軍兵力ハ相對的ナリトノ基礎觀念ヨリスレハ各國カ防禦ノ均衡ヲ得安全ノ平等ヲ確保スル爲ニハ各國ノ保有兵
力ハ何等差等ヲ以テ律スヘカラサルハ蓋シ當然ノ歸結ナリ
國防脆弱性ニ關シテハ曩ニ聲明セル通之ヲ研究スルノ用意ヲ有スルモ其ノ結果ハ前述ノ如ク均等兵力ノ實現ニ依リ不脅
威不侵略ノ狀態ヲ現出スルモノナルヲ以テ多クノ場合ニ於テ國防脆弱性ニ依リ兵力ヲ調節スルノ餘地無キノ結論ニ到達
スルヲ豫想ス

以上説明セル如クナルヲ以テ共通最大限ヲ設定シテ右限度内ニ於テ各國凡々其ノ国防上必要トスル所ニ應シ其ノ軍備ヲ整へ得ル如ク爲スハ最モ合理的ニシテ總テノ國ニ直ニ適用シ得ル公正ニシテ且最モ實際的ナル軍縮方式ナリトノ結論ニ達ス云々

アラ新東西蘭ノ簡單ニ英國軍ノ建造競争ノ危險ヲ防止スルモノナルカ故ニ居貰トシテ之ヲ競争シトハ外ハ後
第三、米國全權「ヂーヴィス」ハ他國カ共通最大限案ヲ承諾セス日本ハ英國案ヲ受諾セス又現行條約三變更ヲ加ヘテ
第一、米ノ見解

ルコトモ受諾セサルニ於テハ今後量的制限ハ事實不可能トナルヘシ英案ニ對スル日本ノ批評中ニハ幾多贊成シ得ル點モアルモ日本ノ主張ノ根本的不合理ハ「兵力ノ平等即安全ノ平等」トスル點ニアリ日本ハ國防脆弱性ニ差異アルヲ認メ均等兵力確立後之ヲ考慮スヘシト云ヒ乍ラ結局共通最大限ニ還リ來ルモノナリ若シ兵力ノ平等即チ安全ノ平等ナリトセハ右原則ハ陸軍空軍ニモ及ホサルヘキモノニシテ斯カル「ライン」ニテハ到底協定ノ見込ナシ米國ハ英國案中ニハ好マシカラサル點モアルモ他ニ良案ナキニ付已ムヲ得ス之ニ依ラントスルモノニシテ現在ノ方式ノ方カ結局ハヨリ満足ナルモヘ思考ノ居ノ一、越々

佛ノ留保の態度
五、佛國全權「ローベール」ハ佛國ノ質問ニ對スル前顯英國ノ回答ニ關シテハ意見表明ヲ留保スルモ昨日ノ討議ハ純學究的義論ニシテ「一ノミ、二ノミ、三ノミ、四ノミ、五ノミ、六ノミ、七ノミ、八ノミ、九ノミ、十ノミ」、也れ、日三四月、二月桂、二月三十日來、そ

請詔ニシテ「イエス・ハ！」元答へ難キモノナリ海・國防・安全・本テノ地形相手國トノ距離主要交通線ノ長サ及
其ノ脆弱性等各種ノ要素ヲ考慮セサルヘカラス昨日ノ討議ニ徵スルモ公ノ宣言ヲ爲スコトニ依リ相互ノ安全感ヲ害スル
カ如キコトハ之ヲ避クルノ要アルヲ知ルヘシ之佛國カ昨日論議セラレタル一般的方式ニ關シ留保セル所以ナリ又現下ニ
如キ不安ナル國際情勢ノ下ニ於テハ餘リニ正面ヨリ海軍兵力ノ量的制限問題ヲ取扱フノ困難ナルコトハ昨日ノ論議ニ依
リテモ明ナルヘシ

議長（「モンセル」）ハ佛國ハ英國案ノ冒頭ノ文章ニ異議アル爲留保的態度ヲ採ラルモノ如キ處右文章ハ日本側ノ主張ニ應センカ爲ニ掲ケタルモノナルモ日本ハ之ヲ以テ何等用ヲ爲ササムノト云ハレタルニ付日本ニ異議ナクハ訂正又ハ削除シ得ヘシト述フ

意見修正伊ノ六、次ニ伊國(「ピシア」少將)ハ英國案カ一方的自發的宣言ト云ヒ乍ラ豫メ合意ヲ要ストスル點ハ矛盾セリト指摘シ英

我方ニ對ス
ノ長ノ謀議
ル計評

發的ナル方式ニテ即チ何等事前ノ合意ヲ要セサルコトトシ且短期ナル宣言案ヲ欲スト述へ
七、最後ニ議長ハ「デーヴィス」氏ハ日本カ英國案ニ反対シタルカノ如ク云ハレタルモ余ハ然ラスシテ日本ハ英國案ヲ受
諾シ難シトスル難點ヲ指摘セルモノト思フ日本ノ主張ハ兵力均等論ニ立還リタルモノニシテ世界ニ散在スル艦船カ凡テ

集中セラレ得ルモノト云ハルルモ右ノ論ハ各國ノ同意シ能ハサル所ナラン英國案ハ比率主義ノ難點ヲ避クルト共ニ製艦
競争ヲ阻止ゼンカ爲ノ案ニシテ萬一無協定ノ事態トモナラハ本委員會ノ世界ニ對スル責任大ナルヘシ茲ニ休暇ニ入ルニ
當リ各位ニ於テ英國案ヲ更ニ充分好意のニ考究アランコトヲ望ムト述ヘ

八、「デーヴィス」ハ日本ノ態度ニ付余ニ誤解アリタリトセハ遺憾ナリ英國案ニ對スル日本ノ批評中ノ若干點殊ニ同案ハ適
當ニ取扱ハレサルニ於テハ大軍擴ヲ誘起スヘシトセル點ハ同感ナリ就テハ日本側ニ於テ休暇中英國案ヲ基礎トシ日本ノ
舉ケタル難點除去方ニ付研究スルコトトシテハ如何ト述ヘ其ノ儘散會昭和十一年一月六日午後再開ノ豫定ヲ以テ休暇ニ
休會
ス
米我方ノ
批評ニ付
同感ナ
表
入レリ

第四節 第一委員會第八回會議（昭和十一年一月六日）

休暇明ヶ後最初ノ第一委員會（第八回會議）八昭和十一年一月六日午後三時十五分開會

第六章　英國建艦計畫宣言案ノ審議
一、先ツ議長「モンセル」ヨリ外相
會議議長更迭

スチ間シ交英
困ノ宣換ハ
難相言ニ情報
ト異期贊報

四、右ニ對シ議長ハ佛國全權ノ所言ハ英國案ノ修正トモニヒ得ヘク其ノ意見ニ付テハ同感ノ點多キ處直ニ指摘セサルヘカラサル點ハ若シ各國力互ニ異ナル期間ニ付建艦計畫ヲ宣言スルコトトナラハ國ニ依リ拘束セラル期間ヲ異ニシ一般的協定達成ニ困難ヲ生スヘキコト之ナリ尙佛國案ノ思想ハ全體トシテ英國ノ最モ支持スル所ナリ蓋シ一切ノ協定ニ伴フヘキ「情報ノ交換」ハ英國ノ最重要要視スル所ナルカ故ナリ吾人ハ本件ニ關シ追テ提案ノ用意アリト述フ

(ハ) 既ニ某國ニ指摘セル如ク一方的宣言ト云ヒ乍ラ相互協議ヲ要ストセルハ英國案ノ矛盾ナルカ故ニ各國ハ全然自發的且獨立ニ宣言スルコトトスルコト合理的ナラスヤ

(二) 全然獨立ニ短期ノ宣言ヲ爲ス場合ニモ右ハ必スシモ建艦ノ絶對的自由ヲ意味セサルヘシ依テ宣言後一定期間ヲ經過スルニ非サレハ起工シ得サルコトトスレハ其ノ間具體的基礎ニ於テ一國ノ新艦建造カ他國ノ安全ニ及ボヌヘキ影響ニ付各國相互ニ協議研究シ得ヘク而シテ各國カ其ノ宣言ノ凡有效果ヲ充分ニ考量シタル後ニ始メテ事態確定スヘシ

トテ後出佛國案ノ思想ヲ説明セリ

(ロ) 英國案ハ一定期間超過スヘカラサル最大建艦量ヲ宣言スルモノナルカ右ハ各國ノ必要ニ依リテ異ナルヘキ處勿論「プレステージ」ニ對スル考慮又ハ或ル種ノ建艦競争ノ精神ヲモ排斥セサルヘシ然ルニ若シ短期トスルニ於テハ必然的ニ事態ノ現實ニ即シ國防安全ノ理論的必要ノミナラス又特ニ當時ノ財政ノ狀況ニ應スルコトナリ實際ニ起工ノ必要アルモノノミヲ宣言スルコトナルヘシ

(二) 平等權ニ關スル日本ノ主張ハ英國案ニ包含セラレストノコトナルモ英國案冒頭ノ國防自主權ニ關スル部分ハ日本ノ軍縮根方方針ノ文言ニ依リタルモノナリ而シテ前回日本全權ハ「英案中『海軍兵力ハ各國安全ノ爲ニ必要トスル最小限度ニ止マルヘク』ナル文句ニ付テハ大ニ贊意ヲ表ス」ト云ハレタリ唯日本全權モ指摘セラレタル如ク國家安全ノ爲必要ナル兵力ノ最小限度カ何ナリヤフ決定スルニ付困難アル次第ナリ

地理的政治的條件ノ如何ニ拘ラス兵力ノ平等カ各國ノ必要ヲ満足セシムヘシトノ日本ノ主張ハ吾人ノ未タ納得セサル所ナリ

ト述ヘ尙日本全權ハ共通最大限案ニ付若干ノ意見ヲ陳ヘラレタルカ右ニ付テハ後日日本案審議ニ立還リタル際ニ讓ルヘシト云ヒ次ニ佛國ノ發言ヲ促ス

重大ナル修正ヲ加フルニ非スンハ佛國ハ贊同シ難シ

(イ) 現下ノ國際情勢ニ於テハ信賴ノ念ヲ以テ將來ヲ見ルコト能ハサルカ故ニ佛國トシテハ相當期間ニ亘ル建艦計畫ノ公

（イ）英國案ノ目的ハ現存兵力關係ノ維持ニ在リトノコトナルモ英國案ハ現行ノ比率主義ヲ避ケンコトヲ目的トシ居ルモノナリ

（ロ）廢棄ノ規定ヲ缺クニ依リ現存兵力關係ノ變更ヲ不可能ナラシムトノ批評ナルモ廢棄ノ規定ヲ缺クハ老齡艦ノ保有ヲ認ムルコトニ依リ兵力關係調節ニ付ヨリ大ナル伸縮性（「エラスティシティ」）ヲ與ヘントスルニ在リ

（ハ）積極的縮減ニ付規定セストノ評ナルモ英國案ニ於テハ質的制限ニ依リ軍縮ノ實ヲ擧ケ得ヘク英國案ヲ全體トシテ採用スレハ主力艦ノミニ付テモ約三〇「バーセント」ノ縮減ヲ以シ得ヘシ要スルニ英國案ハ安全ヲ減少スルコトナクシノ對スル評英ニ比率主義ノ回避

ノ通ニシテ比率及兵力ノ均等ハ共ニ量的制限ノ基礎トスルニ足ラス各國カ其ノ國家安全ニ必要ト認ムル軍備ヲ保有スルノ權利アルハ何人モ否認セサル所ナルモ之ヲ數字ニ具體化スル場合ニ各國間ノ合意ニ達スルハ至難ナルヲ發見ス依テ右問題ノ解決ニハ前記ノ原則ヲ包含セル極メテ彈力性アル形式ヲ求メサルヘカラス而シテ英國案ハ此ノ見地ヨリスルトキハ彈力性充分ナラス蓋シ建艦ノ具體的數字ニ付協定ニ達スルニ付困難ヲ生スレハナリ仍テ斯カル事前協議ノ點ヲ除カハ各國ノ受諾シ得ヘキ建艦宣言案ヲ得ヘク佛國案ノ原則ハ伊國ノ夫レト相通スルカ故ニ伊國ハ佛國案ニ賛成スルモノニシテ且宣言ノ期間ハ一年トスルコトヲ提議ス尙伊國ハ右ヲ出來得ル丈ケ明ニスル爲本問題ノ討議ノ基礎トナシ得ヘキ方式ヲ準備セルカ明日右ニ關シ討議シ得ル様本日討議終了後各國ニ之ヲ配付スヘシト述ヘタリ

六、茲ニ於テ議長ヨリ我方ニ意見ナキヤヲ問ヒタルニ付永野全權ハ本日英國側ノ意見及佛國ノ提案ニ付テハ他日ニ意見ヲ見留保

七、次テ「デーヴィス」ハ佛伊ノ具體案ヲ見タル上意見ヲ述フヘキモ差當リ佛國案ニ於ケル各國ノ宣言ノ期間ハ同一タラサルヘカラスト思考ス尙建艦通報ヲ爲ストスレハ其ノ期間等ハ熟考ヲ要スヘント述ヘ其ノ他ニ發言ナク最後ニ八、「ロベール」ハ佛國ニハ具體案ノ用意アル處二日ノ餘裕アラハ同案竝ニ「デーヴィス」氏ノ指摘セル點等ニ對スル説明ヲ配付シ得ヘシト述ヘタルニ付議長ハ然ラハ次回ハ一月八日午後開催ノコトトシ夫レ迄ニ英佛伊ハ夫々具體案ヲ配付シ各國之ヲ研究スルコトシテハ如何ト諮リ異議ナク決定散會セリ

米ノ佛案
ニ對スル
意見
英佛伊案
提體案ノ
示

七、次テ「デーヴィス」ハ佛伊ノ具體案ヲ見タル上意見ヲ述フヘキモ差當リ佛國案ニ於ケル各國ノ宣言ノ期間ハ同一タラサルヘカラスト思考ス尙建艦通報ヲ爲ストスレハ其ノ期間等ハ熟考ヲ要スヘント述ヘ其ノ他ニ發言ナク最後ニ八、「ロベール」ハ佛國ニハ具體案ノ用意アル處二日ノ餘裕アラハ同案竝ニ「デーヴィス」氏ノ指摘セル點等ニ對スル説明ヲ配付シ得ヘシト述ヘタルニ付議長ハ然ラハ次回ハ一月八日午後開催ノコトトシ夫レ迄ニ英佛伊ハ夫々具體案ヲ配付シ各國之ヲ研究スルコトシテハ如何ト諮リ異議ナク決定散會セリ

米ノ佛案
ニ對スル
意見
英佛伊案
提體案ノ
示

第七章 建艦通報ニ關スル英佛伊提案ト帝國全權ノ量的

問題先議要求

第一節 英佛伊ノ提案及佛伊案ノ審議

第一款 英佛伊ノ提案

英國代表ノ提案

一月六日第一委員會第八回會議ノ決定ニ依リ（前章第四節參照）翌七日英佛伊ハ夫々左記提案ヲ配布シタリ（附屬書第六、七、八號參照）

(イ) 事前通報及情報交換

英國代表ノ提案

締約國ハ排水量百トン（百二メートル式トン）ヲ超ユル條約規定ノ海軍艦船ノ建造ニ關スル左記情報ヲ他ノ各締約國ニ對シ通報スヘシ

(一) 各會計年度ノ第一月中ニ該年度内ニ起工ヲ發令セラルヘキ艦船ノ表ニシテ艦船ノ艦種別及最大備砲ノ口徑ヲ示セルモ

(二) 各會計年度ノ第六月中ニ（未タ通報セラレサリシトキハ）該會計年度内ニ起工セラルヘキ各艦船ニ關スル左記情報

艦 船 名

艦 種 又 ハ 艦 級

トン及メートル式トンニ依ル基準排水量

水線ニ於ケル長サ

第七章 建艦通報ニ關スル英佛伊提案ト帝國全權ノ量的問題先議要求

水線ニ於ケル又ハ水線下ノ最大幅員

基準排水量ニ於ケル平均吃水

計畫馬力

計畫速力

機械ノ型式

燃料ノ種類

口径三インチ（七十六ミリメートル）以上ノ全備砲ノ數及口径

口径三インチ（七十六ミリメートル）未滿ノ備砲ノ數

魚雷發射管ノ數

搭載セラル得ル機雷數

搭載セラル航空機數

(四) 各艦船ノ起工ノ日後一月以内ニ龍骨据附ノ日及(二)ニ依リ既ニ供給セラレタル情報ヲ現狀ニ適合セシムル詳細事項

各艦船ノ竣工ノ日後一月以内ニ竣工期日並ニ(二)及(三)ニ依リ既ニ供給セラレタル情報ヲ現狀ニ適合セシムル詳細事項

項

(ロ) 事前通報及情報交換
佛蘭西國代表ノ覺書

現行ノ量的制限方式ハ之ヲ千九百三十六年十二月三十一日後迄延期シ得サルコト今ヤ明ニ證明セラレタリ

他方量的問題ニ關スル如何ナル提言モ今日迄ハ全會一致ノ贊同ヲ得ル能ハサリシコトハ之ヲ認メサルヘカラズ
之右ノ困難ヲ認識スル佛蘭西國代表カ最早今日海軍兵力ノ量的制限ノ問題ノ理論的ニ完全ナル解決方法ヲ得ルコトヲ目的

トセアルヲ可ナリト確信スル所以ナリ

右ノ點ニ關シテハ聯合王國代表ト意見ヲ同シタシ佛蘭西國代表ハ本會議ニ代表者ヲ出セル一切ノ國ノ誠意ニ信賴スルヲ適當トスト思考ス軍艦建造ニ關シ完全ナル自由ノ制度ヲ設クルコトハ問題ト爲リ得サル所ナリ然レトモ一切ノ競争ヲ抑制シ及疑モナク全世界ノ軍艦建造ノ步調ヲ一般的ニ低下セシメンカ爲ニハ佛蘭西國代表ノ見解ニ依レハ起工前充分ナル期間ヲ置キテ爲サル豫告及場合ニ依リテハ關係國間ノ意見交換ヲ以テ補足セラル各國ニ依ル一方的且自發的ナル宣言ノ制度アルヲ以テ足レリトス

右ノ狀態ノ下ニ佛蘭西國代表ハ今日迄ニ本會議中ニ於テ爲サレタル一切ノ論議ヲ考慮シ協定ノ基礎タリ得ヘシト思考スル解決方法ヲ求メタリ而シテ其ノ要綱ハ左ノ如キモノナルヘシ
一、國ニシテ宣言スルコトヲ得ト思考スルモノハ何時ニテモ、、、年ノ期間ニ付、自國カ該期間中各艦種ニ付超過セサルコトヲ約スル新艦ノ總トン數ヲ宣言スルコトヲ得

二、右宣言ヲ爲シタルト否トニ拘ラス一切ノ國ハ其ノ各カ毎年當該會計年度中ニ建造ニ著手セントスル艦船ノ表及主要ナル特性ヲ公表スルコトヲ義務的ニ約ス

三、右何レノ場合ニ於テモ右ノ意圖ノ公表ハ當該政府ニ依リ全然自主的ニ通告セラル一方的宣言ノ形式ニ依リ且右政府ノ單獨責任ニ於テ爲サルヘシ

四、他方各國ハ三ニ規定セラル通告ヨリ少クトモ六月ヲ經ルニ非ナレハ其ノ新艦ノ何レヲモ實際ニ起工セサルコトヲ約ス

右ノ豫告ノ主タル目的ハ締約國中ノ一國カ他國ノ爲セル建艦宣言ヲ以テ自國ノ直接的安全ニ不安ヲ來サシムルモノナリト思考スル場合ニ於テ締約國間ニ行ハルヘキ相互的協議ヲ容易ナラシメントスルニ在リ

五、他方ニ於テ狀況ノ何等カノ變化カ安全ニ關スル條件ヲ深刻ニ變改シ何レカノ關係國政府ヲシテ一及二ノ規定ニ從ヒ宣

ス

言セラレタル數字ニ達フコトヲ餘儀ナカラシムル場合ニハ該政府ハ直ニ之ヲ他ノ署名國ニ通知シ該署名國ト事態ニ付協議スルコトヲ受諾スヘシ

六、右四及五ニ規定セラル會談ヨリ生スルコトアルヘキ結果ニ照シ各國ハ他國トノ合意ニ依リ又ハ單獨ニテ自國ノ必要ト認ムル變更ヲ最初ニ宣言セラレタル建艦計畫ニ對シ加フルノ權利ヲ有スヘン

七、尙後者ノ場合ニ於テモ各國ノ新意圖ノ通告ト右意圖ヨリ生スル實際ノ起工トノ間ニハ少クトモ六月ノ期間カ經過スルコトヲ要ス

(ハ) 伊太利代表ノ提案セル海軍軍備ノ自發的量的制限方式

第一條

第二條

締約國ハ他ノ各締約國ニ對シ其ノ安全ノ爲ニ必要ナル海軍力ヲ全然自主的ニ決定スルノ權利ヲ承認ス

締約國ハ各國間ニ一層強キ安全感ヲ確保センコトヲ希望シ本條約ノ規定スル軍艦ニシテ自國カ當該年度中ニ起工シ又ハ取得セント欲スルモノノ各艦種ニ付テノ總トン數及隻數ヲ表示スル數字ヲ示セル自國ノ建艦計畫ニ關スル情報ヲ毎年他ノ各締約國ニ通報スルコトニ同意シ且右數字ヲ超エサルコトヲ誓約ス

第三條

年次建艦計畫ノ宣言カ各締約國ニ依リ通知セラル期日ハ各締約國ノ立法上ノ必要ニ應シ各自之ヲ決定スヘシ

第四條

第二條ニ掲ケラル宣言ハ正式ノ約束ヲ構成スルモノニシテ左ノ形式ヲ有スヘシ

「、、、國政府ハ、、、年度ニ付テハ其ノ海軍ノ爲ニスル海軍艦船ノ取得又ハ起工ニ當リ左表ニ於テ軍艦ノ各艦種ノ下ニ掲ケラル數字ヲ超エサルヘキコトヲ宣言スルノ光榮ヲ有ス

第五條

艦種	隻數	總トン數	摘要
主 力 艦	、 、 、	、 、 、	
航 空 母 艶	、 、 、	、 、 、	
甲 級 巡 洋 艶(?)	、 、 、	、 、 、	
輕 水 上 艶	、 、 、	、 、 、	
潛 水 艶	、 、 、	、 、 、	

右ト同時ニ、、、國政府ハ、、、年度ニ付宣言セラレタル計畫中次表ニ於テ軍艦ノ各艦種ノ下ニ掲ケラル數字ハ未タ取得セラレ又ハ起工セラレ居ラザルコトヲ通告スルノ光榮ヲ有ス(之ニ續キテ前表ト同様ノ表入ル)

(甲) 一、龍骨据附ノ日
二、艦船ノ艦種別
三、トン及メートル式トニ依ル基準排水量及主要寸法即チ水線全長、水線ニ於ケル又ハ水線下ノ最大幅員、基準排水量ニ於ケル平均吃水

四、最大備砲ノ口径

(乙) 一、既ニ與ヘラレタル情報ニ影響ヲ及ホス變更

二、竣工ノ日

三、機械ノ型式

「ロベール」各國ハ夫々自國本位ノ立場ニテ議論スル傾向アリ「バリティ」ハ太平洋ニテハ兎モ角之ヲ歐洲ニ適用セン
カ或國ハ必要以上ノ兵力ヲ有スルコトト爲リ其ノ結果他ヲ脅威スルコトト爲リ日本案ノ目的ト反対ノ結果ヲ生スヘシ
他日本案ハ
スヘシ
他ヲ脅威

永野全權事情ヲ異ニスルニ從ヒ各種ノ困難アルハ承知シ居レリ之日本カ最初太平洋組ニ於テ協定セントスル意図ヲ有シ
タル所以ナルカ之ニ反対ヲ唱フルモノアリタルニ依リ「バリティ」ノ原則ハ各國ニ及フコトシタルモノニシテ右原則
ノ下ニ各國カ互ニ協議スル事ハ固ヨリ差支ナシ

「ロベール」御説明ノ通トスレハ日英米カ例ヘハ五、佛伊獨カ例ヘハ三ト云フ結果トナリ結局比率トナラスヤ
日本案ハ
比率トナ
ラスヤ

永野全權兎ニ角「バリティ」ハ理論トシテ間違ナシ各國ハ自國ニ必要ナル程度ノ軍備ヲ保有スル權利アリ唯其ノ權利ノ
全部ヲ使用スルカ否カハ夫々ノ勝手ナリ吾人ハ權利ヲ主張シ居ルモノニシテ之ヲ使用スルカ否カハ別問題ナリ

「ロベール」然ラハ右日本ノ主張ハ佛國案中ニ折込ミ得ヘシ

永野全權「バリティ」ヲ主張スル點ニ於テハ日佛同様ナルモ佛國案ハ現有兵力ヲ處置シ速ニ不脅威不侵略ヲ實現シ人民
ノ負擔ヲ輕減スルモノニハ非スト思考ス

日本案ト
永野全權「バリティ」假ニ日本案カ採用セラレタリトシ米國ハ其ノ場合日本ノ現有勢力以下ノ程度ニ縮減スヘシト思考スルヤ

要スルニ日佛ハ「バリティ」ノ原則ヲ主張スル點ニ於テ一致スルモ右實現ノ方法ニ付意見ヲ異ニスルモノト解シテ可
ナルヤ
佛ハ右等
原則ヲ認
メス

「ロベール」否、佛ハ歐洲ニ危險アルニ依リ均等ノ原則ヲ認ムル能ハス又凡ソ安全ノ爲ノ國防ノ必要ハ國ニ依リ異ナルカ
故ニ之ニ要スル兵力モ亦同一ナラス而シテ國防ノ必要ハ地理的地位、殖民地、國民ノ分布等各種ノ要素ニ依リ相違スル
モノニシテ之ヲ同一視スルハ論理的ニ非ス

兵力ノ平 永野全權 然ラハ國ニ依リ兵力ニ差等アリトスレハ大小兩軍カ對抗セル場合小ナル兵力ヲ有スル國ハ安全ノ平等ヲ享受セ
ニ非スヤ

サルヘシ從テ右兵力ノ差等ハ安全ノ平等ヲ破ラサル範圍ニ止マラサルヘカラス
ノ平等安全
共通最大限ヲ歐洲ニ
限ヲ困難
ケル困難
ハ了解ス

「ロベール」大國カ若シ侵略シ得ル兵力ヲ有スルセハ右ハ該兵力カ同國ノ國防ノ必要ニ嚴格ニ相應シ居ラサルカ爲ナリ日本案ハ兵力ノ平等ヲ要スルモノニ非シテ實ハ一國ノ兵力カ同國ノ國防上ノ必要ニ嚴格ニ適應スヘキ事ヲ主張スルモノニ非スヤ

永野全權 日本ハ決戰場 (decisive battle point)ニ集メ得ル兵力カ互ニ甲乙ナキコト即チ攻撃ヲ加フル者カ常ニ力足ラサル如キ地位ニ置カルル事ヲ要求スルモノナリ

「ロベール」假ニ日本案ヲ歐洲ニ適用セシメンニ佛獨ノ間ニハ責任ニ相違アリ獨國ハ殖民地ヲ有セス北海ノミニ面スルモ
佛國ハ殖民地ヲ有スル外地地中海及大西洋ニ面シ且兩洋間ノ兵力ノ移動ハ時ニ不可能トナル虞アリ然ルニ拘ラス佛獨ノ兵力ハ平等タルヘキヤ又華府條約ハ伊國ニ「バリティ」ヲ與ヘタル爲佛國ノ立場ヲ困難ナラシメタルカ右ハ佛伊ノ責任ヲ平等ト見做シタルモノナリヤ又佛國ハ獨伊ノ聯合ニモ備ヘサルヘカラス
兎ニ角共通最大限ノ他國ヘノ適用カ困難ナル事態ヲ生スルコトアルハ御了解アリタルコトト思考ス
凡ソ會議ニ於テ自國ノ案ヲ全體的ニ貫徹スルコトハ御互ニ不可能ナルニ付一ノ妥協案ヲ作成シタル次第ナリ依テ如何ナル「サゼッショソ」ニテモ歡迎ス

永野全權 歐洲ニ困難ナル事情アルコトハ承知シ居ルニ付最初ハ歐洲ノ事ニハ口ヲ喙マサル積ナリシナリ何レニスルモ今
次會議非參加國ニ迄「バリティ」ヲ容認セントスルモノニハ非ス云々

第三款 第一委員會第九回會議ニ於ケル佛伊案討議 (一月八日)

一、第一委員會第九回會議ハ一月八日午後三時十五分開會「建艦ニ關スル情報交換問題ニ對スル英佛伊三國案ノ討議」ヲ
議事日程ニ掲ケ議長ハ直ニ佛國案ノ討議ニ入ラントセルニ付我方ハ量的問題ヲ離レサランコトヲ要求シ種々論議ノ未議
長ハ我方意見ヲ丁承シ佛國全權ニ發言ヲ促シタリ (以上ノ經緯ニ付テハ本章第二節第一款參照)

明案ノ說 二、佛國全權「ローベール」ハ佛國案ヲ嚴格ナル條文ノ形トセサリシハ先ツ諸原則ニ付合意ニ達スルヲ要スト考ヘタル爲ニシテ要スルニ一ノ妥協案ナリト述ヘタル上佛案中國ニ依リ宣言ノ期間ヲ異ニスル點ニ關スル前回英國側ノ質問（第六章第四節四、參照）ニ答フヘシトテ宣言ノ期間ニ付テハ各國ハ何等不平等ナル義務ヲ負フモノニ非ス或ル國カ安全ト認ムル場合ニ長期間ニ付宣言シ得ルモノニシテ全ク其ノ自由ナリ之ニ反シ年次建艦計畫ノ公表ハ各國ニトリ義務的トセリ而シテ不意討（surprise）ハ軍擴ノ原因トモ爲リ最モ避クヘキカ故ニ起工ノ一定期間前ニ要目ヲ通報スルコトシタリ英伊兩國モ同様ノ提議ヲ爲シタリ而シテ佛トシテハ新艦建造ニ當リテハ能フ限リ多クノ要目ヲ公表スルニ贊成ナリ

佛國案第四項ニハ豫告ニ付規定セリ右ハ宣言後ノ意見交換ヲ可能ナラシムルモノナルモ事前協議ヲ妨ケサルハ勿論ニシテ之等協議ハ外交機關ヲ通シテ爲サルヘシ尙保障的規定ヲ設ケタルモ一年ノ建艦計畫カ一國ノ安全ヲ脅ス如キコトハ無カルヘキニ依リ右規定ノ援用ハ例外的タルヘシ而シテ新建造ノ通報ト其ノ起工トノ間に六ヶ月ノ期間ヲ設ケタルハ各國ニトリ貴重ナル保障タルヘシ第六項ニ規定セル「變更」ハ之ニ依リ最初ノ計畫ヲ縮減スルコトト爲ル場合ヲ生シ得ヘキコトハ望ナキニ非スト說明シ三、次テ伊國（「ビシア」）ハ同國提案ノ説明トシテ伊國案第一條及第二條ハ海軍競争ヲ避ケントノ各國ノ願望ニ依リ軍備制限ノ行ハルルコトヲ表示シ第三條ハ伊國案ヲシテ各國ノ立法上ノ要求ニ適應シ得セシムルニ在リ第四條ノ表ハ假ノモノナリ尙艦船要目ノ通報後一定期間（吾人ハ六ヶ月ヲ適當ト認ム）經過後ニ非サレハ起工シ得ストスルコト可能ナルヘシト思考ス

尙伊國案ニ依レハ（一）建艦計畫ヲ毎年變更シ得ルカ故ニ政情ノ急激ナル變轉ト技術ノ不斷ノ發達トニ應シ得ヘク（二）又伊國案ハ困難ナクシテ全海軍國ニ擴充セラレ得ヘシト説明セリ四、次ニ永野全權ハ吾人ハ量的問題ノ決定前他ノ討議ニ移ルコトハ反對ナルニ依リ情報交換ニ付テハ何等意見ヲ述ヘス全部ヲ他日ニ留保スルモノナルカ佛伊案中量的制限ノ目的ヨリ出發セル建艦計畫宣言ニ關スル部分ニ付テノミ意見ヲ開陳セントスルヤニ見受ケラルルモ右ハ各國ニ平等ノ安全ヲ與ヘントスル根本原則ニ關スル考慮充分ナラサルモノナリト認ム

スヘシ兎ニ角量的制限確定前他ノ討議ニ入ル能ハサルハ日本全權ノ信念ナルニ付將來ノ「アジェンダ」作成ニ關シテハ方ノ態度此ノ點豫メ御承知置ヲ乞フト述ヘタル上

（一）佛國案ニ對シテハ同案カ慎重ナル考慮ノ下ニ作成セラレタルコトヲ充分了解スルモ同案ハ（イ）現在ノ兵力關係ヲ調

節スルニ適當ナル方法ト認メ難ク（ロ）軍縮ノ實ヲ舉タルコトニ付考慮充分ナラス（ハ）建造競争ヲ有效ニ防止スルコト

困難ナリ等ノ諸點アル爲實質的ニ效果アル量的制限ノ協定ヲ實現シ得ス尙建艦量ノ制限ヲ主トシテ經濟的ノ拘束ニ委

セントスルヤニ見受ケラルルモ右ハ各國ニ平等ノ安全ヲ與ヘントスル根本原則ニ關スル考慮充分ナラサルモノナリト認ム

（二）伊國案モ慎重考慮シテ作成セラレタルハ吾人ノ了解スル所ニシテ殊ニ其ノ第一條ニ於テ各國海軍備自主權ノ承認ヲ明ニシタルハ大ニ賛成スル所ナルモ佛國案ニ付述ヘタルト略々同様ノ理由即チ現在兵力ノ相對關係ノ調節、軍縮ノ實現、建艦競争ノ防止ノ三點ニ付テ適切ナラスト認メラルニ依リ同意シ得サルヲ遺憾トスト述ヘ

五、新西蘭ハ日本ハ建艦計畫宣言ノ討議ニハ異議ナキ處右宣言ハ即チ情報ノ交換ニ非スヤ日本カ後者ノ討議ニ反對スルハ了解シ難シト述ヘタル上國際政局ノ現狀ニ於テハ長期ニ亘ル協定ハ不可能ニ付毎年ノ建艦宣言ヲ以テ滿足スルノ外ナシトテ佛伊案支持ヲ表明更ニ共通最大限ノ方式モ相互ノ信賴ニ基ク充分ナル情報ノ交換ナクシテハ活用セラレサルカ故ニ右情報交換案ハ結局日本案ヲ補足スルモノナラスヤト述ヘ其ノ他ニ發言スルモノナク十日午後再開ノコトシテ散會セリ

第四款 日伊會議（一月十三日）

一月十三日伊國全權代理「ビシア」少將ハ隨員「マルゴチニ」中佐ヲ帶同帝國全權宿舎ニ永野全權ヲ來訪（岩下同席）前顯伊國提案ニ付説明シ我方ノ了解ヲ求メタルカ會談要旨左ノ如シ

「ビシア」伊國現在ノ困難ナル立場ニ日本カ同情的態度ヲ持セラルハ大ニ感謝スル所ニシテ將來共此ノ態度ヲ持續セラ

伊提案ノ
説明
佛伊案中
量的制限
ノ部分ニ
對スル我

伊國側ハ日本ノ「ブレスティージ」ノ問題ニ付テハ其ノ立場ニ同情ス共通最大限ノ主義ハ「ブレスティージ」ト安トノ平等ヲ目的トスル點ニ於テハ伊國案ト同様ナルモ他國カ共通最大限ト安全ノ平等トハ兩立セストテ反對セラルヲ以テ日本案ノ受諾ヲ得ルコトハ不可能ナリト考フ又伊國トシテモ共通最大限ハ佛伊間ノ均等問題ヲ再燃セシムルニ至ル所ニ困難アリ佛伊間ニハ兩國ノ均等問題ニハ一切觸レサルコトニ約定セル次第ニ付此ノ點可然諒解ヲ得度シ

永野全權 伊國カ本會議ニ於テ述ヘラレタル軍縮ニ關スル考ハ華府會議ニ於テ伊國全權ノ主張セル所ト同様ナレハ自分トシテハ伊國側ノ考カ日本側ノ考ト大ナル差異ナキコトハ良ク了解シ

「ビシア」 貴方カ伊國側ノ立場ヲ良ク了解セラレタルコトヲ多トスルモ日本案ハ調節ノ結果比率主義ニ還ルコトハラサルヤ

永野全權 日本カ最モ重要視スルハ攻撃力ヲ均等ニスルコトニ在リ防禦力ニ於テハ可然調節ヲ爲ス意思ナルモ我方研究ノ結果ニ從ヘハ大ナル調節ハ要セサル見込ナリ攻撃力ヲ均等ト爲セハ其ノ結果安全ノ平等ハ實現スヘント信ス

「ビシア」 調節ノ問題ハ之ニ關聯シテ前述セル佛伊均等問題ニ觸ルルコト爲リ我方ノ困難トスル所ナリ伊國ハ地中海ニ於ケル地位ヨリシテ他ノ歐洲國ヨリモ大ナル海軍力ヲ必要トスト認ムルモ國際親善ヲ重ンシテ歐洲國ノ最大海軍トノ均等ヲ主張スルニ止メタル次第ナリ

永野全權 言ハル所ハ良ク了解セリ

「ビシア」 伊國ハ一方ニ於テ「ブレスティージ」ト安全ノ平等ヲ失ハサル様セサルヘカラスト考フルト共ニ他方ニ於テ佛國トノ約束ニ鑑ミ均等ノ問題ヲ避ケサルヘカラス又同時ニ之以上英國ノ感情ヲ害スルハ不得策トスル困難ナル立場ニ在リ之等諸點ヲ考慮シテ伊國案ハ作製セラレタルモノナリ伊國案ノ骨子タル各國ノ軍備ニ關スル平等ナル自由ハ佛國ノ立場ヨリ寧ロ日本ノ立場ヲ考ヘテ特ニ條約ニ入レタリ佛國ハ獨國ノ平等ノ主張ヲ惧レテ此ノ點ニハ寧ロ反對ナラン

日本ハ伊國案ヲ受諾スルモ本會議ヨリ脱退スルモ其ノ軍備ニ對シテ得ル自由ハ同一ナリ故ニ會議ヲ脱退シテ其ノ責任ヲ負ハシヨリ寧ロ伊國案ヲ受諾セラルルヲ有利トセスヤ
永野全權 我方トシテハ將來ノ建艦競争ヨリハ日本ノ現在ノ不合理ナル兵力關係ヲ成ルヘク速ニ是正スルコトヲ第一ニ考ヘ居ルモノニシテ如何ナル建艦ヲ爲スヤハ其ノ次ニ來ル問題ナリ
會議カ愈々終期ニ達シタル際ハ日本トシテハ成ルヘク穩カニ片付ケ度シト考ヘ居ル處右ノ場合伊國側ハ如何ナル態度ヲ執ラルヘキヤ日本案ヲ簡單ニ拒否スルヤ或ハ相當ノ評論ヲ爲サルヘキヤ

「ビシア」 現在ノ兵力關係ヲ先ツは正スルヲ重要視シ建艦ハ次ニ來ル問題ナリトセラル點ニ付テハ伊國トシテモ同様ニシテ華府條約ノ拘束ヨリ脱却シ度ク思フ故比率ヨリ離レ度シ然レトモ將來ノ建造ニ依ラスンハ如何ニシテ現在ノ兵力關係ヲ是正シ得ルヤ

永野全權 一國ノ國防ハ國民精神ニ重大ナル關係アリ條約ニ依リ劣勢ヲ押付ケラルルトキハ國家ニ迄差等ヲ附スルカ如キ觀念ヲ與ヘ國民精神ヲ汚瀆スルモノナリ

「ビシア」 日本ノ成ルヘク早ク均等ニ達シ度キ希望ハ良ク了解セリ又日本案カ實際ニ適用出來レハ最善ノ方法ナルヘシ然レトモ日本案ニ反對スル國ハ經濟力大ニシテ而モ責任、領地等ノ大ナルノ故ヲ以テ優勢兵力ヲ主張スル以上日本案ノ受諾セラルル可能性無カラ
會議ノ終末ニ於ケル態度ハ出來得ル丈ヶ穩カニ日本案ニ同意シ兼ヌル理由ヲ述フル心算ナリ又昨日佛國側トノ懇談ノ結果ニ依レハ佛國側モ同様ノ態度ヲ執ルヘキ由ナリ英國トシテモ勿論出來ル丈ヶ穩カニ片付ケ度キ意嚮ナリト思ハル故疑問トシテ殘ル所ハ米國ノミナリト考フ

岩下少將 伊國ハ日本ハ本會議ヲ脱退スルモ伊國案ヲ受諾スルモ軍備ニ關シテ得ル自由ハ同等ナリト言ハレタルモ右ニハ相異アリト考フ日本ハ軍備ニ關シ完全ナル自由ヲ得ルニ非サレハ現在感シツツアル國防ノ不安ヲ除キ得スト考ヘ居ルモ

「ビシア」 束縛トハ協議ノコトト思フカ其ノ點ニ付テハ佛國側トモ相談シテ協議ニ闘スル條項ハ削除スルコトニ合意成立
ノナルカ貴案ニ依レハ或ル程度ノ束縛ヲ受クルコトナリ絶對的自由ヲ得ルコト能ハス
セリ云々

第一節 帝國全權力量的制限問題先議要求

第一卷 第一季員會第六回會議（一月六日）

行題討議續
帝國全權
要求
一、議長ヨリ前顯英佛伊三案ニ付討議スヘキ處右三案ハ何レモ建艦ニ關スル情報交換ヲ目的トスル點ニ於テ一致シ居ルニ付之カ調和ハ困難ナラサルヘシト述ヘ佛國全權ノ提案ノ説明ヲ促シタルニ付

、議長ヨリ前顯英佛伊三案ニ付討議スヘキ處右三案ハ何レモ建艦ニ關スル情報交換ヲ目的トスル點ニ於テ一致シ居ルニ付之カ調和ハ困難ナラサルヘント述ヘ佛國全權ニ提案ノ説明ヲ促シタルニ付
永野全權ハ本日ノ「アジョンダ」ニハ「建艦ニ關スル情報交換問題ニ對スル三國案ノ討議」(附屬書第九號)トアルモ右ハ從來論議シ來リタル量問題ヲ去ルコト遠シ日本全權ハ實ニ量的制限問題ヲ以テ軍縮會議諸問題中最モ重要ニシテ各國ノ安否ニ至大無比ノ關係ヲ有シ各國軍備ヲ定ムル根本的基本的要件ニシテ軍縮協定ヲ爲ス爲ニハ此ノ根本的要素ヲ決定シ茲ニ不脅威不侵略ヲ實現スル基礎ヲ確立スルヲ必須ノ要件ナリト確信シ居ルコトハ我方ノ屢々説明シタル所ニシテ此ノ根本的基礎ノ確立セサル以前ニ於テ全般的協定ノ成立シタル際之ニ附隨シテ協定セラルヘキ建艦通報ニ付之カ調和ハ困難ナラサルヘント述ヘ佛國全權ニ付討議スヘキ處右三案ハ何レモ建艦ニ關スル情報交換ヲ目的トスル點ニ於テ一致シ居ルニ付
佛國案伊國案ハ何レモ其ノ大部ハ建艦通報ニ關スルモノト認メラレ又昨日配布セラレタル英國案モ純然タル建艦通報ニ關スルモノナルヲ以テ之等ノ點ニ關シテハ前述セル如ク未タ討議ノ時機ニ非スト認ム之等三案ハ量的問題決定ノ後ニ討議セラルルコトヲ希望ス但シ佛伊兩案中量的制限ノ目的ヨリ出發セル建艦計畫宣言ニ關スル部分ニ付テハ量的制限問題

ト説メ後刻我方ノ意見ヲ開陳スルエトトスヘシト述ヘタル處

議長「モンセル」ハ會議ノ當初ヨリ吾人ノ目的ハ何等ノ決定ニ至ルニ先立チ各方面ヨリ軍備制限ノ一切人可前督レ校詩スルニ在リタリ吾人ハ日英案ヲ討議シ今ヤ英國案ノ修正タル佛國案ヲ検討シツツアリ而シテ佛伊案ハ量的制限ヲ含ムモノナリ吾人ハ日本案討議ニ多大ノ時日ヲ藉セリ吾人ハ日本カ佛伊案ノ討議ヲ許サンコトヲ希望スト述ヘタル上日本側ノ討議延期ノ提案ニ對シ各國ノ意見ヲ問ヒ度シト云フヤ

米國全權「デーヴィス」ハ英佛伊三案ハ共通點多シ佛伊案ハ英案ノ修正案又ハ代案トシテ提出セラレタルモノト了解ス而シテ米國ハ質量兩方面ニ於テ協定ニ達スルノ望ヲ未タ有スルモノナルカ新協定中ニ必ス合マルヘキ建艦計畫並ニ現實ノ建艦ニ關スル通報及情報交換ニ付テモ協定成立ヲ希望スルカ故ニ右ニ付討議ヲ繼續スルノ用意アリト述ヘ之ニ對シ議長ハ本問題ヲ以テ量的制限問題討議ノ繼續ト認メラルルモノト思フト訊ネ「デーヴィス」其ノ通ナリト答ヘ次テ

（註）カ奈子郎、三木、白川、ミタケの行
佛「ローベール」ハ量的制限ニ關聯セル、一切ノ提案ニ付討議ヲ盡スヘシトノ議長ノ意見ニ全然同感ナリ而シテ日本側ノ指
摘セル如ク佛國案ハ情報交換ト量的制限ノ問題ヲ含ム處兩者ハ之ヲ分離シ難シト云ヒ
印度愛蘭亦討議續行ヲ希望スル旨述ヘタリ

（情帝國全權問題ニ交換シ意見留保議長日本見意見ヲテ「ノート」ノ一ト）
第三款參照）
議長ハ日本ノ意見ヲ「テーク、ノート」セリト述ヘタル上佛伊案ノ討議ニ入リタルカ（討議ノ經過ニ付テハ本章第一節
新西蘭及南阿夫々討議續行ニ贊シタル處
仍テ永野全權ハ再ヒ前言ヲ繰返シタル上情報交換ニ付テハ量ノ問題カ決定スル迄ハ意見ヲ述フル能ハスト云ヒ

前款所述ノ如ク量的問題先議ニ關スル我方ノ強硬ナル態度ニ依リ會議ノ情勢逼迫セル處同夜（一月八日）「クレーザー」ハ翌九日日英會談開催方申越セルニ付我方之ヲ應諾シ九日午後兩全權外務省ヲ往訪「イードゥン」、「モンセル」、「チャトフ

「ールド」、「クレーザー」ト會議シタルカ其ノ要旨左ノ如シ

第二款 日英第四回會談（一月九日）

前款所述ノ如ク量的問題先議ニ關スル我方ノ強硬ナル態度ニ依リ會議ノ情勢逼迫セル處同夜（一月八日）「クレーザー」ハ翌九日日英會談開催方申越セルニ付我方之ヲ應諾シ九日午後兩全權外務省ヲ往訪「イードゥン」、「モンセル」、「チャトフ

「ールド」、「クレーザー」ト會議シタルカ其ノ要旨左ノ如シ

トノ意ナリヤト問ヘルニ付

永野全權ハ量的問題ヨリ離ルルニ反對ナリト答ヘ永井全權ヨリ委員會ハ英國側ノ原案又ハ通報案ノ何レヲ審議スルモノナリヤ昨日ノ文書配付振ニテハ明ナラスト訊ネタルニ「モンセル」ハ勿論原案ヲ審議スルモノナリ目下委員會ニハ日本案、英國案、佛修正案ノ三案提議セラレ居ル處之等三案ノ討議ニ還ルトセハ之カ決ヲ取ルヲ要スル時期早々來ルヘク右ハ日本ノ希望スル所ナリヤト問ヒ永野全權ハ然リ貴方ノ御都合ヨキ最モ早キ時期ニト答ヘ永井全權ハ但シ量ニ闘シ上記三案以外他ニ何等新提案ナキコト明ト爲リタル上ノコトナリト補足ス

二、「モンセル」ハ他ニ新案モナク日本案ハ最初ニ提案サレタル關係上第一ニ之ヲ決定セサルヘカラサル處若シ日本案カ否決セラレタリセハ日本ハ尙會議ニ殘留シ他ノ二案ノ討議ニ參加シ得ルヤト問ヒ

永野全權ヨリ右ノ場合ハ他ノ二案ニ贊成シ得ナル理由ヲ明ニスヘシト述ヘ永井全權ハ會議ニ殘留シ得ルヤニ付テハ請訓ヲ要スルコトナラント述ヘ永野全權ハ重ネテ我方トシテハ量的問題未決ノ間ハ潛水艦使用制限問題ヲ除キ他ノ問題ニ入ルコト不可能ナル旨答フ

之ニ對シ「イードゥン」ヨリ共通最大限問題ノ決ヲ採ルコトナク討議セハ續イテ潛水艦ノ問題ヲ討議シ得ルヤト問ヘルニ

付永野全權ハ然リト答ヘ「モンセル」ハ共通最大限カ否決セラルレハ通報問題ノ討議出來サルヤト問ヒ永井全權ハ右ノ場合ハ會議ヨリ脱退ノ外ナカラント答フ

三、「モンセル」ハ現在日本カ會議ヨリ脱退シタル場合ニハ四國丈ケニテ質的制限通報問題等討議ノ爲會議ヲ續行スヘシトノ示唆アリ其ノ場合日本ハ「オブザーヴァ」トシテ残リ得ルヤト云ヒ永野全權ヨリ右ハ訓令ノ範圍外ナリト答ヘタル處「イードゥン」ハ残リ得ルトスレハ非常ニ好都合ナルニ付貴國政府ニ「オブザーヴァ」トシテ残リ得ル様請訓セラルル様願度シト云フ

四、「チャトフールド」ハ質的制限ニ付テハ英國側ハ日本ハ強キ味方ト考ヘ居タリ日本カ會議脱退後質的制限カ日英ニトリ不利ナル結果ト爲ル可能性ヲ考ヘラレ度シ若シ「オブザーヴァ」トシテモ残ラルレハ場合ニ依リ相談對手ト爲リ好都合ナリト云ヒ「モンセル」亦若シ米國カ四萬五千噸戰艦ヲ建造スレハ日本モ之ニ倣フヲ要スヘク質的制限ハ經濟上ヨリスルモ日本ニ有利ナラスヤ日本ハ量的ノ希望ハ達セサルモ此ノ際ハ質的制限ニ止ムルコトニ再考セラルルヲ熱望スト云ヘルニ付

永野全權ハ量ノ制限カ満足ニ解決スレハ質ニ付テハ十分英國ト協力シ度キ考ナリシモ會議ノ情勢上然カ行カサル虞アルハ遺憾ナリ質ニ關スル日英ノ意見ニハ大ナル懸隔ナシト考ヘ居タリト述ヘ尙

五、續イテ永野全權ヨリ會議ニ於ケル英國ノ日本ニ對スル好意ヲ謝シ議長ノ會議進行上ノ心勞ニ同情シ議場ニ於テ種々異見ヲ申立ツルハ兩國ノ方針カ異ナル爲ニテ止ムヲ得ス

共通最大限ハ元來日英米三國ニ適用シ度キ積リナリシモ會議ノ情勢上理論ヲ一貫セシムル要ヲ生シタル爲佛伊ニモ適用セサルヲ得サルニ至リタルハ大ニ遺憾トスル所ナリ

英國ノ立場ニ付テハ同情ヲ表スルモノニテ均等ノ原則ヲ堅持スルニハ變リナク又攻擊的兵力ノ増加ハ認メサルモ防禦的兵力ニ付テハ相當ノ好意ヲ表スル積リナリキ

日本ハ現比率維持ヲ目途トスル協定ニ參加シ倫敦會議ノ結果生シタル惡影響ノ轍ヲ踏ムヲ欲セス又一九三〇年米國上院ニ於ケル倫敦會議報告中海軍當局ハ倫敦條約比率ヲ以テスレハ米國海軍ハ日本近海ニ進出シテ之ヲ屈服セシムルコト可能ナリト述ヘタルハ日本ニ大ナル衝撃ヲ與ヘタル所ナリト述

六、「モンセル」ハ比率ニ關スル日本ノ困難ナル立場ハ同情スル故英國トシテハ之ヨリ脱離セント努メツツアリ而シテ既ニ其ノ效果表ハレ居ルヤニ認ム比率問題ハ別トシテ質的縮減ハ日本ニトリテモ有利ナラスヤト問ヒ
「チャトフーリド」亦無條約トナラハ結局日本ハ何時迄モ米國ニ追付ク能ハサルニ非セヤト云ヘルニ對シ
關スル英希望ノ

永野全權ハ質ノミ制限スルトキハ結局現在ノ兵力關係ヲ維持スルコト爲リ劣勢ヲ押付ケラルコトハ國防ト大ナル關係アル國民精神ヲ汚濁スルコト爲ルト答ヘ永井全權ハ日本國民カ共通最大限設定ヲ如何ニ熱心ニ要望セルカハ御承知ノコトト思フト附言ス之ニ對シ「チャトフーリド」及「クレーギー」ヨリ質ノミノ制限ハ現在ノ兵力關係維持ト爲ルトノ點了解シ得スト述ヘ更ニ「チャトフーリド」ハ日本ハ比率廢止ニ依リ極メテ有利ナル立場ニ在ルニ至レリ何故艦型縮小ニ依リ更ニ有利ナル立場ヲ獲得セサルヤト云ヘルニ付

永野全權ハ主力艦ハ現在各國共現代化サレ居ルヲ以テ之ヨリ小ナル新艦ハ其ノ勢力舊艦ニ及ハス故ニ新艦建造ニ依リ勢力ノ相對關係ヲ當分改善シ得スト答ヘタリ

七、「イードゥン」ヨリ會議ヨリ日本カ脱退スレハ政治的惡影響大ナルヘク此ノ點ハ日英間ノミナラス世界全般ニトリ憂フヘキコトトナルニ付充分考慮セラレ度ク尙本日ノ會議ニ付テハ他國ノ全權トモ談合ノ要アリ次回ノ委員會ハ十三日午後迄繰延ヘ度シ（其ノ後英國側ノ都合ニヨリ十四日午前十一時開會ノコトニ變更セラレ更ニ十三日日英會議ノ結果十五日ニ延期セラル）ト云ヒ永野全權ハ日英ノ歴史的友好關係ハ日本ノ大ニ欣快トスル所ナルカ會議決裂ニ依リ之ニ惡結果ヲ及ホササル様互ニ努力致シ度シト述ヘ「イードゥン」勿論努力スルモ夫ヨリ大切ナルハ會議ヲ決裂セシメサルコトナリト云ヒ永野全權衷心ヨリ同感ナリト答ヘ會議ヲ終レリ

第八章 帝國ノ會議脱退ノ經緯

第一節 帝國政府ノ最後の態度決定

回訓

前述ノ如ク一月八日委員會ノ情勢頗ニ逼迫シ九日日英會議ニ於テハ我方カ量的問題ノ先議ヲ主張スルニ於テハ結局先ツ日本案ニ付採決ヲ行ヒ右否決ノ結果日本脱退スルモ四國ニテ會議ヲ續行シ日本側ヨリ「オブザーヴァー」ノ出席ヲ求メントスル英國側ノ意嚮ナルコト明ト爲リタルニ付全權部ニ於テハ情勢右ノ如ク進ムニ於テハ結局脱退ノ已ムナキニ至ルヘント認メ十日午後事情ヲ具シテ政府ニ請訓シタル處十二日政府ヨリ「帝國主張ヲ懇切ニ説明シ我方ノ軍縮ニ對スル誠意ヲ披瀝シ各國全權ノ再考ヲ促シ尙容レラレサル場合ニハ窮極ノ所脱退ハ已ムヲ得サルモ我方ヨリ日本案ノ採決ヲ強フルコトナク他方潛水艦使用制限問題其ノ他五國間ニ協定可能ナルモノ（我方トシテハ例ヘハ華府條約第十四條（商船ノ武装ニ關スル制限）第十七條（戰爭中他國ノ爲ニ建造中ノ軍艦使用禁止）第十八條（軍艦ノ處分方法ニ關スル約定）等ハ其ノ趣旨ヲ存續スルニ異議ナシ）ヲ取極メ尙關係國間ニ軍備競争ヲ爲サヌト云フカ如キ共同宣言ヲ爲シテ本會議ヲ終了セシムル様誘導シ爾餘ノ問題ハ帝國ノ參加セサル新タル會議ニ讓ルトノ形式ヲ採ラシムルヲ得策ト思考ス尙帝國ヲ除ク會議ニ「オブザーヴァー」ヲ出席セシムルコトハ差支ナシトノ趣旨ノ回訓ニ接シタリ（其ノ後一月十五日右「オブザーヴァー」出席方招請ニ對シテハ關係各國全部ノ希望アリ且第一委員會其ノ他重要ナル會議ニモ出席シ得ル場合ニハ之ニ應シ差支ヘナキ旨更ニ訓電アリタリ）

第二節 日英第五回會談（一月十二日）

全權部ハ十二日前記回訓ニ接シタルニ付右回訓ノ趣旨ニ依リ今後ノ會議ヲ進行セシムル様英國側ト交渉ノ爲會見ヲ申込ミ

一月十三日午後六時兩全權海軍省往訪「イードン」、「モンセル」、「チャトフード」、「クレギー」ト會談約二時間ニ及ヘルカ其ノ要旨左ノ如シ

一、先ツ兩全權ヨリ我方ノ考ハ潛水艦使用制限問題其ノ他五國間ニ協定可能ト認ムル問題ノ討議ヲ爲シ次テ日本案ノ再討議ヲ爲スコトニ在ルモ右再討議ノ場合之カ贊否ヲ決スルトキハ日本ノ脱退ト爲リ其ノ結果惡影響ヲ及ホスヘキヲ以テ我方説明後贊否ヲ決スルコトナク量的制限即チ日、英案ニ關シ五國協定不可能ナルヲ理由トシテ壽府三國會議ノ前例モアリ無期延期ノ形式ニテ本會議ヲ終止セシムルヲ有利ト認ムル旨述フルヤ

「モンセル」ハ前回貴方ニテ贊否ヲ決スルコトヲ希望セルニ非スマト言ヘルヲ以テ

永野全權ヨリ我方ハ其ノ後考慮ノ結果事態ヲ惡化セサル爲採決セサルヲ可ナリト考フルニ至リタル旨答ヘ尙永井全權ヨリモ日本脱退ニ關スル措置振ノ及ホシ得ヘキ影響ニ鑑ミ無期延期ヲ可トスル旨述ヘタル處

「イードン」ハ日本案拒否セラレタル後各國ニテ他ノ問題ノ討議ヲ希望スルモ日本ノ反對ニ依リ討議シ得サル次第ナリト答ヘ

「モンセル」ハ英側トシテハ潛水艦使用制限問題等ハ之ヲ最後トシ其ノ他ノ問題ノ討議ヲ繼續シタキ旨ヲ述ヘ我方申出ニ從フノ色無カリシヲ以テ

永野全權ハ我方カ量的制限ニ付満足ナル解決ヲ見サル場合他ノ問題ノ討議ニ入り得ス英國側ノ立場ヲ困難ナラシムルハ遺憾ナルモ致シ方ナキ旨ヲ述ヘタル處

「モンセル」ヨリ日本ノ脱退後四國ハ他ノ問題ヲ討議ノ意嚮ナルニ付我方「オブザーヴァー」參列ヲ希望スル旨述ヘ永野全權ハ日本脱退セハ五國會議ハ一應終了シ新ナル四國會議開催セラルモノト認メ「オブザーヴァー」參列可能ニシテ參

列員ハ追テ政府ニテ指定スヘキ旨ヲ答フ

質問題討議不能

二、次テ「チャトフード」ヨリ前回ノ日英會談ニ於テ量的制限満足ニ解決セサル場合質的制限ニ應シ得サル理由ト

シテ我方ノ述ヘタル所ヲ引用シ質的制限討議ノ際日本カ現存主力艦ヨリモ大型ノモノヲ主張シ得ヘキ旨ヲ述ヘタルニ對シ

三、「モンセル」ヨリ共通最大限ヲ設定スルトセハ責任大ナル國ニ満足ヲ與フル爲高キ限度ト爲スヲ要スト述ヘ

永野全權ハ右ハ軍縮精神ニ反スル故同意シ能ハサルモ英國側ニテ希望スル限度ヲ示セハ我方ニテモ充分考慮スヘキヲ述ヘ

永井全權ヨリ共通限度一度定マレハ質的制限ノ討議可能ニシテ且質的制限討議ノ結果右限度ヲ更ニ低下シ得ヘシト述ヘ

四、日本脱退後ノ會議ノ性質ニ關シ「モンセル」ハ華府條約ニ依ル會議ノ延長ニシテ尙獨蘇ノ參加モアルヘキ旨ヲ述ヘ

永井全權カ右ハ新ナル會議ト認ムヘク殊ニ獨蘇ノ參加ノ際然リト云ヘルニ對シ

各國亦本會議ヲ其ノ儘繼續スルノ希望ナル旨ヲ述フ

五、次テ「モンセル」ハ諸小國ハ艦型縮小ヲ希望シ質的制限協定成立スヘキモ日本參加セシテ異リタル艦型ヲ建造シタル際右諸國ハ協定ノ束縛ヲ解カルルコトヲ規定シ置ク要アル旨ヲ述フ

六、永井全權ハ英國側意見ハ日本ノ脱退前ニ潛水艦問題ノ討議ヲ爲シ得ストスル趣旨ナルコトヲ確メタル後我方ハ日本案ノ再討議ヲ急ク次第ニ非サルモ他國ニ量ニ關スル新提案ナキニ依リ日本案ニ還ルコトヲ希望スルニ過キス次回委員會ノ「プロシードニア」ハ永野全權ノ説明後他國全權意見ヲ述ヘ贊否ヲ明ニセスシテ日本ハ脱退スルコトスルヲ可ト認ムル旨ヲ述ヘ

日本不參
加ノ協定
ニ於ケル
措置
日本脱退
後ノ性質
ノ會議
ノ手續

次回委員
會ノ手續

「クレギー」之ニ同意ヲ表シ且次回ノ「プログラム」トシテ先ツ永野全權ノ説明ヲ聞キ次テ他國全權意見ヲ述ヘ其ノ後ハ通報問題ノ討議ヲ續行スルコトト爲ルヘシ日本ハ之ニ參加シ得サルヘキモ其ノ後潛水艦問題ノ討議ニ參加シ得サル

ヨリ單ナル如船道等問題ハ言議シ得ナルモ英國製船業者ニ言議ニハ或ハ参加可能ナルヘシト答ア
八、永野全權ヨリ潛水艦使用制限問題ハ我方ノ關スル限リ倫敦條約失效後モ尙有效ナル故必シモ只今新協定ヲ爲スコト
ヲ希望スルノ意ナキ旨ヲ述ヘタル處

ヲ希望スルノ意ナキ旨ヲ述へタル處

題

ノ日本脱退
ノ手續
九、永野全權ヨリ次ノ委員會ニ於テ同全權先ツ日本案ヲ説明シ續イテ他國全權ノ意見開陳終ラハ散會シ其ノ後日本ハ委員會ニ出席セサルコトト爲サントスルモノナリヤト問ヒ「モンセル」ハ日本ハ委員會ニ於テ脱退ノ旨ヲ述へスシテ會議ヲ

去リ然ル後脱退スヘキ旨書面ヲ以テ英國側ニ通知セラルルコト致シ度シト答ヘ

兩全權ヨリ日本獨り會議ヲ去ルコトハ輿論ニ惡影響ヲ與フヘキヲ以テ共同宣言ヲ爲シテ一應會議ヲ閉會シ新ナル會議ヲ開クコトスルノ可ナル旨ヲ縷々陳述シタルモ「モンセル」ハ其ノ不可能ナルコト及日本脱退後通報問題ハ直ニ協定ノ

見込アル旨ヲ述ヘタリ

案文ハ同手續
案ニ方言「ヨンヤハ」ノ御用語ハ勿同委員會ノ御用語ニ相變（附圖書第一（號））ヲ加露ハルガ右ノ中「前回委員會ニ於テ日本ハ共通最大限案最終討議ノ後ニ非サレハ建總通報問題討議ニ參加シ得サルコトヲ述ヘ其ノ後行ハレタル日

英會談ニ於テ日本側ハ速ニ共通最大限提案ノ討議ニ復歸シ同案ニ對スル各全權ノ決定的意見ヲ聞キタコトヲ述ヘタリ』ト在リシニ依リ永井全權ヨリ故ラニ我提案ノ再討議ヲ迫リタルニ非ス他ニ量的制限ニ關スル新提案無カリシニ依リ日本案ノ討議ニ還ルヘキコトヲ要求シタル旨追加セラレ度シト述ヘ

尙又「各國全權意見ヲ述へ終リタル後議長ハ日本案ヲ支持スルモノ無カリシコトヲ認ム(note)」トノ文句アリシニ付永井全權ヨリ右削除方要求セル處討議ノ結果ヲ著クルト共ニ米國側ニテ日本案ノ採決ヲ要求スルコトヲ防ク爲必要ナリト

テ何レモ同意セス

英ノ希望
三選退告文

一一、英國側ヨリ「オブザーバー」ハ文武官各一名トシ度キ希望ヲ申出テ次回委員會ヲ一應十五日午後ニ豫定シテ會見ノ員數アザ

三

第三節 第一委員會第十回會議 二於ケル日本案最終審議（一月十五日）

斯くて第一委員會第十回會議ハ一月十五日午後三時日本案ヲ議題トシテ開會セラレタルカ經過大要左ノ如シ
一、勝頭義長ヨリ前回會義ニ於ケル日本全權聲明ニ監ミ各國異存ナクハ日本案審議ニ立還リ日本側ノ説明ヲ聽クト其二各
謂帝國全權
日本案

國側モ決定的ナル意見ヲ腹藏ナク述フルコトトシ度シト述ヘ
先ツ永野全權ヨリ左ノ通述フ

本日再ヒ帝國提案審議ノ機會ヲ得タルコトハ余ノ欣快トスル所ナリ
(以下時間節約ノ爲通譯シテ代讀セシム)

緒
言

尚豫メ御了承ヲ得置キタヨ一
點ハ日本帝國ハ世界平和ヲ欲求スルコトニ於テ何國ニモ讓ルモノニ非ス其ノ信條トスル所ハ各國共ニ相互了解ノ下ニ友好關係ヲ最モ敦厚ニシ各國民ハ各自其ノ國家ノ安全ノ憂患ニ及ばざる事ニ平和ノ爲めニ各自ノ軍備ヲ削減シ各國間ニ平和ニ存する事ニ至ラ

命ヲ開拓シ人類ノ幸福ヲ期スルニ存スルコト之ナリ

故ニ軍縮協定ニ當リテハ戦争ノ脅威ヲ除去シ各國ニ齊シク國防ノ安全ヲ賦與スルコトヲ主眼トシ又之カ協定ノ方法ニ付テモ各國家間ニ差別アリトノ謬想ヲ誘致スルカ如キコトナキ案ヲ採用シ尙軍縮協定ハ最モ實際的ナルヲ要スト認ムルヲ以テ各國ニ於テ篤ト研究シ同情ヲ以テ検討セラルルニ於テハ必スヤ右案カ軍縮協定ノ基礎トシテ妥當ナルモノナルニ付此ノ點ニ付テモ最モ考慮ヲ拂ヒタリ

即チ日本案ハ以上ノ三點ニ付考慮ヲ加ヘタルモノニシテ公平ニシテ無理ナク且實際的ナル柔軟性ニ富メルモノト認ムルヲ以テ各國ニ於テ篤ト研究シ同情ヲ以テ検討セラルルニ於テハ必スヤ右案カ軍縮協定ノ基礎トシテ妥當ナルモノナルコトヲ容易ニ發見シ得ヘント信スルモノナリ

茲ニ日本案ノ審議ニ當リニ各國全權ニ於テ既存事實又ハ從來ノ經緯等ニ拘泥スルコト無ク新ニ最善ノ方策ヲ案出セントスルノ大決心ノ下ニ最モ同情アル態度ヲ以テ日本案ノ精神ノ存スル所ヲ了解シテ審議ヲ盡サレンコトヲ切望スルモノナリ

(二) 某國カ世界各方面ニ於ケル同時需要ヲ生スルコトアルヘキヲ豫想シテ多量兵力ヲ要求スルコトアリトセハ見様ニ依リテハ二國以上ニ對應スル兵力ヲ要求スルノ結果トモナリ一國對一國ノ關係ヲ基礎トシテ論スヘキ軍縮協定ヲ不可能ナラシムルモノト謂フヘシ

二國カ平等ノ立場ニ在リテ互ニ其ノ安全ヲ期シ得ル爲ノ海軍兵力ヲ協定セントセハ均等兵力主義ニ依ルヲ最モ合理的のトシテ此ノ外ニ公止ナル方途ナシ

大洋ヲ以テ相隔テ相互ノ國防カ專ラ海軍力ニ依存スル國家間ニ於ケル海軍協定ニ於テハ特ニ然リ

他面ニ於テ海軍兵力ノ移動性並ニ海上戰爭ノ特質ヨリ論スルモ國防ノ均衡ヲ得ル爲ニハ兵力ハ均等ナルヲ要ス艦隊兵力ノ骨幹トナルモノニ於テ特ニ然リ

此ノ見地ヨリ帝國提案ハ甲巡以上ヲ艦種別ニ各國均等トセリ

一般的見解
一國對一國ニ付論
斯ム巡制ノ下ト種類制ノ乙別上
甲巡以上
均等兵力
均等兵力
主義ナ合
理的トス

ニハ海軍兵力
考慮括約ス

然レトモ專ラ防禦ニ使用スヘキ艦種ハ各國ノ特殊ノ事情等ニ應シ適當ナル調節ヲ行フコト可然

此ノ見地ヨリ帝國提案ハ乙巡以下ヲ一括共通ノ總額數ニテ制限セリ

海軍兵力ハ隨時隨處ニ集散離合スルコト極メテ容易ニシテ且右ノ特性ハ將來益々大トナルノ傾向ヲ有スルハ論ヲ俟タス而シテ數個ノ海面ニ分散セル兵力ヲ用兵上ノ必要ニ應シ之ヲ所要ノ時所要ノ地ニ集中スルハ兵術上ノ原則ニシテ其ノ實行可能ナルコト特ニ其ノ集中カ一國ノ致命的地點ニ對シテ行ヒ得ルコトハ過去現在ヲ通シ幾多ノ事實ヲ以テ證明シ得ル所ナリ故ニ二國ノ海軍兵力ヲ論スルニハ苟クモ海上戰闘ニ參加シ得ル凡テノ艦艇ヲ一括シテ之ヲ比較スルカ最モ合理的ナルモノニシテ此ノ比較ニ於テ一國カ他國ニ比シ其ノ兵力量ニ於テ優勢ナル場合ニハ當然ノ歸結トシテ劣勢海軍國ハ國防ノ不安ヲ感シ優勢海軍國ハ自國ノ國防ノ安全ヲ超エテ他國ヲ侵略シ得ルノ可能性ヲ生ス

尙帝國ハ不脅威不侵略ヲ最モ徹底的ナラシムル爲攻擊的兵力ヲ全廢若ハ大縮減シ防禦的兵力ハ之ヲ國情ニ應シ整備シ得ル如ク爲サントスルモノナリ

即チ帝國ハ航空母艦ヲ全廢シ主力艦甲級巡洋艦ノ大縮減ヲ主張スルモノニシテ更ニ主力艦ハ一般的の同意ヲ條件トシテ各國ト共ニ之ヲ全廢スルノ用意ヲ有ス

右カ實現スレハ海軍兵力ノ他國ヲ脅威スル性質ハ殆ド除去セラルヘシ攻擊的兵力ノ全廢若ハ大縮減ハ之ニ依リ直接ニ一大軍縮ヲ實現シ得ルノミナラス之ニ由來スル安全感ノ増大ハ各國海軍ヲ縮減セシムルノ傾向ヲ必然的ニ生セシムヘキヲ以テ實ニ直接的ト同時ニ間接的ニモ軍備ヲ縮減スルノ效果ヲ有ス

(三) 日本案ニ付各國全權ノ記憶ヲ新ニスル爲茲ニ更ニ其ノ方式ノ骨子ヲ示セハ左ノ如クナルヘシ

(イ) 關係各國ノ海軍軍備ノ其ノ孰レモ超ユヘカラサル最大總額數ヲ定ム此ノ最大總額數ハ實際的ニ適當ノモノテアリ

(ロ) 右ト同時ニ攻撃的性能ヲ多分ニ有スト一般ニ認メラル主戦艦航空母艦(全廢ノ協定成ラサル場合)甲級巡洋艦而モ軍縮ノ精神ニ則リ出來ル丈低下セラルヘキハ勿論ナリ

日本案ノ骨子

(ハ) 各艦種毎ニ更ニ共通ノ最大保有隻數及噸數ヲ定ム

(ハ) 防禦的性能ヲ有スト認メラルル乙級巡洋艦以下ハ一括シ各國共通ノ合計噸數ヲ定ムニ止メ各國ヲシテ其ノ需要ニ應シ適當ノ艦種ヲ選ヒ其ノ適當量ヲ整備セシム

(二) 特殊ノ國情ニ依リ特ニ必要ト認ムル國ハ甲巡ノ保有量ヲ自フ減スルコトヲ得ヘシ
船即チ(ハ)ニ記載セラルル艦船ヲ増加スルコトヲ得ヘシ

(ハ) 右増減ノ方法ニ付テハ幾多ノ種類ヲ考慮シ得ヘキモ専ラ技術的審議ニ委スヘキモノトス
「ヴァルネラビリティー」ヲ填充シ得ヘシ

(ホ) 右諸項ニ定ムル範圍内ニ於テハ各國ハ其ノ自由意思ニ依リ海軍軍備ヲ整備シ得ルモノトス從テ日本案ノ下ニ於テモ各國建艦案宣言ノ如キ方式ヲモ採用包含セシメ得ヘキモノトス

(ヘ) 以上ノ如クスルモ尙修正ノ必要ヲ主張スル國アラハ各國間ニ之ヲ慎重ニ研究シ若シ適當ナル修正ノ必要アルヲ確認セラルニ於テハ此ノ修正ヲ否ムモノニ非スト雖モ元來吾人ノ主張ノ根本ハ屢々說明セル如ク先ツ不脅威不侵略ノ狀態ヲ確立スルニ在ルヲ以テ假令右ノ如キ修正ヲ許ストスルモ夫レハ各國ノ特殊事情ニ基ク純然タル防禦用ノモノニシテ決シテ折角確立セシ不脅威不侵略ノ狀態ヲ壞スカ如キ海洋戰鬪兵力ノ増加ヲ許スモノニ非サルコトハ我主張ノ根本方針ニ依リ當然トス

尙共通最大限ハ各國右限度迄建艦スヘシトノ謂ニ非サルコトハ屢次説明セル通ニシテ各國ハ其ノ國防上必要トスル最小限度ニ止マルヘキハ勿論ナリ之ニ對シテハ各國ノ誠意(「グッドウイル」)ト相互信賴トヲ要求スルモノニシテ之ナクシテハ軍縮條約ハ如何ナル形式ニ依ルヲ間ハス協定シ得サルコトハ本委員會モ之ヲ否定セサル所ト了解ス
他方ニ於テ帝國ノ主張スル如クシテ海軍兵力ノ他國ヲ脅威スル性質ヲ除去スレハ各國共大ナル建艦ヲ必要トセス又之

(四) 前述ノ基礎的觀念ニ基キ各國カ帝國提案ニ對シ述ヘラレタル所ヲ考察スルニ

太平洋ニ國スルノ故ヲ以テ同海面ニ於テ他國ト均勢ヲ要求スルト共ニ歐洲海面又ハ大西洋ニ可然兵力ノ控置ノ要ヲ説ク主張ハ結果ニ於テ多數國標準ノ海軍ヲ要求スルモノニシテ之軍縮協定トンテ不可能ナル所ニ基礎ヲ置クモノナリ故ニ飽ク迄右ノ主張ヲ固持スル國有ルトキハ協定ニ達シ得ル見込ナシ
又右ノ主張ハ海軍兵力ノ移動性大ナル特質ヨリ見テ不合理ナルコトハ屢次説明セル通ナリ

海外領土交通線ノ大ナルノ理由ヲ以テ沿岸警察用港灣防備用等ノ洋上戦闘力ナキ純防禦用小艦艇ヲ他國ヨリ多ク要スルコトアルヘキハ之ヲ了解シ得ルモノ同一理由ニ依リ海軍兵力全般ノ優勢ヲ要求スルハ他國ノ安全感ヲ脅威スルモノニシテ許容スヘキモノニ非ス且現在ノ均等兵力保有國ニ付テ見ルモ海外領土交通線ノ同一ナラサルハ周知ノ事實ナリ一部ノ局地ノ防禦ニ付テ屢々論セラルル處局地ト一國ノ中権タル本土トヲ同一地位ニ置キテ立論シ中権タル本土ニ脅威ヲ感スルニ至ル兵力ヲ主張セラルルハ我方ノ了解シ得サル所ナリ
海外領地殖民地及海上交通線ノ保護ハニ懸テ海ヲ制スルヤ否ヤニ在ルコトハ自明ノ理ナリ

他面ニ於テ海外領地殖民地ヲ有スル國ハ之等ノ各地ニ於テ根據地ト補給ノ便益ヲ有ス之海上交通線保護上測リ知ルヘカラサル利ヲ享有スルモノナルノミナラス其ノ海軍兵力ヲ所要ノ海面ニ集中移動スルヲ更ニ容易ナラシムルモノナリ
假ニ海ニ依存スル國家ハ大ナル海軍兵力ヲ必要トスルノ説ニ從ヘハ帝國ハ全然海ニ依存スルモノニシテ而モ國內資源豊富ナラス加フルニ人口ハ世界各國中最モ稠密ニシテ且生活及產業上ノ必需品ノ大部ヲ遠ク洋ヲ渡リテ他國ヨリ仰クモノナルコトニ特ニ留意ヲ得度ク此ノ點等シク其ノ必要物資ヲ海外ニ仰クトモ殆ント之ヲ自國領土内ニ求メ得ルトナル相異アリ更ニ國內資源豊富ニシテ概不自給自足シ得ル國ニ比スルニ格段ノ相異アリ此ノ見地ヨリスルモノ帝國ハヨ

結言

リ有利 (favourable) ナル地位ニ在ル國ヨリ劣勢比率ニテ可ナリト爲ス理由ヲ發見スルヲ得ス

(五) 結言トシテ帝國ハ飽ク迄海軍軍縮ノ全般的協定ノ成立ヲ希望スルモノナリ然レトモ又決シテ不可能ヲ強ヒントスルモノニ非ス

帝國ハ過去ノ軍縮ノ實績ニ鑑ミ又實情ニ照シ各般ノ方面ヨリ考察ノ結果帝國案ヲ案出シタルモノニシテ本案ヲ以テスレハ一般海軍軍縮ノ實現極メテ容易ナリトノ確信ヲ有スルモノナリ

一度帝國ノ根本主張採用セラレンカ他國提案ノ如キモ適當ニ修正ノ上ハ採用ノ途アルヘキナリ帝國案ハ窮屈ナル案ニモ非ス學究的案ニモ非ス柔軟性ニ富メル包容力大ナル實際的案ナリ

帝國委員ハ本案ヲ提出スルニ方リ各國ニトリ等シク好都合ニシテ各國ニ満足ヲ與ヘンコトノミヲ顧念シタリ而シテ世界一般狀勢力軍縮ノ成立ヲ緊急トスルニ依リ研究ニ研究ヲ重ネタル結果提出シタルモノナレハ各國全權ニ於テモ虛心坦懐更ニ精細ニ帝國案ヲ検討シ世界平和國民ノ福利増進ノ爲一層ノ考慮アランコトヲ望ムモノナリ云々

二、右ニ對シ議長ハ日本代表ノ説明ハ一部質的制限ニ觸レタルモ右ハ本日ノ討議ノ範圍外ナリト指摘シタル上各國ノ意見表明ヲ促シ

三、先ツ米國全權「デーヴィス」ハ日本案ニ依レハ日本ノ現有勢力以下ニ共通最大限ヲ設ケントスルモノナルニ付現在ノ優勢海軍國ハ多數艦船ヲ廢棄シ劣勢國ハ建艦ヲ許サルルコトト爲ル日本ハ「ヴァルネラビリティ」責任及必要ノ相違ヲ認メ共通最大限内ニ於テ少量ノ調節ヲ加ヘントスルモ右ハ「バリティ」ノ基礎ニ於ケル比率主義ノ繼續ニ外ナラス共通最大限案ハ安全ノ平等ハ兵力ノ平等ニ依ルコトヲ基礎トセルモ兩者ハ相容レサルコト是迄ノ論議ニ依リ既ニ明ナリ華府會議ニ於テ認メラレタル安全ノ平等ハ自國近海ニ於ケル防禦ノ優勢ヲ意味スル處右防禦ハ海軍兵力ノミニ依ルニ非スシテ陸空軍、要塞、他國トノ距離、交通線、海岸線ノ形狀、海外領土ノ重要性及其ノ距離、責任ノ大小等ニモ關係アリ從テ平等ノ安全ハ當然ニ兵力ノ不平等ヲ要求ス右要素ノ或物ハ之ヲ變ヘ得ルモ地理ハ變フル能ハス現在ノ相對的兵力關係ハ

反對ナル旨ヲ述ヘタル後

五、佛國全權「ロベール」ハ一般的ニ適用シ得サル如キ原則ヲ協定ノ基礎トスルハ不適當否不可能ナリトノ佛側意見ヲ變へ難シ各國ハ安全ニ必要ナル兵力ヲ自主的ニ決シ得サルヘカラストノ日本ノ主張ニハ贊成ナルモ安全ノ條件ハ國ニ依リ異ナルカ故ニ兵力亦異ナラサルヘカラス兵力ヲ平等トセンカ却テ脅威侵略ヲ招來スヘシ佛國提案ハ日本案ト同様從來ノ各國海軍ノ差別的取扱ヲ排セントスルモノニシテ佛國案ニ依リ日本案ト之ニ對スル反對論トノ間ノ妥協ノ基礎ヲ見出シ得ヘシ日本代表カ此ノ際本案討議ニ入ル能ハスト云フナラハ他ニ委員會ヲ設ケテ研究スルノ方法ニ依ルコトヲ得サルヤ吾人ハ日本代表カ引續キ他ノ重要問題討議ニ同意センコトヲ希望スト述ヘ

六、次ニ英國全權「チャトフィールド」ハ安全ニ必要ナル兵力ヲ保有スルハ各國ノ齊シク享有スル權利ナリトノ日本ノ主張ニハ全ク同意ナルモ日本案中

反對ナル旨ヲ述ヘタル後

佛ノ反對
（イ）接觸點ニ於ケル艦隊ノ平等ヲ必要トスルノ點ニ付テハ右兵力ハ單ニ艦船ノ數ニ依テ定マルニ非スシテ根據地トノ距離及交通線ノ「ヴァルネラビリティ」ヲモ考慮ニ入レサルヘカラス自國近海ニテ防禦スル場合ハ劣勢ヲ以テ足ルヘク
英ノ反對
（イ）接觸點ニ於ケル艦隊ノ平等ヲ必要トスルノ點ニ付テハ右兵力ハ單ニ艦船ノ數ニ依テ定マルニ非スシテ根據地トノ距
離及交通線ノ「ヴァルネラビリティ」ヲモ考慮ニ入レサルヘカラス自國近海ニテ防禦スル場合ハ劣勢ヲ以テ足ルヘク
空軍ノ發達ハ之ヲ助長スヘシ

尙本日日本全權ハ一般的ニ攻撃的又ハ防禦的ト認メラルル艦船アリト云ヒタルモ攻撃的防禦的ノ區別ノ問題ハ屢々論議セラレタルモノニシテ其ノ區別ハ全然實行不可能ナリ

(ロ) 兵力ノ計量ニ當リテハ艦船ノ移動性ニ鑑ミ平時何處ニ在ルヲ問ハス其ノ全兵力ヲ考慮スヘシトノ點ニ付テハ理論的ニ承服シ得サルノミナラス歴史的ニモ例ヘハ日露戰爭ハ本國根據地ヨリ遠距離ニテ作戰スル艦隊ノ大ナル「ハンディキャップ」ヲ示シ居レリ世界ニ亘リ責任ヲ有スル國ハ自國近海ニ全海軍ヲ維持シ得ル國ヨリモ餘分ノ兵力ヲ必要トス隔ノ地ニ屬領ヲ有スル國ハ緊急ノ場合本國ノ防禦ヲ忽セニスルコトナクシテ其ノ屬領ヲ保護スルニ必要ナル海軍力ヲ派遣シ得サルヘカラスカ爾場合全兵力ヲ派遣スルカ如キコトハ輿論モ之ヲ許ササル所ナリ

(ハ) 「ヴァルネラビリティ」ノ差異ノ主タル原因ハ兵力ヲ不平等ニ在リトノ議論ニ關シテハ上述セル所ニ依リ承服シ難ク又兵力ヲ平等ナラシメタル後日本側ノ示唆セル漠然タル方法ニ依リテ「ヴァルネラビリティ」ノ差異ヲ調節シ得ヘシトハ思考シ能ハス

(二) 共通最大限ハ日英米ノ外佛伊ニモ適用セラレ得ヘク且右限度ハ成ルヘク低ク出來得レハ日本現有勢力以下ニ設定スヘシトノ點ニ付テハ英國トシテハ歐洲ノ海面大西洋印度洋及太平洋ニ於ケル責任ヲ考慮セサルヘカラス一國海軍ノ必要ニハ相對的ナルト共ニ絕對的部分アル事ハ一般ノ認ムル所ナリ日本ハ安全ノ平等ハ兵力ノ平等ニ依リ確保セラルト云フモ吾人ハ右理論ハ之ヲ支持シ難シトノ米國代表ノ意見ニ全ク賛成ナリ華府條約ハ太平洋ノ防備ヲ制限シテ日本ノ不脅威不侵略ノ原則ト合致スヘキ安全ノ最良ノ保障ヲ與ヘタリ

日本ハ共通最大限ヲ佛伊ニモ適用シ得ヘシト云フモ然ラハ其ノ他ノ一切ノ國ニモ適用セラレ得サルヘカラス其ノ結果如何ニ責任ノ小ナル國モ平等ノ兵力ヲ建造スルノ權利ヲ得ルノミナラス右建造ヲ間接ニ鼓舞セラレ一般的軍擴ヲ招來スヘシ日本ハ調節ニ依テ之ヲ防止セントスルモノナランモ調節ハ比率ト同意義トナルヘク比率ハ日本ノ外佛伊モ强硬ニ反對セル所ナリ

蘭ノ陳述

軍縮協定ハ各國ニトリ公正ニシテ且其ノ安全ヲ害セサルモノナラサルヘカラサル處日本案ニ依レハ最大ノ必要ヲ有スル國ノミカ其ノ安全ニ必要ノ場合ニ兵力ヲ擴大スル能ハサルコトトナリ不公正ナリ英國ハ日本案ニ依リ軍縮ノ基礎ヲ發見シ能ハサルモ日本カ他ニ代案ナキヤフ協力シテ研究セン事ヲ希望スト結フ

六、次ニ印度(「バトラー」)ハ日本案ニ對スル反對ハ壓倒的ナルモ吾人ハ日本カ吾人ノ共同ノ目的ヲ達スヘキ代案ニ付協力センコトヲ希望スト述ヘタル後

愛蘭(「デューランティー」)ハ量的制限ノ問題ハ五大海軍國ノ問題ナルカ故ニ日本案ニ付テハ何等意見ヲ述ヘサルモ若シ

日本案カ採用セラレタル場合ニハ愛蘭ハ他ノ各國ト同様ノ理論上ノ權利ヲ保有スヘキモノニシテ愛蘭ハ同國カ各國ト同一ノ基礎ニ於テ取扱ハレサル協定ニハ參加シ難シト述ヘ

七、伊國(「ビシア」)ハ一月八日ノ委員會ニテ永野全權カ伊國案第一條ヲ支持セラレタルヲ謝ス吾人ハ日本案ヲ基礎トスル協定ノ可能性ニ付疑ヲ述ヘタルモ日本案ノ基礎タル原則ニハ全ク賛成ナリト述ヘタル上吾人ハ海軍國ニ差等ヲ附スルノ基礎ニ於テ海軍問題ヲ再審議スルノ用意ナク此ノ點日本ト全ク同意見ナリ永野全權ハ共通最大限ヲ基礎トシテ各國特殊ノ必要ニ應シ調節ヲ認ムト云ハレタルカ右ハ如何ニ小ナリトモ差等兵力ノ設定ナリスクテ共通最大限ノ原則ハ確立セラルモ事實ハ比率主義ニ墮スヘク吾人カ日本案ヲ困難トスル所以ナリ吾人ハ日本カ伊國案ニ依リ其ノ目的ヲ達シ得ナルヤフ協力シテ研究セン事ヲ希望スト述ヘ

八、新西蘭(「バー」)ハ日本案ハ英海軍ヲ四〇「パーセント」縮減セントスルモノナルカ斯クテハ英海軍ハ殆ント新西蘭及其ノ貿易ヲ保護スル能ハス新西蘭ハ到底斯カル縮減ニ同意スル能ハスト述ヘ

南阿(「ティ、ウォーター」)ハ量及質ニ關スル一切ノ提案ニ付説明ヲ盡ササルニ付日本案ニ付決定スルハ余ノ好マサル所ナルカ日本案ノ弱點ハ共通最大限ヲ設クルトスルモ右限度ハ日本ヨリモ大ナル權益及責任ヲ有スル國ノ安全ヲ確保スル爲高カラサルヘカラサルコトト爲リ軍縮ト爲ラサル點ニ在リト述ヘ

對南阿ノ反對

伊ノ陳述
日本案ノ基礎原則ニハ賛成其ノ適用ニ付困難ヲ認ム

別問題
問題別
防禦的
兵力の計量總

日本案ニ得サリシコトノ認定
九、最後ニ議長ハ日本案ニ對スル討議ハ今ヤ盡サレタリ會議ノ内外ニ於テ各國代表ハ日本案ヲ極メテ慎重ニ考究シタルモ
余ハ同案カ支持ヲ得サリシ事ヲ認メサルヘカラス尙又日本案ハ主トシテ量的制限ニ關スル處量的制限ハ此ノ會議ノ取扱

（次回ハ一月十六日午後開會ノ事トシ尙今回ニ限り會議ノ内容ヲ公表シ差交ナキ事トシテ六時散會セリ

第四節 帝國ノ會議脫退（一月十五日）

前節ノ通り第一委員會ニ於テ日本案ノ容レラレサルコト明ニセラレタルヲ以テ我方ハ同日（一月十五日）午後七時左記ノ如キ脱退通告文（附屬書第一一號）ヲ第一委員會議長「モンセル」宛送付シ茲ニ會議ヲ脱退セリ

文
以書翰啓上故疾未著本官、本日ノ第一委員會會議ニ於テ海軍軍備ノ全體

支持ヲ得ル能ハサルコト充分明白ト爲リタルニ依リ帝國全權團ハ最早今次會議ノ討議ニ有效ナル協力ヲ繼續シ得スト
ノ結論ニ達シタル旨茲ニ貴議長ニ通報スルノ光榮ヲ有シ候
ノ人、夫矣、ノモナ音圓送ノ以テ宣詔ノ事アリ且ウノ方法タムコトヲ准言ノ居レモノニシテ至テ量内制限ニ關スル

他國ノ提案ニ對シテハ數次開陳セル理由ニ依リ之ニ贊同シ

本官ハ此ノ機會ニ於テ貴議長カ最モ篤實ニ會議ヲ指導セラレタルヲ深ク多トスル旨確言スルト共ニ今次會議參加各全

右申進旁本官ハ茲ニ重ネテ貴議長ニ向テ敬意ヲ表シ候
敬具

委員會議長ノ答翰
月十六日附永野全權宛第一委員會議長「モンセル」書翰（假譯）

〔オザマガ
一
招請〕
1
参加
シタル旨ヲ指摘セラレタル本官宛貴翰ヲ本日ノ海軍會議第一委員會會議ニ提示致候各全權團トモ日本全權團ノ決定ヲ

第一委員會ハ本官ニ對シ日本政府ハ會議ノ事業ト接觸ヲ保チ其ノ進行振ニ付政府ニ報告シ得ル如キ一名又ハ數名ノ「オブザーヴァー」ヲ殘サルル希望ナキヤヲ確ムヘキコトヲ要請致候

右申進旁本官ハ茲ニ重ネテ貴全權ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

招請 參加

第二節 潛水艦使用制限問題

帝國政府ハ藤井代理大使及藤田海軍武官ヲ倫敦海軍會議ヘノ「オブザーヴァー」ニ任命シタル旨茲ニ附言致候右申進旁本官ハ茲ニ重ねテ貴議長ニ向テ敬意ヲ表シ候 敬具

第一節 我方「オブザーヴァー」ノ參加受諾
第一委員會議長ヨリ前顯ノ通一月十六日附帝國全權宛書翰ヲ以テ我方ノ「オブザーヴァー」參加方招請越セルニ對シ帝國政府ハ之ヲ受諾スルニ決シタルヲ以テ一月二十日午後永井全權ハ議長「モンセル」ヲ往訪（「クレーギー」同席）右招請受諾ニ關スル左記書翰（附屬書第一三號）ヲ手交スルト共ニ我方「オブザーヴァー」ハ尠クトモ聯盟ノ「オブザーヴァー」ト同等ノ地位ニ立ツヘキモノナル旨ヲ述ヘタル處「モンセル」ハ勿論其ノ通ナリト答ヘタリ。

一月二十日附永野全權ヨリ第一委員會議長「モンセル」宛書翰（假譯）

以書翰啓上致候陳者本月十六日附貴翰了承帝國政府ハ會議事務ト接觸ヲ保ツヘキ「オブザーヴァー」殘置方ニ關スル御招請ヲ受諾スルコトヲ茲ニ回答スルハ本官ノ光榮トスル所ニ有之候帝國政府ハ右「オブザーヴァー」ハ第一委員會ノ會議及其他重要ナル會議ニ出席スヘキモノト了解致候

帝國政府ハ藤井代理大使及藤田海軍武官ヲ倫敦海軍會議ヘノ「オブザーヴァー」ニ任命シタル旨茲ニ附言致候

約ノ規定ト全然内容ヲ同一トシ且日英米三國間ニ批准ニ要スル正規ノ手續ヲ避ケ得ル如キ形式ノ新文書ヲ作成シ他國ノ
永井「モ
ンセ
ル」
會談
參加ヲ求ムルコトトスル意嚮ナル旨申出テタリ
二、一月二十日永井全權ハ議長「モンセル」ヲ往訪（「クレーギー」同席）訓令ニ基キ「今後會議ニ於テ潛水艦使用制限其
ノ他我方カ贊成シ得ヘキ條項ヲ建艦通報、質的制限等ノ贊成シ得サル事項ト共ニ一括シテ單一ノ協定ト爲シ前者ニ付テ
ノミ我方ノ參加ヲ求メラルカ如キ場合ニハ我方ハ之ヲ受諾シ兼ヌルモノナリ」トノ趣旨ヲ申入レタル處「モンセル」
「クレーギー」共ニ良ク「承セリト答ヘタリ

三、其ノ後一月二十三日「モンセル」ハ永井全權ノ來訪ヲ求メ

- (一) 潛水艦全廢ニ對スル我方意嚮ヲ訊ネタルニ付永井全權ハ全然反對ナル旨答ヘタル處
「モンセル」ハ潛水艦使用制限問題ニ話ヲ轉シ今ノ所別ニ定マリタル日程アル次第ニハ非サルモ同問題議ニ上リタル際ニハ日本政府ニ於テ成ルヘク速ニ處置シ得ル様希望スト述ヘタルニ付永井全權ハ我方準備ノ都合モアルニ付前廣ニ内報アリ度キ旨念ヲ押シ置キタリ

第三節 日米建艦不競争共同宣言問題

一月二十日「デーヴィス」ハ永野永井兩全權ヲ午餐ニ招待セルカ其ノ席上永野全權ニ向ヒ新聞ニ依レハ日本ハ建艦競争ヲ進シテ爲ス意志ナシトノコトナルカ（帝國全權ハ十五日内外新聞記者トノ會見ニ於テ此ノ趣旨ニ關シ應答セリ）量的制限ニ付比率主義共通最大限兩說共ニ行ハレサルニ付自然ニ建艦競争ニ走ルノ惧アリ此ノ際之ヲ豫防スルノ一策トシテ右趣旨ノ共同宣言ヲ爲スコトスルヲ然ルヘシト考フト述ヘタルニ付永野全權ハ右様ノ共同宣言ヲ爲スコトハ自分モ思付居タルカ十三日日英會議ノ空氣ニ鑑ミ之ヲ言ヒ出スヲ差控ヘタル次第ナリト答ヘタリ次テ「デーヴィス」ハ然ラハ新艦種ヲ建造セサルヘキ旨ノ宣言丈ケニテモシ度シト言ヘルカ永野全權ハ今日ニ爲リテハ之ヲ論シ得スト答ヘタリ

第四節 太平洋防備制限條項問題

一月二十三日「モンセル」ハ永井全權ノ來訪ヲ求メ會議ノ際華府條約太平洋防備制限條項ニ言及シ同條項存置方ニ關スル我方ノ意嚮ヲ尋不タルニ付永井全權ハ右ニ付テハ會議ヲ脫退セル今日何等意見ヲ陳フルヲ得サル旨簡單ニ答ヘタル處日本政府ノ意嚮ヲ知リ置クコト會議指導上好都合ナリトテ請訓方ヲ希望セリ

（附記）本件ニ付テハ全權退英後一月十八日藤井代理大使ヨリ帝國政府ニ於テハ本件ニ付單獨ノ協定ヲ爲スコトハ趣旨ニ於テ異存ナキモ協定ノ方法等ニ付テハ更メテ考慮スルコトシタシトノ趣旨ヲ英側へ申入レタルカ其ノ後何等進展ヲ見ルニ至ラサリキ